595-426
120050152763 3
595
26

井土靈山著

新漢詩作法

東京　光文館版

595
426

序

磐城井土靈山。奇士也。作奇詩。著奇文。寫奇字。吐奇語。但以奇行過人。不爲當世所容。退而操觚江湖。東京每日。大阪每日。山陽新報。中國民報。東京每夕。諸報館。請秉筆政。皆不得意而去。余與靈山締交二十餘年。詩酒徵逐。跌宕磊落。或評論古人。慷慨悲憤。或指摘時政。軒昂激厲。不覺壺碎

燭跋到曉。亦奇遇也。靈山著述數種。有好奇之士。往往傳誦之。頃日執筆餘暇。爲初學論述作詩法。命曰新作詩自在。其意欲使靑年子弟知詩賦爲何物。以鼓舞志氣也。蓋以靈山之才之學而爲之。殆不無牛刀割鷄之感。又可謂一奇也。顧使靈山不施奇于廟堂。徒擅奇于江湖。鬚髮蕭疎。老于彫蟲小枝者。果誰之過。抑亦由世之不

好奇乎。奇之不容於世乎。惟有好奇之士知之。而後靈山之奇。將益顯于天下也。嗚呼天之賦奇于靈山亦何奇也。昔揚子雲。識奇字。問之者。必載酒至。想靈山。其今之子雲也歟。余將載酒。胥共痛飲大論天下之奇也。

大正丙辰六月初八識於駿臺澄懷樓

蓄堂仙俠　結城琢

序

井土靈山。袖其著　漢詩自在來。索予一言。靈山雖非專家。亦夙好斯道者。其所述必當親切的確。何須予撿揚乎。在昔學詩者。率據詩語粹金・幼學詩韻。二書徧行。各有續撰。但蒐集語句未廣。且不說法則。靈山此書。補其缺漏。效益豈少小哉。獨恨今之少年輩。覽書不多。比諸前人垂髫。背誦四子五經。傍究史漢諸書。大有逕庭。其學詩。疲困厭倦。往往中道而廢。

雖有才藻者。能及律詩鮮矣。況能自進於古體乎。況能併及於詞曲乎。嗚呼入門而未造其堂。見鼎而未嘗其臧。不若始不學之爲勝也。顧耆宿凋謝。繼而起者。光芒漸短。學詩者盍自奮勵。是不獨爲都門吟壇。亦實爲東洋文學言之也。

昭和二年丁卯初夏　　天隨　久保得二撰

はし書

天皇陛下の顧問たる樞密院議員でさへ、御諮問に對する答方如何に依つては、衆議院から彈劾さるゝ危險がある、斯くまで窮屈千萬な今の世の中に絶對無限の自由を有するものがある、ソレは唯詩である、詩の自由は地理的に云へば縱橫數萬里、時間的に云へば上下數千年を領有して居る、語るべき思想を持たぬ機械同樣の人間は致方なきも、苟くも人間並に語るべき思想の持主たらば、詩の自由鄕に逍遙して、笑ふべくば笑ひ、嘲るべくば嘲り、悲ければ悲み、泣きたければ泣き、以て天帝が我等に賦與したる喜怒愛樂の賜を十二分に享有すべきである。

今のハイカラ者流が詩を社會の一隅に片附ける口實に二ツある、その一は陳腐といふのである、これは近代の詩人が惡いからである、李白でも杜甫でも皆その當時の事を詩に歌ふたのである、別言すれば生き人間が生きた時事を詩で語つたのである、陳腐

なことは少しもない、然るに近代の詩人と云はるゝ作家に李白の如く杜甫の如く眼前の時事を詩題にする生きた作家がないからハイカラ連にすら片附られるやうになつたのである、これは詩の罪でなく作家の罪である、その二は詩は六ケしいといふことだこれは教ゆる人は教へ方を知らす、學ぶ人は學び方を知らぬからの言草に過ぎぬ、一体詩は獨學でやるべきものだ、獨學の方が下手な先生に學ぶよりは却つて上手になれる、斯くてこそ各人の特色ある眞詩が世に現れるのである、李白にも杜甫にも詩の先生なぞといふソンな贅澤物がなかつたのである、詩を六ケしいといふのは學問は凡て注入主義と誤解しての話だ、詩は思想の注入物でなく、その反對に思想の噴出物である、思想だにあれば獨りで噴出し來る、何の六ケしいことがあらう、只學ばねばならぬのは詩の方式と用語位に過ぎぬ。

筆の序を以て詩と文との別を一言しやう、文は文字を正用してその誤りなきを要し、詩は文字を活用してその變を盡くすを要す、文は聲律の拘束なく、字數の制限がない詩は聲律の拘束あり、字數の制限がある、文は流暢詩は含蓄、文は意到り筆到るを貴び詩は語盡きて意盡きざるを貴ぶのである、才氣ある人がその才を擅まゝにすることの出來るのは文よりも詩の方である、と云へばとて鈍物も失望するには及ばぬ、鈍物には又才子の出來ぬ面白いものゝ出來るのは詩の妙所である、故に詩は才子不才子の共有物である、その證據には李白は天才、杜甫は鈍物だが、此兩家は李杜と並び稱せられて百代詩人の兩正宗となつて居るではないか。

（附白　本書は大正五年の舊著で十五版を重れ、大震災に原版を失ひその後絶版であつたが、近頃漢詩流行といふので書肆の求むるまゝ、舊版の一半五絶七絶の部を拔に刊行することゝなつた、末尾に漢詩七絶を追加したのは、漢詩は雄大の氣象に乏しきも、字句の洗錬は又捨てがたい所があつて、參考になるからである。

昭和丁卯五月彈劾討議の日

井土靈山　識

曾國藩の詩眼

國分青厓

曾國藩の一大英斷として我輩の推服する所は、五絕を今體の中より全然除外したる點に在り、十八家詩鈔中五絕は一首も取らず、是れ舊來の詩選と其趣を異にする所にして全く新例に屬す然らば何が故に五絕は一首も取らざりしかと問はゞ我輩は答へて曰はんとす、五絕は古體にして今體に列すべきものに非らざればなりと。

右は「詩書畫」創刊號に所載の一節也、此說に據れば五言絕句は韵字の拘束あるのみにて平仄の拘束なく、本書中に揭げたる平仄式に準據せざるも可也。

漢詩自在目次

緒言……四
七言絕句平仄式……七
例解……八
前對格……一一
後對格……一三
全對格……一五
拗體詩……一九
仄韻詩……二一
通韻詩……二四
冒韻詩……二四
五言絕句平仄式……二五
例解……三〇
絕句の例法……三八
七言絕句の作例……四五
五言絕句の作例……五二
唐以前の小詩……五五
詩の本源……五五
詩の六義……五八
詩の變遷……

（一）總提法　（二）總結法　（三）間架法　（四）兩折法　（五）間對法　（六）扇對法　（七）句中對法　（八）四句散對法　（九）倒裝法　（十）問答法　（十一）疊字法　（十二）四句一意法　（十三）四句四意法　（一四）插間法　（十五）折句法　（十六）上應下呼法　（十七）上呼下應法　（十八）上二字下五字法　（十九）上五字下二字法　（二十）一字四字法

唐詩の歴巻……五九
詩の神髄……六二

春之部……六五
四方拝　元始祭　新年宴會……六五
立春　元日　新年試筆……六七
人日小集　春日偶成……七〇
春日閑居　春日田家……七二
春夜喜雨　春日山莊……七四
春日野望　郊行尋花……七六
三月三日　水亭雅會……七八
春江晩釣　雪江泛舟……八〇
春日懐友人　答友人……八二
春日聞笛　懐郷……八四
春日泛湖……八六
花下小酌　觀花　踏青……八八

春曉　春夢……九〇
紀元節　佳節小集……九二
暮春　客中作……九四
送春　落花……九六

夏之部……九八
初夏田家　山居……九八
客夜聞鵑　懐郷……一〇〇
水亭觀螢　聞蛙……一〇二
梅雨……一〇四
五月泛舟……一〇六
夏日江村……一〇七
山中銷夏……一〇九
池亭觀蓮……一一一
驟雨……一一三
秋之部……一一五
立秋……一一五

七夕小集……一一七
初秋郊行……一一九
秋日訪隠者……一二一
秋日懐人……一二四
中秋……一二六
秋夜閨恨……一二八
客舎聞雁……一三〇
重陽（九月九日）……一三二
觀楓……一三五
賞菊……一三七
天長節……一三九

冬之部……一四一
初冬山居……一四一
冬曉……一四三
至日遊山寺……一四五
雪中作……一四七

雪中探梅……一五〇
冬夜泊舟……一五二
歳暮感懐……一五四

雑部……一五七
壽某太翁……一五七
壽某太孺人……一五九
賀新婚……一六〇
哭友人……一六二
閨怨……一六四
邊詞……一六六
題畫……一六八
贈僧……一七一
贈博士……一七三
贈醫家……一七五
贈書家……一七六
詠松……一七七

詠竹……一八〇
詠梅……一八二
連語……一八五
形容語……一八八
雙字……一九二
虛字……一九九
數目……一九九
故事故典……二〇一
平仄字典……二一三
兩韻一斑……二四一
清詩七絶……二三三
現代名家詩話……二七四

漢詩自在

緒言

紀貫之の古今集序に曰く『花に啼く鶯、水に住む蛙の聲を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける』と、言の葉の國なる日本に在りては三十一文字、文字の國なる漢土に在りては二十字若くは二十八字、共に是れ歌なり、我れに在りては歌と云ひ彼れに在りては詩と云ふも全く同一物なり、鶯の啼き蛙の鳴く已に情に出で、人の歌ひ且つ吟ずる志に出づる

なり。故に書經の舜典に『詩は志を言ふ』とあり。莫の傳には『心の之く所、之れを志といふ。心之く所あれば必ず言に形はる。故に曰く詩は志を言ふ』と。是れ詩歌の娃簸蛔笛と異なりて靈絶妙絶を極むる所以なり。

詩境は濶大也。上下數千載、縱橫幾萬里、天に在りては日月星辰地に在りては草木禽獸人に在りては英雄兒女是れ皆詩の領域なり。靈句以て千載の後に訓ふべく、警句以て一世を戒むべく、奇句以て鬼神を驚かすべく、妙句以て風月を歌ふべし。眼に王侯將相なく、心に貧富榮辱なく、國家の興亡人事の成敗は言ふを俟たず、森羅萬象、悉く詩人筆下の物たらざるは莫し。明一代の詩人高青邱曰く『冥茫たる八極、心兵を遊ばしめ、坐ろに無象をして有聲と作さ令む』と。是れ直ちに造化翁の門を敲いて無言の主人に有聲の語を聞かしむるものにあらずや。李太白の詩を仙語と稱し、李昌谷の詩を鬼語と呼ぶ、良に以ありと謂ふべき也。

和歌に和歌の妙所あり。漢詩に漢詩の長所あり。和歌の妙所を以て漢詩を笑ひ、漢詩の長所を以て和歌を笑ふ。是れ恰かも鴨の短きを以て鶴の長きを嘲り、鶴の長きを以て鴨の短きを嘲けるの類也。長きも妙短きも妙、詩歌豈優劣あらんや。唯之を賦し之を歌ふ題目如何と顧るべきのみ。漢土の人は到底和歌を學ぶ能はざるが如くなるも、日本人は固有の和歌は言ふに及ばず、又漢詩を善くするの特長を有するは古來漢人の驚異する所也。清朝の俞曲園が元和寛永時代より明治の中頃に至る間日本の漢詩四千五百餘篇を選び『東瀛詩選』四十卷補遺四卷を上木したるは獨り東邦の文物を中土に紹介するに止らず、亦他山の石を以て目したるやも知るべからず。曲園時代に於てすら既に然り。今や彼の土の詞壇名家巨匠漸く凋落して、年一年に寂寞を嘆ずるの聲を聞き、或は恐る佛敎の印度に亡びたる如く詩賦の支那に亡ぶるの日あらんことを。東洋最古の文華を喪ふは、正に是れ世界の一大損失也。世界を

して此の損失を免れしむるは世界廣しと雖とも日本人の外復何の國人かある志なくんば已む苟くも文學に志ある人は和歌修ひべし漢詩更に大に修めざるべからず。

（一）七言絶句平仄式

七言絶句は七字を以て一句を爲し四句を以て一篇を成す全篇の文字二十八竹外二十八字詩など稱するは之れが爲めなり其の平仄式左の如し。

仄起式（正格）

起 ●○●●○○●……韻字
承 ○●○●●○○……韻字
轉 ●●○○●●○
結 ○●●○○●……韻字

平起式（偏格）

起 ○●●○○●●……韻字
承 ●○●●○○●……韻字
轉 ●●○○●●○
結 ○●●○○●……韻字

●は平字、○は仄字にして、●は平仄孰れにても可なれども、横に見て●と○と相對するは前者を平字とすれば後者を仄字にし、前者を仄とすれば後者を平字にす。横の一連皆之れに從ふ縱の一連亦同じ。

起句の第二字仄なるを仄起式とし其の平なるを平起式とす。起承轉結の四句とも第二字と第四字と平仄必らず相反し、第二字と第六字とは平仄相同じ。之れを二四不同、二六對と云ふ。されども轉句の下三字○●●を●○●に變するを妨げず、之れを挾聲と云ふ。

上に掲げたる平仄式に於て各句の第一字第三字平仄就れにても可なれども倘制限あり第一字は平頭として各句第一字平の連續するを忌むと其に仄の連續するを忌む又孤平として●○●の如く仄の中間に○の孤立するを忌む七言絶句に於ては第四字の孤平を禁じ五言絶句に在りては第二字の孤平を禁ず平頭と孤平とは◐◑の對法に依つて自から之を避くることを得韻字は轉句を除くの外起承結三句の末尾に押用すべきものにて三字とも同韻の文字に限る例へば一東の韻ならば三字とも東の韻字なるべく二冬の韻ならば三字とも冬の韻字なるを要す但し通韻は例外とす

起句に限り韻字を押用せざることあり之を押落と稱す七言に在りては押落を變例とし五言に在りては押落を常則とす押落の場合には下三字の●○○は○○●に變すべく、◐●○は○●●に變すべし押落にも自から制限あり例解を看よ

冒韻として其の詩に用ひたる韻字と同韻の字を第二字以下に用ゆるを忌む。

以下例解にて右の諸法則を說明すべし。

例解

先づ上に掲げたる平仄式に一字を差へざる作例を示し次に其の變化を例示せん。

贈花卿　杜甫

錦城絲管日紛紛　半入江風半入雲

此曲祇應天上有　人間能得幾回聞

此詩第二字平なるを以て平起式とす紛雲聞の三字は押韻にて共に十二文の韻なり一首の中に同一文字を用ゆるは之を忌むと雖ども紛の如き雙字又は半入の如き疊用法に於ては重複するを妨げず。

逢吳秀才復歸江上　高啓

江上停舟問客蹤　亂前相別亂餘逢
暫時握手還分手　暮雨南陵水寺鐘

此詩第二字仄なるが故仄起式なり、蹤逢鐘の三字は押韻にて其に二多の韻なり、亂前亂餘及ひ握手分手は前例の手入の疊用法と同一にて重出を厭はざる也。

前對格

前對格とは起承の二句を對句にするものにて押落とするを常則とす、其の例左の如し。

湖上初雨　東坡

水光瀲灩晴偏好　山色空濛雨亦奇
欲把西湖比西子　淡粧濃抹兩相宜

有約　司馬光

黃梅時節家家雨　青草池塘處處蛙
有約不來過夜半　閑敲棋子落燈花

贈石敏若　黃庭堅

才似謫仙椎鋉酒　情如宋玉更逢秋
相看頓會一談勝　注目長江天際流

自嘲　陸游

清心不醉猩猩酒　省事那營燕燕巢
惟有著書殊未厭　暮年鐵硯亦成凹

宮詞　林洪

殿上衰衣明日月　視中旌影動龍蛇
綴賦禮樂三千字　獨對丹墀日未斜

上高侍郎　高蟾

天上碧桃和露種　日邊紅杏倚雲栽
芙蓉生在秋江上　不向東風怨未開

山店　盧綸

登登山路何時盡　決決溪流到處聞
風動葉聲山犬吠　幾家松火隔秋雲

寧川驛舍　韋岳

韓岡路轉六七里　林靜鳥晴三四聲
遊女不知千里恨　一茶留我話平生

是等の詩は皆前對格なるが故押落としたるなり。他に尙押落の例あり。

無言亭　東坡

慇懃稽首維摩詰　敢問如何是法門
彈指未終千偈了　向人還道本無言

桃源詞　施肩吾

秦世老翁歸漢世　還同白鶴返遼城
縱令記得山川路　莫問當時州縣名

三月晦日贈劉評事　賈島

三月正當三十日　風光別我苦吟身
共君今夜不須睡　未到曉鐘猶是春

靈岩寺　趙嘏

館娃宮畔千年寺　水泗雲多客到稀
聞說春來倍惆悵　百花深處一僧歸

題靈峰寺　東坡

靈峰山下資陀寺　依稀猶記妙高臺
白髮東坡又到來　前世德雲今我是

是等の詩は人名時代歳月寺院等に係るを以て押落としたるなり。是等の外奇警の句を得て他に變更すべからざる場合に押落とす。左の如き其の適例なり。

讀老子　白居易

言者不知知者默　此語吾聞於老君
此詩の第一句一篇の骨子奇警他に換ふべきなし。此くの如くにして始めて眞の押落たるを得べし。特に今時の押落を濫用する者を警醒す。但し此詩の平仄法は拗體なり。後節に說く。

後對格

平仄法の說明には關係なきも、押落の作例として前に前對格を掲げたるを以て茲に後對格の作例を示すべし。後對は轉結二句の對句にて結ぶを以て對結と稱す。

中秋　杜牧

蒼雲收盡溢清寒　銀漢無聲轉玉盤　此生此夜不長好　明月明年何處看

早春　白玉蟾

南枝纔放兩三花　雪裏吟香弄粉些　淡着煙濃着月　深籠水淺籠沙

絕句　僧志南

古木陰中繫短篷　杖藜扶我過橋東　沽衣欲濕杏花雨　吹面不寒楊柳風

全對格

全對格は起承及び轉結ともに對句に作るものにて前對格と同じく押落にするを常則とすれども押落にせざる例外もあり。

絕句　杜甫

兩箇黃鸝鳴翠柳　一行白鷺上青天　窗含西嶺千秋雪　門泊東吳萬里船

漫興　杜甫

腸斷春江欲盡頭　杖藜徐步立芳洲　顚狂柳絮隨風舞　輕薄桃花逐水流

尋花　同

黃四娘家花滿溪　千朵萬朵壓枝低　留連戲蝶時時舞　自在嬌鶯恰恰啼

永王東巡歌　李白

王出三山按五湖　樓船跨海次揚都　戰艦森森羅虎士　征帆一一引龍駒

春宵　寒坡

春宵一刻值千金　花有清香月有陰　歌管樓臺聲細細　鞦韆院落夜沈沈

茅簷　王安石

茅簷常掃淨無苦　花木成蹊手自栽　一水護田將綠遶　兩山排闥送青來

雪梅　盧梅坡

雪守春未肯降　騷人閣筆費評章　梅須遜雪三分白　雪却輸梅一段香

夔州歌　同

白帝夔州各異城　蜀江楚峽混殊名
英雄割據非天意　霸王幷呑在物情

漢陰庭樹　同

掘得引水澆疏圃　挿竹爲籬護衆苗
柳絮如絲風易亂　梅花似雪日難銷
東坡

白水滿時雙鷺下　綠槐高處一蟬吟
酒醒門外三竿日　風見溪南十畝陰
同

玉絲羹

香似龍涎仍嚴白　味如牛乳更全清
莫將南海金齏膾　輕比東坡玉糝羹
劉長卿

過鄭山人所居

寂寂孤甍暗香園　寥寥一犬吠桃源
落花芳草無尋處　萬壑千峰獨閉門
贈五羊太守　邱濬

碧晴螳蜋領裳布　黒面胡兒耳帶環
竹根稚子無人見　沙上飛雛傍母眠
幾處樓臺皆枕水　四周城郭半園山

翠微山居　僧仲邕

一池荷葉衣無盡　數樹松花食有餘
却被世人知去處　更移茅屋作深居

以上は何れも押落にしたるものなり左に押落ならざる例外を示さん。

漫興　杜甫

總經楊花鋪白氈　點溪荷葉疊青錢
筍根稚子無人見　沙上飛雛傍母眠

喜聞盜賊蕃寇總口號　同

薊門隴水入官軍　青海黄河捲塞雲
北極轉愁龍虎氣　西戎休縦犬羊群

拗體詩

七言絶句の平仄定式の外に、拗體と稱する破格の平仄法あり、先づ其の普通なるもの、左の如し。

起　◐○○◑◑◐○○……韻

承 ●●○●●○●●○……韻
轉 ●○●●○○●●
結 ●●●○●●○……韻

前半は普通の平起式の平仄法にして、後半は仄起式の平仄法を用ふるものなり、今其の作例を擧げん。

滁州西澗　韋應物

獨憐幽草澗邊生　上有黃鸝深樹鳴　春潮帶雨晩來急　野渡無人舟自橫

此一首は前掲の拗體平仄式に據れるものなり。

起 ●●○●●○●●○……韻
承 ○○●●●○○……韻
轉 ●●○○●●●
結 ○●●●○○●……韻

前半は普通の仄起式の平仄法にして、後半は平起式の平仄法な左の如し。

上皇西巡南京歌二首　李白

誰道君王行路難　六龍西幸萬人歡　地轉錦江成渭水　天廻玉壘作長安
劍閣重關蜀北門　上皇歸馬若雲屯　少帝長安閟紫極　健兒日月照乾坤

其二

此二首前掲の平仄法に一字を差へざるものなり、右二式は二四不同二六對の原則を確守するものにして、拗體中の拗句法と云ふ。

又拗字法と云ふあり、其の最とも多く用ゐらるゝもの二あり、其の第一例は轉句の下三字○●●を●○●とす、即ち第五字平と第六字仄とを轉換するなり、其の第二例は轉句の下三字を●○●とし結句の下三字を○●○として相對立せしむ、即ち轉句の第五字平と結句の第五字仄とを轉換するなり、

右拗字法○○●●●の例左の如し、但し全首を擧ぐるの煩を省き適例の一句のみを擧ぐ。

夜發清溪向三峽　李白
我寄愁心與明月　同
正是江南好風景　杜甫
羌笛何須怨楊柳　王之渙
欲把西湖比西子　東坡

次に拗字法●●○○●●○（轉句對立）の例左の如し、但し適例二句のみを擧ぐ。

「孤帆遠影碧空盡」　李白
催見長江天際流」
「高歌一曲掩明鏡」　許渾
昨日少年今白頭」

「此生此夜不長好」　杜牧
明月明年何處看」

右二種の拗字法は廣く行はるゝものなれば初學特に記憶を要す。

結襪子

燕南壯士吳門豪　筑中置鉛魚隱刀
贈楊錬師一

道士夜誦謎珠經　白鶴下繞香烟聽
贈溶

夜深經盡人上鵲　天風吹入秋冥冥
此二首の如きは近體の平仄式に合ふもの一句もなし此の如き拗體は古調を帶びて始めて可とす、而かも其の平仄法は自から定則あり下卷古詩平仄の部を參照すべし。

七言絕句は平韻を押用するを常則とす、若し仄韻を用ふる時は其の平仄式は普通の絕句と同じからず次に其の作例を示さん。

遊三遊湖一　東坡

凍雨霏霏成雪　遊人凜冷蒼崖滑
不醉携壺庶眠　洞口雲深夜無月

題龍源西齋一　李郡玉

寂寞幽齋隈煙起　滿徑西風蒼松子
遠公一去兜率宮　唯有門前虎溪水

前山中叟一　施肩吾

老叟今年八十餘　口中零落齒牙疎
天陰偃僕帶嗽行　猶向巖前種松子

詠初日一　宋太祖

太陽初日光赫赫　千山萬水如火發
一輪頃刻上天衢　逐退群星與殘月

步虛詞　高啓

清溪道士人不識　上天下天鶴一隻
洞門深鎖碧窓寒　滴露研朱點周易

繡嶺宮

春草萋萋春水綠　野棠開盡薰香玉

繡嶺宮前鶴髪翁　猶唱開元太平曲

洞

蜀山書舍圖　高啓

山月蒼蒼照煙樹　碧浪湖頭放船去
隔林夜半見孤燈　知是幽人讀書處

前數首の詩一首として普通の平仄式に合ふものあらず要するに仄韻の絕句は其の平仄を拗せざれば格に入らざるなり然るに邦人仄韻の絕句を作り其の平仄猶今體の定式を株守するものあり何ぞ意を用ひざるの甚しきや。

通韻詩

韻字は轉句を除くの外起承結の三句共に一韻を押用するを常則とす、されども通韻なるものあり之を同一韻と看做して押用す、左に二三の例を擧げ

ん韻字の排東を音にして通韻を濫用するなくんば可也。

井欄砂邊夜客　　李　渉

暮雨蕭蕭江上村　綠林豪客夜知聞　他時不用逃名姓　世上如今半是君

楓橋　　張　繼

白髮重來一夢中　青山不改舊時容　烏啼霜落寒山寺　欹枕猶聽半夜鐘

此二首は起句に通韻を用ひたるものなり。卽ち前首は十二文の韻に十三元の韻村字を通韻として用ひ後首は二冬の韻に一東の韻中字を通韻として用ひたるなり。韻山陽の鞭辟裏痛々の如きも起句に通韻を用ひたる例にて六麻の韻牙蛇に對して五歌の韻河を起句に用ひたるものなり。

回鄉偶書　　賀知章

少小離家老大回　鄉音無改鬢毛衰　兒童相見不相識　笑問客從何處來

永王東巡歌　　李　白

翻龍浮海不成橋　漢武洋陽空射蛟　我王樓船輕棄漢　却似文皇欲渡遼

此二首は承句に通韻を用ひたる例なり。

中夏昔臥　　劉　禹

寂寂無聊九夏中　傍簷依壁待清風　壯圖奇策無人問　不及南陽一臥龍

呼陀河　　范成大

聞道河神解遣氷　曾扶陽九見中興　如今爛嚼胡塵洗　不似滄浪可濯纓

此二首は結句に通韻を用ふ。

次韻答寶覺　　東　坡

芒鞋竹杖布行纏　遮莫千山又萬山　從來無脚不解滑　誰信石頭行路難

開鶯　　楊　萬里

曉寒顧影惜金衣　著意聽時不肯啼　飛入柳陰多處去　歙聲只許落花知

此二首は各句皆通韻を用ひたる極端の例にして前首は先刪塞の通韻後首

は微齊支の通韻なり、此の如きは初學の模すべき好例にあらず。

冒韻詩

韻脚と同韻の字を第二字以下に用ふるを冒韻と云ふ。

逢鄭三遊山　　盧　同

相逢之處草茸茸　船壁擲峯千萬重　他日期君何處好　寒流石上一株松

此詩の相逢の逢字、擲峯の峯字共に二冬の韻にて韻脚の茸重松の三字と同韻なり、此の如き使用法は詩家の忌むべき所なり、轉結は佳なれども起承の如き冒韻は、初學の避くべき例として特に之を掲ぐ。

(二)　五言絶句平仄式

五言絶句の平仄式左の如し。

仄起式(正格)

起 ◑◉○○◉
承 ◉○◑◉○……韻字
轉 ◉○○◑◉
結 ◑◉◉○○……韻字

平起式(偏格)

起 ◐○○◉◉
承 ◐◉◉○○……韻字
轉 ◑◉◉○◉
結 ◐○◑◉○……韻字

例解

五言絶句に在りては押落しを常則とし、又第二字の孤平を忌む。

勞勞亭　　李　白

天下傷心處。勞勞送客亭。
春風知別苦。不遣柳條青。

田家春望　　高　適

出門何所見。春色滿平蕪。
可歎無知己。高陽一酒徒。

右二首前者は仄起、後者は平起にて平仄一字を差へす定式に合ふものなり。

夕陽　　陸龜蒙

渡口和帆落。城邊滯角收。
如何茂陵客。江上倚高樓。

此詩仄起式なり轉句の下○●●●●とすべきを●○●●●と爲す、卽ち第三字と第四字を轉換したる拗字法の一例也。

寄僧　　張　籍

松暗水涓涓。夜涼人未眠。
西峯月猶在。遺憶草堂前。

前詩と同じく仄起式なれども起句韻を押む是れ變例なり轉句は前詩と同じく第三字と第四字を轉換したるものなり。

送張四　　王昌齡

裊林已愁暮。楚水復堪悲。
別後冷山月。清猿無斷時。

是れ平起式なり起句○○●●●●●とすべきを○○●●○●●と爲す前例の如く茂陵客と西峯月猶在とに同じ又轉句●●○●●○●とすべきを別後冷山月と爲すも結句○○●●●○●とすべきを清猿無斷時と爲したるを以て彼此相救ふを以て可と爲す此くの如く五言の句中に仄四平一又は平四仄一は普通忌むべきも唯兩句相對して上下相救ふ時は可なり。

答裴迪　　祿祿

蒼蒼秋雨降。君臥終南山。
心知白雲外。

此詩の轉結は○○●●●●●○○とするを正式とすべし然るに肝要の第二字平仄相反對するのみならず終南山の三平を用ひて定式を變更す此

の如きを拗體と云ふなり五言絶句の仄韻には拗體多し、否な仄韻は普通の平仄式に據らざるを常則とす左に數例を擧げて初學の細觀に供す。

孟城拗　王維

新家孟城口　古木餘衰柳
來者復爲誰　空悲昔人有

辛夷塢　同

木末芙蓉花　山中發紅萼
澗戸寂無人　紛紛開且落

宿永陽寄璨師　章應物

遙知郡齋夜　凍雪封松竹
時有山僧來　懸燈獨自宿

芙蓉花山僧來獨自宿の如き平三連仄三連は古詩の調ある拗體に在りては却て可なれども普通の絶句には嚴として用ふべからず。

○○●●●に對するに●●○○●を以てし●●○○●に對するに○○●●○を以てし上下十字を二聯と云ふ之れを五言正格の聲律とす、一字若くは數字其の平仄を變換すれば卽ち拗體と成る三江潮水急五湖風浪湧の如き第二字の江と湖との如く共に平字にして平仄相對するの定式を失ふを失粘と云ふ。

洛堤曉行　駱賓王

馬度廣川流　驅馬歷長洲
鳥飛山月曙　蟬噪野風秋

此第二句元來○○●●○に作るべきを○●●○○とす是れ失粘なり是等拗體は初學漫に模すべからず。

平蕃曲　劉長卿

渺渺戍煙孤　茫茫塞草枯
隴頭胡用閉　萬里不防胡

征夫詞　劉績

征婦語征夫　有身當殉國
君爲塞下土　妾作城頭石

此二首前首は起承の對句を以て起し後首は轉結の對句を以て結べり是れ

既に七言に於て見たる所の前對格と後對格なり。

題齋安壁　王安石

日浮山如染　風暄草欲薰
ヒサヤマシテトシンジルゴトシ　カゼアタタカニシテクサカオラントス

梅殘數點雪　麥長一溪雲
ムメノコスエクワンノユキ　ムギノナガキハイチケイノクモ

登鶴雀樓　王之渙

白日依山盡　黄河入海流
ハクジツヤマニヨリテツキ　オウガウミニイリテナガル

欲窮千里目　更上一層樓
センリノメヲキワメント　サラニイッソウロウノボル

此二首は共に四句全對格なり。

絶句の作法

佐藤一齋は作文法を塾生に教ゆるに奥州の伯樂が馬代儘促文を擧げて雙扇法を説き又賴山陽は作詩法を塾生に教ゆるに本町二丁目絲屋の娘の俗諺を擧げて轉結法を説きたりとか、初學に對する入門として妙は則ち妙なり然れども先入主と爲るは免るべからざる所にして、此簡單なる注入教育は終に自發的工夫を窒塞せしむるの憂あらん、寧ろ種々の作法あることを言ひ自發の工夫あらしむるの優れるに若かず。

周弼が一家の作法として三體詩に掲出したる絶句の作法は(一)實接法(二)虛接法(三)用事法(四)前對體(五)後對體(六)拗體即ち是れ也實接虛接の二法は第三句即ち轉句を主とし、此一句を實事又は虛語を點出して、前二句の意を轉換し、第四句の結束に力あらしむるの作法あり、是れ確に重要なる作法の一たるを失はず、其詳かなるは三體詩に就て學ぶべし、前對後對及び拗體は已に前に例示したるを以て又説くの要なし。

周弼の詩法は一體として學ぶべし然れども同時に詩法詩弦に盡くと思ふべからず今左に作法の概略を擧げて初學啓發の一端に供すべし。

(一)總提法　是れ第一句を總提として以下三句にて敍述する也其の例として故人西辭黄鶴樓　煙花三月下揚州　孤帆遠影碧空盡　惟見長江天

『際流』の如き是れ也。

(二)總結法　是れ殆んと前者と反對にて第三句を以て總結と爲すものなり、其の例として『葡萄美酒夜光杯。欲飲琵琶馬上催。醉臥沙場君莫笑。古來征戰幾人回』の如き是れ也。

(三)間架法　是れ恰かも總提法と總結法とを竝立せしめて中間二句を間架と爲したる如きものなり、其の例としては『盧山東南五老峰。青天削出金芙蓉。九江秀色可攬結。吾將此地巢雲松』の如き是れ也。

(四)兩折法　前二句を一折とし後二句を一折とするなり、例へば『獨憐幽草澗邊生。上有黃鸝深樹鳴。春潮帶雨晩來急。野渡無人舟自橫』の如き、前二句は地上の景を言ひ後二句は水面の景を言ふ、前後兩折を見るべし、序を以て一言す、王漁洋は此詩を解して君子下に在り小人上に在るの象と爲すを迂腐の穿鑿として斥け、此を以て詩を論ず、豈復風雅

あらんやと云ふ。

(五)間對法　前對格後對格、全對格は上文に例示したるを以て復說かず、其の外間對法なるものあり、第二句と第三句と相對する是れ也、其の例『越王句踐破吳歸。戰士還家盡錦衣。宮女如花滿春殿。祇今惟有鷓鴣飛』の如き是れ也。

(六)扇對法　是れ句を隔てゝ相對す、即ち隔句對なり、其の例『去年花下留連飮。暖日天桃鶯亂啼。今日江邊容易別。淡煙衰草馬頻嘶』の如く、第一句去年の句と第三句今日の句と相對し第二句暖日の句と第四句淡煙の句と相對するなり。

(七)句中對法　對句は二句相對して成るを常とするも一句中にも亦對法あり之を句中對と云ふ、例へは『江碧鳥逾白』の如き碧白二字相對し『半篙春水一蓑煙』の如き半篙一蓑相對し『萬頃煙波一釣翁』の如き

萬頃一鈎相對するを見るべし。

(八)四句散對法　四句相對する如くして對せず相對せざる如くして相對するを云ふ、『白白紅紅相間開。三三五五踏青來。戲隨胡蝶不知遠。驚見行人笑却廻』の類也此等には前半散對法後半散對法もありと知るべし。

(九)倒裝法　其の例として有名なるは杜甫の句『紅稻啄殘鸚鵡粒。碧梧栖老鳳凰枝』なり、此句は順當にすれば鸚鵡啄殘紅稻粒。鳳凰栖老碧梧枝といふべきを倒裝したるなり。

(十)問答法　此法には數種あり、第一は四句設問法なり、六言の詩『門外水流何處。天邊柳遶誰家。山絕東西多少。朝朝幾度雲遮』と云ふが如き、何處誰家多少幾度四句設問體なり、第二は前二句問答法なり、『問余何事栖碧山。笑而不答心自閒』の如き、又『問山何以名靈隱。山曰當年匡廬許由』の如き起承二句是れなり、第三は後二句問答法なり、『借問漢宮誰得似。可憐飛燕倚新粧』の如き、『借問酒家何處有。牧童遙指杏花村』の如き轉結二句是れ也。

(十一)疊字法　此法數樣あり、『山外青山樓外樓。西湖歌舞幾時休。暖風薰得遊人醉。直把杭州作汴州』の如き、『有梅無雪不精神。有雪無詩俗了人』の如き、『萬松嶺上一間屋。老僧半間雲半間』の如き、『人老簪花不自羞。花應羞上老人頭』の如き、『北畔是山南畔海。祇堪畫圖不堪行』の如き『盡日問花花不語。爲誰零落爲誰開』の如き、『對山終日無佳句。山不負予予負山』の如き、『東風綠盡江南柳。半是春愁半客愁』又『柳條折盡花飛盡。借問行人歸不歸』の如きあり是れ皆疊字の法なり。

(十二)四句一意法　四句にて一事を述ぶる也其の例として『漫水復漫水

潭花還羅花。春風江上路。不覺到君家』の如き又『江水三千里。家
書十五行。行行無他語。唯道早還鄉』の如き是れ也。

(十三)四句四意法　四句各別々の事を述ぶる也其の例『春水滿四澤。夏
雲多奇峯。秋月揚明輝。冬嶺秀孤松』の如き『遲日江山麗。春風花
草香。泥融飛燕子。沙煖睡鴛鴦』の如き是れ也。

(十四)拆開法　例へば風吹の二字を拆開して『昨日春風猶不在。就床吹
落讀殘書』の如き、『何事春風容不得。和鶯吹折數枝花』の如きあり、
待歸の二字を拆開して『始憐幽竹山窓下。不改清陰待我歸』の如き、
『唯有小園桃李在。曾花不發待郎歸』の如きあり、水流の二字を拆開して
『一溪春水護寒碧。流出紅桃幾片花』の如き、『一篇孤艇橫湖水。即逐
流花下別溪』の如き、『行人莫過宮前水。流盡年光是此聲』の如きあ
も拆開の法最も變化に富む學者の宜しく力を用ふべき所也。

(十五)拆句法　上三字下四字の句法を云ふ其の例として『靜愛竹時來野
寺。獨尋春偶過溪橋』の如き是れ也。

(十六)上應下呼法　下の三字上の四字を解說するの法也例へば『素練抹
林雲氣薄。明珠穿草露華新』の如し。

(十七)上呼下應法　上の四字にて呼び起し下の三字にて應ずるの法也例
へば『林花着雨臙脂落。水荇牽風翠帶長』の如し。

(十八)上二字下五字法　其の例『世亂鬱鬱久爲客。路難悠悠長傍人』の
如し。

(十九)上五字下二字法　其の例『永夜角聲悲自語。中天月色好誰看』の
如し。

(二十)上一字下四字法　其の例『青惜峯巒過。黃知橘柚來』の如し。

右の外藏詠法にて雨の詩に雨の字を着けざるが如き借喩法にて海棠の詩

にて貴妃を言ふが如き流水法にて對句を行雲流水の如くするあり輸語法にて輸語鬼脈を破るが如くするあり其の他廻文法あり叉概括的に換骨奪胎法あり黄山谷の曰く、詩意窮りなく而かも人の才には限りあり限りある人の才を以て窮りなきの意を追ふ淵明少陵と雖ども工なるを得ず其意を易へずして其語を造る之を換骨法と謂ひ其意を規摹して之を形容する之を奪胎法と謂ふと三體詩に載する所の用事格其に十一首は大抵奪胎換骨法にして、故を以て新と爲すの翻案法なり就て翻るべし。

七言の作例

李滄溟が唐詩選の序に李太白を評して五七言絶句に至りては實に唐三百年の一人なり蓋し不用意を以て之を得と曰ふ太白の絶句に於けるやハイカラ的に云へば確に天才也既に局促たる作法を說きたる後に此天馬空を

行く如き大詩人を拉し來りて作例に供するは將に法度に囚はれんとする初學をして忽然法度の主人公たらしめんと欲するに外ならず作例の偏するを怪しみ給ふな。

越中懷古

李白

越王句踐破吳歸。戰士還家盡錦衣。宮女如花滿春殿。只今惟有鷓鴣飛。

越王句踐が吳に勝つて凱旋するや其將士戰功によりて盡く錦衣玉食の榮華を占め越王の宮中妃嬪姿花の如く春風に翺翔し歌樂を極めたるも今や其宮殿も美人も亡びて見えず唯鷓鴣の飛ぶあるのみと榮華の夢覺めて蕭條たる陳迹を餘せる光景を寫し人をして一讀感慨の情に堪えざらしむ此詩承轉の二句を對句とし一氣に其得意を說き結一句激弔感傷の意を逸ふ作法頗る奇なり。

鷓鴣一に越雉と呼ぶ小斑鳩に類す應前白團點あり常に日に向ひて飛び霜

露を畏れて朝夕出ること稀なり、林逋の詩に曰く、林木叫鉤輈と鉤輈は其鳴く聲なり、此詩一語の議論を着ずして榮枯興亡の理を說き人をして感慨措く能はざらしむ。

春夜洛城聞笛　同

誰家玉笛暗飛聲、散入春風滿洛城、此夜曲中聞折柳、何人不起故園情、

楊齊賢曰く李延年笛吹二十八解中に折楊柳の一曲あり、折柳を聞きて別を傷む故に愴故園に切なり、本是れ我より情を起し却つて聞く者何人か起さざらんと說く、豈人々な別情あらんや、紙散して春風に入り滿城聽き得るがためのみと潘稼堂曰く、此れ黃鶴樓の詩と異なり、黃鶴樓は是れ歸を思うて又笛を聞く、此は是れ笛を聞て始めて歸を思ふなり、笛中折柳の曲あるによりて忽ち憶ふ此時柳眞に折るに堪えたり、春にして未だ歸らず、能く故國を念はざらんと。

樂史郎中欽悲黃鶴樓上吹笛　同

一聲遷客去長沙、西望長安不見家、黃鶴樓中吹玉笛、江城五月落梅花、

落梅花は笛の曲名なり、詩意笛を聽きて長安を懷ひ謫居の情咏嘗餘たるを述るに過ぎず、五月落梅花の五月を三月若くは九月其他の月に改むれば詩意と詩調とに於て大に興趣を減ぜん、王漁洋の詩話に、『五月臨平山下路、蘋花無數滿汀洲』六月と改むれば便ち佳ならずと云ふも亦此に同じ、此處理を以て說くべからず、笛中の消息を解する者に非れば詩を作るも進境無からんとす。

答潮州迦葉司馬問白是何人　同

青蓮居士謫仙人、酒肆藏名三十秦、湖州司馬何須問、金粟如來是後身、

嚴滄浪曰く問ふ人の迦葉たるにより故らに此答を爲す不ざれば則ち誕妄たらんと。

青蓮居士は太白の自號なり發迹經に曰ふ淨名大士は是れ古の金粟如來なりと。

陪族叔刑部侍郎曄及中書舍人王遊涇座

洞庭西望楚江分、水盡南天不見雲。
日落長沙秋色遠、不知何處弔湘君。

同

劉須溪曰く、其長ずる所此にあり他人必らず及ぶ能はず。

故英曰く、緩景宏濶湖山を呑吐するの氣あり、落句感慨の情深し。

鍾伯敬曰く、末句正に秋色の遠きを形容するのみ誤まり認めて湘君の事となすかれ。

望天門山

天門中斷楚江開、碧水東流至此廻。
兩岸青山相對出、孤帆一片日邊來。

同

胡元瑞曰く、此れ及び朝辭白帝等の作倶に自然を極め洵に神品に屬す以て一代に壇場たるに足る。

毛西河曰く梁山博望の夾峙により江水此に至り一廻旋す時刻此を誤まりて北に作る、既に東し又北し、既に北して又廻る、已に句調に乖き、衆て義理を失ふ。

天門山は湖北安陸府天門縣にあり、一に火門山といふ、漢の光武火を擧げて夜度る故に名くと。

天門山又蛾眉山と名く、二山大江を夾み對峙し、東を博望といひ、西を梁山といふ。

宣城見杜鵑花

蜀國曾聞子規鳥、宣城還見杜鵑花。
一叫一廻腸一斷、三春三月憶三巴。

同

唐宋詩醇に云ふ、諺の如く、諺の如く、却つて是れ絕句の本色之に效へば則ち瘦と。

王翼雲曰く子規一名杜鵑蜀中最も多し春暮則ち鳴く聞くもの悽惻杜鵑花

處々之あり、卽ち今の映山紅也。二三月中杜鵑鳴く時を以て盛に開く故に名く映山紅とは邦俗或は霧島と云ふ。

宣城は今の安徽省寧國府宣城縣の地なり。杜鵑を聽きて蜀を憶ふなり。一叫一廻三春三月對句を以て結ぶ。亦遊戲の筆墨なり。

江南逢李龜年　杜甫

岐王宅裏尋常見。崔九堂前幾度聞。正是江南好風景。落花時節又逢君。

岐王は唐の宗室崔九は貴紳李龜年は玄宗の恩寵ありし伶人杜甫は此伶人を岐王の邸にも見崔九の邸にも其奏樂を聞きて平生相知る所安祿山の亂に天子は蒙塵し宗室貴戚も流落す。今日測らずも此江南にて邂逅す。地は名勝時は春而かも亂後の感慨なき能はず尙且つ一涙字を着げす。起承二句過去を敍して轉結絶外に餘あらしむ。杜詩七言の絶唱と云ふ。

從軍行　王昌齡

秦時明月漢時關。萬里長征人未還。唯使龍城飛將在。不敎胡馬度陰山。

秦時の明月も漢時の關も兵役あり。今も猶然り。龍城に飛將あらしめば胡馬をして陰山を度らしむること莫かるべきにとなり。龍城は本と匈奴の築く所。飛將は名將李廣のこと。匈奴號して飛將軍と曰ふ。李洽渼は此詩を唐七絶の壓卷と爲す。

五言の作例

茲に揭ぐる五絶は悉く漁洋の唐人萬首絶句中より抄錄する所。其初學の模範たるは言ふまでもなし。尙終りに唐以前の小詩を選び近體の淵源を知らしむ。

長干曲　崔顥

家臨九江水。來去九江側。同是長干人。生小不相識。

長干は『梁京寺紀』に健康の南五里山岡あり其間の平地庶民雑居し大長干小長干東長干あり梁の初長干寺を起すとあり蓋し長干と九江とは相距る遠し但長江の舟楫によりて遙に相來往するを得而して長干里は古妓樓のありし所歌舞盛なりしを以て長干曲は其遺曲子夜吳歌の流ならん詩意は九江の女長干の妓となりしもの其鄉人に遊遨して贈れる歌に擬したるものならん。

題僧房

王昌齡

棕櫚花滿院。苔蘚入門房。彼此名言絕。空中聞異香。

起承二句は僧房幽寂の景趣を寫す彼此は主客を指す名言絕は形式的語言を廢して默々相對するなり禪理無言にして領解する所あると同じ空中聞異香は卽ち心に感得するあるを云ふ此詩禪の悟道を述べ全く言語の解する所にあらず此等の詩卽ち詩禪一致の妙あり。

朝來曲

王昌齡

日昃鳴珂動。花連繡戸春。盤龍玉臺鏡。唯待畫眉人。

一二の句は對聯なり日昃きて鳴珂動くは日暮近く美人の扮裝漸く成りて屢佩の玉鳴るを云ふ花連繡戸春は殿前の春色酣なるなり盤龍は粧奩の鏡を飾る彫刻なり卽ち明鏡晃々として美人の眉を畫くを待つ蓋し美人の晩粧を詠ずるなり。

閒居

高適

柳色驚心事。春風厭索居。方知一杯酒。猶勝百家書。

楊柳の青青たるを見て歲月の速かなるに驚く駘蕩たる春色に辜負せる閒居を厭ひ酒を呼び心を遣む此時の情味一杯の酒百家の書を讀むに勝るの快ありとなり轉結對聯卽ち對結の格なり。

見渭水思秦川

岑參

渭水東流去。　何時到雍州。　憑添一行淚。　寄向故園流。

雍州は長安の地なり享保の詩人土肥允仲京師の故人に寄する詩に云ふ、一別音書斷相思秦地秋欲將雙淚寄墨水不西流と蓋し此詩に擬するなり秦地は京都を指す然れども墨水と秦地一首二十字の中和漢の地名を混用す拙亦甚し。

洛陽道　　儲光羲

大道直如髮。　春日佳氣多。　五陵貴公子。　雙雙鳴玉珂。

洛陽の貴公子春に乘じて行樂徘徊するさまを詠ぜるなり春日佳氣多前首の何時到雍州と共に平仄定式に入らず。

別輞川　　王縉

山月曉仍在。　林風涼不絕。　感懷如有憶。　惆悵令人別。

山月曉風徐情ありて感懷別を惜むが如く人をして惆悵たらしむるを云ふ、

造句の變化以て推すべし輞川は王維の別墅のある處王縉は維の弟なり其實兄に別れて戀々の情あるなり。

秋夜寄丘員外　　韋應物

懷君屬秋夜。　散步詠涼天。　山空松子落。　幽人應未眠。

空山松子の落るを聽くは其寂寞を云ふなり而して幽人の未だ眠らざるを懷ふ、作者の無聊亦知るべし。

江行無題　　饒起巖

行舟靜山郭。　吟賞白露秋。　風流無屈宋。　空詠古荊州。

荊州は楚の國なり屈原宋玉の在りし地なり今其風流を續ぐ人無きを歎ずるなり此詩と次の詩と共に前對格なり。

感懷　　張繼

調與時人背。　心將靜者論。　終年帝城裏。　不識五侯門。

帝城の中に住して心隱者の如く、其作る所時俗の調に背き貴人の門に出入せず、其抱負の高きこと知るべし、將の字ト共も訓ず與と同じ。

塞下曲　　盧綸

月黑雁飛高、單于遠遁逃。欲將輕騎逐、大雪滿弓刀。

起五字塞外廣漠の夜景を描きて眼前に見るが如し、單于は匈奴の王なり、既れて逃るを輕騎もて逐はんと欲すれば大雪能かに至ると、悲壯の語最も人をして慷慨に堪えざらしむ、單音蟬單于は廣大の義天に象るなり、天子と云ふが如し。

玉臺體　　徐德輿

昨夜紹帶解。今朝喜子飛。鉛華不可棄。棄是葑菲歸。

喜子は蜘蛛なり、又蠨蛸に作る、劉勰新論に云ふ、野人蠨蛸を見るもの以て喜樂の瑞となすと、鉛華は鉛粉なり、葑菲は良人なり、夫の旅より歸らんとするを喜ぶの詩なり、玉臺體は閨閣兒女の詠を云ふ、此詩帶の字宜しく平なるべくして仄を用ふ、故に轉句三仄を用ふ、又古調なり。

鑒檀道濟故壘　　劉禹錫

萬里長城壞。荒營野草秋。秣陵多士女。猶唱白符鳩。

檀道濟は南北朝の時宋の良將、敵の畏るゝ所なり、宋主疑うて之を殺す、時人惜みて帝自ら萬里の長城を壞つといふ、又歌ふて曰く『可憐白符鳩、殺檀江州』と、秣陵は今の江寧府、宋の都せし地なり、士女猶其英名を慕ふことを賦す。

行宮　　元稹

寥落古行宮。宮花寂寞紅。白頭宮女在。閑坐說玄宗。

古宮白頭の女、前朝の事を說く、其感慨無限知るべし、況んや落花寂々たる下に於てをや、僅々二十字、白樂天の長恨歌と並び傳ふべし。

唐以前の小詩

以下唐以前の小詩を掲載す。今體五絶の本源にして、其古調あり風情に富むもの以て五絶の粉本となすべし。

大道曲　晉　謝尚

青陽二三月、柳青桃復紅。車馬不相識、皆落黃埃中。

謝尚鎮西將軍となり、嘗て紫羅襠を着け胡床に據り市中佛國門樓上に在りて琵琶を彈じ大道曲を作りて歌ふ。市人其三公たるを知らず、是れ大道曲の初なり。詩意陽春行樂の景を寫し、風流愛すべし。古詩源に評す。喧雜の況を寫す見るが如しと。

涅槃　晉　人

涅槃大如馬、置唐不可下。
涅槃大如象、置唐不可上。

此詩體各別なり。國史補に蜀の三峽最も峻急と號す。四月五月尤も險し。故に行者此詩を歌ふ云々と。峽中に巨巖あり、灩澦堆と呼ぶ。涅槃卽ち是也。其水を出る深淺大小によりて舟行の安危を卜す。

自君之出矣　宋　孝武宵

自君之出矣、金翠闇無精。思君如日月、回環晝夜盈。

閨婦の情を云ふなり。金翠の句は、梳粧に意なきなり。轉結は相思の情日々止むなきを述ぶ。

贈范曄　陸　凱

折花逢驛使、寄與隴頭人。江南無所有、聊贈一枝春。

荊州記に曰く、凱范曄と交善し、江南より梅花一枝を寄す云々と。終に梅花の一故事となる。此詩平仄殆んど今體に近し。

玉階怨　齊　謝朓

夕殿下珠簾、流螢飛復息、長夜縫羅衣、思君此何極、

古詩源に云ふ、蓋し是れ唐人の絶句唐人中に在りては最上のものと爲すと、亦是れ子夜呉歌の類なり。

遊太平山　　孔稚圭

石險天就分、林奏日容軟、陰澗落寒蘂、寒巖留夏雪、

「イインニヤンテンチウフン」の奇險能く其景と副ふ。

別侍　　梁范雲

洛陽城東西、長作經時別、昔去雪如花、今來花似雪、

雪如花花如雪今昔風景の異なる所を擧げて感慨を寓す語極めて淺しと雖も意は頗る深し、小詩の妙此の如きを要す。

咏長信宮中草　　庾肩吾

含芳如有情、金由履迹少、徘徊上階生、

山中雜詩　　呉均

山際見孤煙、竹中窺落日、鳥向簷上飛、雲從窓裏出、

四句全對格なり、鳥飛び雲出づ、唯其見る所によりて山居の幽寂を寫す、絶て意匠無く自然の妙あり。

詔問山中何所有賦詩以答　　陶弘景

山中何所有、嶺上多白雲、只可自怡悅、不堪持寄君、

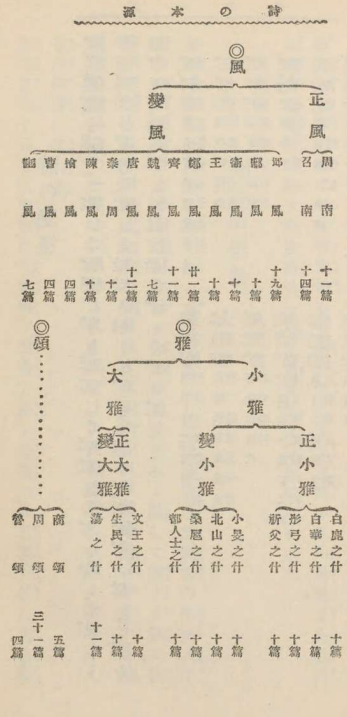
是れ齊の高帝の詔に答ふるなり。

詩の本源

詩の六義

古今集の序に曰く『抑〻歌のさま六つあり唐の歌にもかくぞあるべき』と。遂に然り詩に六義あること猶字に六書あり畫に六法あるに異ならず、詩

の六義とは何ぞや風雅頌賦比興是れなり風とは列國の里巷に於ける歌謠の作なり所謂男女相與に歌詠して各〻其情を云ふものなり其言は則ち樂んで淫せず哀みて傷らず婉にして善く入り微にして露はさず之をいふもの罪なく之を聞くもの以て戒むるに足る雅とは朝廷の事公卿大夫の詩なり纔規勸戒の心ありて忠孝惻怛の情あり美を陳べ惡を閉ぐの意にして懇切敷陳明斷正告能く人をして悚然として聽を動かさしむ頌とは宗廟の詩之を用ゐて鬼神を歌格するなり盛德を揚げ成功を紀し誠敬を達するを主とす其語は和にして壯其義は寬にして密能く人をして肅然として恭しく穆然として思はしむ賦は其事を敷陳して直に之を言ふなり比興は一物を以て一物に比し以て詠する所の辭を惹起すなり唯照應あるを興となし照應なきを比となす比は意切なりと雖ども却て淺く興は意深しと雖ども味長し要するに風雅頌は詩の體なり經なり賦比興は詩の用なり緯なり今詩經に就て風雅頌を表示する左の如し初學の詩經を繙く者に便す。



詩の變遷

風雅頌既に亡び、一變して離騷と爲り再變して西漢の五言と爲り三變して歌行雜體と爲り四變して沈宋の律詩と爲る。五言は李陵蘇武に起り、七言は漢武の柏梁に始まる時を以て云へば左の如く

- 建安體（漢末曹子建父子及び鄴中七子の詩）
- 正始體（魏の時代、諸公の詩）
- 元嘉體（宋時代、顏鮑謝諸公の詩）
- 齊梁體（兩朝を通じて云ふ）
- 唐初體（唐初猶ほ陳隋體を襲ふ）
- 大歷體（大歷十才子の詩）
- 晩唐體（李商隱、溫庭筠、杜牧諸公の詩）
- 黃初體（魏の時代、建安と相接す、其體一也）
- 太康體（晉時代、左思、潘岳、二陸諸公の詩）
- 永明體（齊時代、沈約諸公の詩）
- 南北朝體（兼ねて齊、周の諸體を通じて云ふ）
- 盛唐體（景雲以後開元天寶諸公の詩）
- 元和體（元和公の白詩）
- 元祐體（蘇黃陳諸公の詩）

- 江西派體（山谷之が宗たり）
- 以下降りて元明清に至る。

若し人を以て論ずれば曹劉體あり、陶謝體あり、又選體には柏梁體、玉臺體、西崑體、香奩體、宮體あり、詩史蔚然一科を爲す。唯標目を掲ぐるのみ。

唐詩の壓卷

古來詩を學ぶ者唐を以て法と爲さゞるなし、初唐、盛唐、中唐、晩唐の間詩人千家に及ぶと雖ども、世に顯はれしもの凡そ五百家あり而して唐才子傳に載する所凡そ三百餘人、其篇什の多きことも亦想像すべき也、之を簸盪して其玉石薫蕕を分つこと凡手の能くする所にあらず、今其人あり、清一代の詩人王漁洋實に其人也。

王漁洋曰く、五言は初唐に王勃獨り、擅場と爲す、盛唐には王裴王維と裴迪、翰

川の唱和工力悉く敵す。李白は氣體高妙、逕國輪は齊梁を源本とし、章應物は本と右丞(王維)に出て、加ふるに古澹を以てす。後の五言を作る者此數家に於て求めば餘師あらんと。

又曰く七言は初唐の風調未だ諧はず、開元天寶の諸名家美備はらざるなし、李白王昌齡尤も擅場と爲す。昔李滄溟は秦時明月漢時關の一首を推して壓卷とす。余は以て未だ允ならずと爲す。必らず壓卷を求むれば則ち王維の渭城李白の白帝城王昌齡の奉帝平明王之渙の黃河遠上それ庶幾らんか而しての杜牧李商隱の四家亦盛唐の作者に減せず云々乃ち左に壓卷四章を掲げ註を付す。

送元二使安西　王維

渭城朝雨浥輕塵　(オモヤウノアサクアイニンジンカル)
客舍青青柳色新　(タビヤヒヤイノリウショクアラタナリ)
勸君更盡一杯酒　(キミニスヽメテマタクヒンイツパイノサケ)
西出陽關無故人　(ニシノカタヨウカンヲイデヽハコジンカクベシ)

【渭城】漢書地理志渭城は故の咸陽高帝元年更に新城と名く、武帝三年更に渭城と名くと、咸陽の東北に在り、故の杜郵也【浥輕塵】浥は濕なり、輕塵は細塵なり、詩經に厭浥行露とあり、註に厭浥は濕うの意也と【陽關】漢書西域傳、西域は漢に接し、陽關と門を以てすと註に二關は敦煌の西界に在りと【安西】西唐の安西都護府なり、貞觀中故の地に置き又西の都尉を置く

下江陵　李白

朝辭白帝彩雲間　(アサニハクテイヲイデヽサイウンノアヒダニ)
千里江陵一日還　(センリノカウリョウイチニチニカヘル)
兩岸猿聲啼不住　(リヤウガンノエンセイナキヤマズ)
輕舟已過萬重山　(カルブネハヤクスギタリバンチョウノヤマ)

【白帝】漢の光武帝の時公孫述成都に據り、自ら白帝と稱す、蜀は四方の西に在り、白は西方の色なる以てなり、更に巴都と曰ふ、唐に夔州と改む、一孫說に殿前の井中嘗て白龍あり出つ、因て白帝と稱すと【江陵】盛弘の荊州記に、朝に白帝を發し、暮に江陵に至る、其間一千二百里、飛雲迅鳥と雖ども過ぐること能はず、李白赦に遇ひ夜郎より歸る時の作ならん、蓋し舟西より東に下るなりと

長信秋詞　王昌齡

奉帝平明金殿開　(ホウテイヘイメイキンデンヒラク)
且持團扇共徘徊　(シバラクダンセンヲモチテトモニハイカイス)
玉顏不及寒鴉色　(ギヨクガンハカンアノイロニシカズ)
猶帶昭陽日影來　(ナホセウヨウノヒカゲヲオビテキタル)

【奉帝】帝を奉ずとは宮殿を掃除なすること【平明】黎明と同じ、【團扇】班婕妤が團扇歌に曰く常に恐る秋節の至るを涼風炎熱を奪ふ、捐棄笥の中恩情中道に絕えんと【玉顏】婕妤の容貌【昭陽】趙飛燕の傳に成帝立て皇后と爲り寵少し

く突ふ、其後孤孑幸せられて昭儀と爲り昭陽宮に居ると、【長信】皇甫が寵衰へて後、自ら悔めて太后に長信宮に住ふ

涼州詞　王之渙

黄河遠上白雲間　一片孤城萬仞山
羌笛何須怨楊柳　春光不渡玉門關

【羌笛】胡人吹く所の七孔笛也、馬臨長笛賦に近世の雙笛は羌より起ると【楊柳】樂府に折楊柳の曲あり【玉門關】沙州敦煌縣の西北に玉門關あり、消城詩の注參照【涼州詞】樂曲多くは邊地を以て名と爲す、涼州伊州甘州の如き是れ也、唯に開元天寶間の作

詩の神髓

讀者諸君は開卷以來多種多樣なる絶句の標本を目にし、最後に唐三百年七絶の壓卷をも吟誦したらん、是に於て絶句の輪廓は最早諸君の心目に歷然たり、敢て問ふ、其中心點は那邊にか存する、所謂中心點は蓋し詩の神髓也、王阮亭の曰く、王龍州云ふ、七言絶は盛唐は氣を主とし、氣完きも而かも意甚だ工ならず、中晩唐は意を主とし、意工なるも而かも氣甚だ完からず、然れども各〻至れるものあり、未だ時代を以て優劣すべからざる也と、此論甚だ確と是に由て之を觀れば盛唐の詩は氣完きも意工ならず、中晩唐の詩は意工なるも氣完からずとの龍州の論斷阮亭は之に向つて裏書せるものなり、其今の詩界に通用するや論なきのみ、今之を約言すれば氣と意との二者之を唐詩の神髓と爲す也。

滄土は吾之を知らず、東國の詩に於ては意と氣との外更に調を加ふるの要あるを信ず、特に今の棒讀ならざる訓讀本位の我詩學に於て格調の用意最も緩くべからず、吾故に曰はんとす、詩は意格氣格調の三を以て神髓と爲すべしと、學者此三者に於て日鍛月錬の功を積まば阮亭の所謂る神韻は自から其中より來らん、古人云ふあり、詩の極致一あり曰く入神詩にして神に入らば至れり矣盡せり矣と。

◎詩ば最も難事なり、言れ他の文に於ては蹇渋に至らず、惟詩を作る甚だ苦悶することなり。日に能く篇を成す、初讀の時未だ差づべき所を見ず、姑く之を置て明日取て讀めば瑕疵百出す、悉吟哦日、反復改正し之を前時に比して稍加ふるあり。唐子西語錄

◎白樂天詩を作る毎に、一老嫗をして之を解せしめ、問ふて曰く解するや否、嫗解すと曰ふ時は之を錄す、解せざる時は又復之を易ふ。冷齋夜話

◎晉て洛中一士人の家に白樂天の詩草數紙を見る、點竄塗抹其成篇に及んでは殆んど初作と同じからず、張文潛自から出づ、歐公の文を作るや、先づ壁に貼して熟定を加ふ、終篇一字を留めざる者あり。呂氏童蒙訓

◎文を作るに三多あり、看（讀）ること多、做（作）すること多、商量（討）すること多、僕時に於ても亦云ふ。歐公

春之部

四方拜　元始祭　新年宴會

晨雞（あさのにわとり）　曈曨（あさひのかがやくさま）　雲霞（くもかすみ）　九重（こゝのへ）　公卿（くげ）　劍佩（けんぱい）　龍顏（てんしのかお）

膰脤（はくのまと）　扶桑（ふさう）　出海（うみからでる）　城闕（きうじやう）　百官（ひやくくわん）　鉾鉾（ほこのむらがりたつ）　咫尺（ちかきところ）

朝暾（あさひ）　日出（ひのでる）　千里（とほいところ）　丹墀（かいだんのした）　鵷鷺（ならびつらなること）　拜賀（おがみまつる）　賜讌（めしあつめてえんをたまふ）

五雲中（めでたきものかがやくところ）　萬里通（どこにもきこゆる）　雪玲瓏（ゆきのしろくきらきらしいよう）　入春風（はるになる）　瑞雲籠（めでたきくもにこもる）　黒頭公（しらがのこうし）　都鄙同（みやこもひなもおなじ）

旭日紅（あさひのあかるくのぼる）　紫微宮（こゝのへ）　帝業隆（くにのまがえいぐわにさかゆる）　九重中（こゝのへのうち）　佳氣通（よきけはいつたはる）　白頭翁（しらがのおきな）　西又東（あちこちとも）

立春　元日　新年試筆

何時（いつにたな）　東方（にほんのこと）　謳歌（うたふこと）　萬歳（よろづよなり）　山卿（やまざと）　水村（ほとり）　家家（いへいへ）　嘗呼（こえたかし）　到處（どこでも）　迎春（はるにむかふ）　獻樂（たのしびをたてまつる）　老幼（らうにん）　雪深（ゆきふかし）　遙憶（はるかにおもひやる）　賀正（しんねんはよろこぶ）

講和（へいわのかうぢ）　蚓首（こくめんをさす）　何幸（いかでもしあらんや）　嘗呼（こえたかし）　家家（いへいへ）　笑語（わらひごと）　有兆（ほうさうのあること）　天涯（あまのはて）　也是（やはり）

偏望（ひとへにのぞむ）　蒼生（おほんたみ）　鼓腹（はらつづみをうつ）　到處（どこでも）　迎春（はるにむかふ）　獻樂（たのしびをたてまつる）　雪深（ゆきふかし）　遙憶（はるかにおもひやる）　賀正（しんねんはよろこぶ）

文物新（ぶんぶつあらたなり）　如比鄰（となりのごとし）　不憂貧（にんをうれへず）　苦吟身（くぎんするみ）　天未曉（てんいまだあけず）　上下親（しゃうかしたしむ）　海外人（とほくのくにびと）　元始祭（ほうしゃのまつり）　紫宸殿（こしょでん）　泰平象（たいへいのかたち）　街衢裏（ちまたのうち）　君代曲（きみがよのきょく）　歡無極（よろこびきわまりなし）

卿雲爛（めでたくかがやく）　宮城外（きゅうじょうのそと）　新年宴（しんねんのえんをひらく）　恩波遍（めぐみあまねし）　呵凍筆（こごえたるふでをかく）　松竹緑（しょうちくみどり）　酌椒酒（しょうしゅをくむ）

萬國（ばんこく）　崇（あがめ）　氣象雄（きしょうゆうなり）　紹代功（だいをつぐのいさを）　戰氣空（たたかひのきうせり）　亞洲東（あじあのひがし）　新年曙（しんねんのあけぼの）　句未工（くいまだたくみならず）　雨露仁（うろのめぐみ）　祝新春（しんしゅんをいはふ）　拜紫宸（しょくをしこにはいす）　草莽臣（そうもうのしん）　四海春（しかいはる）

萬國（ばんこく）　仰（あふぐ）　臣（しん）　恭蒐（つつしんでしゅうしゅうす）　御溝（みぞ）　天露（てんろ）　嘉例（かれい）　朝朝（てうてう）　儀畢（ぎをおはる）　泰平（たいへい）　萬歳（ばんざい）　和平（わへい）　玉今（ぎょくこん）　太平（たいへい）　參列（さんれつす）　和平（わへい）　敷語（おことば）　感極（かんきわまる）　肅肅（しゅくしゅく）　春明（はるあけ）　歐西（おうせい）　四首（しくをつらぬ）

萬國（ばんこく）　崇（あがめ）　氣象雄（きしょうゆうなり）　紹代功（だいをつぐのいさを）　報國忠（くににつくすのまこと）　亞洲東（あじあのひがし）　新年曙（しんねんのあけぼの）　句未工（くいまだたくみならず）　雨露仁（うろのめぐみ）　祝新春（しんしゅんをいはふ）　拜紫宸（しょくをしこにはいす）　草莽臣（そうもうのしん）　四海春（しかいはる）

萬國（ばんこく）　崇（あがめ）　氣象雄（きしょうゆうなり）　紹代功（だいをつぐのいさを）　戰氣空（たたかひのきうせり）　亞洲東（あじあのひがし）　新年曙（しんねんのあけぼの）　句未工（くいまだたくみならず）　雨露仁（うろのめぐみ）　祝新春（しんしゅんをいはふ）　拜紫宸（しょくをしこにはいす）　草莽臣（そうもうのしん）　四海春（しかいはる）

新歳 正元 晩風 迎年 草嫩 新雨 山川 春盤 興來 栢葉 晴光

早春 春風 南枝 氷輕 物候 暗鳥 春到 岸柳 椒花 談笑 暁煙

新正 殘雪 春浅 氷開 春寒 遷鴈 春來 栢酒 賀客 酌酒 青歸

夏 早春時 太平時 楊柳枝 早梅枝 未掛絲 酒一巵 草未滋 賦新詩 待風披 花較遅 雪慳雛

解凍時 殘雪時 白雪枝 雨三枝 金屈巵 恵風吹 見流澌 試筆詩 鳥先知 淑景移 樂無涯

春水 羽柳 屋雪 雛鳴 雪後 黄鳥 灞児 梅梢 雪盡

風遅 柳條 腹日 臘後 閑房 晴窓 渓梅 淑氣 開庭 新暖 煙波

暁氷 勝事 吟詩 寒消 拂旦 小園 報春 靜對 一樽 暖信 風輕

黄鳥鳴 求友聲 報春鳴 對新晴 柳煙輕 樂太平 暁鶯鳴 詩酒盟 寄弟兄 梅花綻 春猶浅

第一聲 百鳥鳴 春雪晴 草初蘭 暖猶輕 管弄平 風城柳 春草生 載酒行 春意動 東風暖

桃符　春物　芳時　曈曈

佳節　金花　氷雪　佳期

人日小集

牛舎　淡光　梅影　青青

佳辰　剪綵　隔目　細草　新晴

春日偶成

微陽　生意　軽煙　処処

人日晴　早春　幽期　晴景　霽光

催黄鳥　歌白雪　揩試筆　屠蘇酒　梅蕊郁

雪後天　彩花鮮　柳含煙　早鴈還　春可憐

陽春曲　迎淑景　歓無極　梅柳色

人日天　草初穿　帯軽烟　詩幾篇　坐納筵

啼鶯　梅花　青山　今朝　晴天

淑気　遊猟　啼鳥　青春　淑景

太平　佳気　風光　池開　遊遊　交酌　新暗　閑吟

詩酒筵　晴香傳　會群賢　故人家　見梅花

筆生花　一路斜　歸路晩　避世譁　野水涯

梅花下

酔陶然　欲暮天　月如弦　隠士家　剪綵花

踏草芽　夕陽斜　春酒盡　笑語譁　賞韶華

高亭上

野色　松徑　避俗　移花　白鶴　田園　林中　柴扉　烟霞　一瓢　醉裡

野客　竹屋　煎茶　看花　獨酌　閑花　孤琴　讀易　閑看

翠微　枕簟　桑扉　袁老　對客　青苔　採藥　高臥　忘機　靜聽

滿春渠　食無魚　愛吾廬　摘春蔬　草色　青青　入春　子雲亭　艸玄經　花插瓶　酒半醒　滿階庭

百花舒　手釣魚　賦閑居　興有餘　柳青青　楊子亭　鎖柴扃　酒滿瓶　眠未醒　滿林胴　照窓櫺

就暖　林外　尋春　野水　忘歸

和風　幽砌　早蝶　春靄　留連　獨樹

高園　引興　春山　幽趣　春風

詩未就　歸途　忘日眷　投車轂　揮彩筆　一牀書

盈樽酒　斜照沒　幽趣足　切陪坐　酒樽虛

五柳居　春雨餘　混樵漁　掩茅廬　酒樽虛

閑居　深竹　松月　閑雲　遠看

尋幽　雨後　弊廬　對酒　獨樹

野外　林花　坐看　籬邊

新水竹居　花發初　晝不如　臥草廬

夜雨
動竹
深更
密雲
晩來
通宵
窓燈
欲曉
秀色
雨足
當階

暖暮
聲繁
潤透
半夜
夜來
雨聲
閑眠
柴門
田家
敲窓
春草

幽庭
開雨
甘霖
夜色
氣濕
細潤
夜窓
一夕
望歲
靜聽
更深

草木萌
素草生
菩寒蛬
老農情
雨聲微
夜掩扉
織雨衣
綠應肥
點滴稀
閑風雨
孤燈下

促春耕
當發生
欲三更
雨未晴
燈影微
雨霏霏
入簾幃
落花飛
倦鳥歸
花應綻
花落盡

鶯語
丘壑
類讀
開卷
安眠
棲遲
黃卷
興味
好雨
隨風

角巾
滿架
古書
據梧
家貧
勝事
自愛
偶然
潤物
春雨

滿案
圖書
對棋
枕書
琴書
林叟
樵人
小雨
連雲

雨未停
花氣馨
人不到
濕几坐
青苔上
無一事
鶯花月
耽酣醉
細無聲
微夜鳴

隔塵聽
愚伶俸
空齋裡
花未開
苔蘚厚
謔共語
杯酒興
撲窗聲
到天明

草生　露花　畑暗　露深

春日野望

野望　東風　烟塢　烟光　孤烟

東風　窓洞　曛淡　漠漠　春流

村園　水遠　新晴　水色　柳暗

郊行尋花

二月　垂楊　烟景　春光　人家

五更　如絲　無聲　紛紛　凝眸

紅潔處　農桑話　砕滴聲　花落否

野村東　西又東　香満中　一路通　積背童

柳橋東　淡烟中　麥隴中　問牧童　落花風

林雨暖　豊年古諺　盤渦遥　村翁喜　線映紅

花氣　江村　雲影　曳鍬　山畑

遠水　幾處　山山　陵氣　道遙

山櫻　山屏　數家　孤城　倚杖

樹樹紅　望不窮　萬花叢

二月春　野水濱　草作茵　物候新　叱犢人　不知貧

草色匀　探芳處

訪村翁　處處同　草連空　萬象春　楊柳津　百花新　鶯語新　拾翠人　喚渡頻

平蕪裡

春水　晴郊　山河　登臨　徘徊　春堤　尋芳　晴郊　烟散

遠眺　斜日　線野　野外　晴野　玄鳥　春浮　小徑

山櫻　山屏　數家　孤城　倚杖　花明　山畑　道遙　陵氣　幾處　遠水　曳鍬　徘徊　春堤　雲影　花氣

寒暉　夕陽　歸鞍　佳節　和風　林泉　野花　潭水　杯盤　芳樽　杯中

百花　對酒　花柳　令節　吟詩　碧山　晴日　酒樓　詩句　清樽　滿堂

芳樹　徽風　芳草　紹尋　綠酒　天晴　共酌　高吟　豈醉　青山

醉顏　酡　百花香　認垂楊　水一方　共棲牖　水畔莊　日漸長　到斜陽

水亦香　重三日　籬亭會

君夕何　桃李香　醉魂　好流觴　故人莊　林外莊　傍林蹊　對夕陽

好時節　桃開遍

行樂　芳菲　吟咏　交加　黃鸝　村落　烟柳　蒼蒼　粉蝶　倚樓　浩蕩　萋萋　驅積返　歸路遠　乘醉去　花間路

春草夕　何所見　聞鶯語

三月三日　水亭雅會

三巳　巳日　林亭　開樽　平坡　雨餘　曲浪　修禊　照水　風物　思奮　重三　花底　暗鳥　桃花　烟景　柳絲

載酒過　鳥聲和　桃李多　長綠　羅　踏軟沙　步松坡

此來遇　晉永和　逸興多　閒松　蘿　醉後歌　競吟哦

詩就別墅
芳宴清宴
林間歡遊
艷陽春波

春江晩釣

清江漁火
夕陽歸舟
江村漁唱
碧水釣船
清流江風
新月釣竿

雪江泛舟

千株野梅
別業訪友
溪邊逢舊
乘月泛舟
遠岸江景
斜陽漁笛
兩岸歸舟
黃昏漁火
中流月影
初三月影
晴色好雪
素色遍野
詩未就月

坐江頭一派流

魚上釣絲
百花洲上
芳杜洲邊
獨夜舟中
金谷澗底
泥醉後人
永斯夕月

漁火
片雨
柳岸
水影
晩風
江花
宿鷺
苔磯
閑意
水雲
沙頭
輕棹
江天
江頭
雙槳
返照
幾雨
空霧
圓沙
泛舟
釣綸
雛舟
漁竿
過雨
釣船
風光
江燕
晩風寒
花影寒
子陵灘
百尺竿
夜來園
月圓圓
鏡中看
魚滿籠
晩來林
坐江子
對清灘
此投竿
落日寒
月輪沉
日夕留
供晩餐
畫圖看
得魚難
伴白鷗
花影浮
漁唱幽
野鬼
風光
江燕
漁竿
暮景
漁歌
釣竿
釣磯頭
對碧流
末收釣
野水流
一葉舟
坐江頭
魚上釣
百花洲
芳杜洲
獨夜舟
金谷澗
泥醉後
永斯夕
詩就
別墅
清宴
歡遊
春波
千株
別業
溪邊
乘月
遠岸
黃昏
中流
斜陽
兩岸
初三月
晴色好
素色遍
詩未就
清江
夕陽
江村
碧水
清流
新月
輕舟
漁唱
歸舟
釣魚
向晩
春浪
雪江泛舟
坐江頭一派流
金谷澗底
泥醉後
永斯夕
獨夜舟
芳杜洲
百花洲
魚上釣
末收釣
野水流
一葉舟
對碧流
釣磯頭
伴白鷗
花影浮
漁唱幽
晩風寒
花影寒
子陵灘
百尺竿
夜來園
月圓圓
鏡中看
魚滿籠
晩來林
坐江子
對清灘
此投竿
落日寒
月輪沉
日夕留
供晩餐
畫圖看
得魚難
漁火
片雨
柳岸
水影
晩風
江花
宿鷺
苔磯
閑意
水雲
沙頭
輕棹
江天
江頭
雙槳
返照
幾雨
空霧
圓沙
泛舟
釣綸
雛舟
漁竿
過雨
釣船
風光
江燕
漁竿
暮景
漁歌
釣竿

海天　滄溟　素書　登樓　城頭　故國　花開　花間　昔日　往昔　相憶　相思　孤眠　獨眠

最憐　最愛　落日　昔別　夜雨　昔遊　北雁　春風　友朋　故友　折梅　攀梅　久別　舊遊

青山　何日　向夕　飛鳥　各地　昔信　雁過　江南　風烟

贈遠　瑤瑟　近何如　天一涯　花滿枝　寄新詩　入夢時　落花時　日夜思　負前期　歲月移　憶舊知

雙鯉魚　夢君餘　憶天涯　雁足詩　四愁詩　夢醒時　寄相思　不勝悲　會面期　何太遲　喜新知

春日懷友人　答友人

閑釣　滄磯　坐釣　把釣　對鷗　故國　歲月　白雲　野鳥　孤鴻

偏舟　深處　長竿　桃源　浩渺　舊友　東風　春酒　江湖　情深

松潭　芳洲　金鱗　題詩　有意　一書　草色　春色

何須賓　垂芳餌　苔磯上　春水淨　桃花水

八離屋　花折初　接雁書　一紙書　音信疎

戞索居　雁歸初　待鴻書　飲行書　雁音疎

忘日尋　知月上　垂柳岸　無限興

人遠 遠憶 春草 夢裡 歸雁 鴻信 悠悠 關山 橫笛 感舊 關山 落梅 春風

郷書 日夜 池塘 春樓 夢見

把酒 風月 律呂 折柳 散入 此夜

春夢 如憶我 無恙否 稱寡和 相思處

暗飛聲 落梅聲 對月明 滿洛城 笛聲清

斷腸聲 折柳聲 百花明 聲最清 分外清

夢裏 空經頭 知何日 徒刻目

月下 倚樓 何處 春月 何人 更深 風清 吹斷 月裏 一夜

半夜 高樓 玉笛 一聲 月明 隨風 雲靜 無數 風中 腸斷 月中

春夜 關月 風吹 吹出 旅思 頻吹 江樓 梅花 江城 遙聞 望鄉

無限愁 散春雪 被風飄 驚迢迢 一聲遙 暗魂消

春風外 何處發 聞折柳 梅花落

故園情 律呂調 雲外飄 破碧霄 律呂調 綠楊橋 誰家子 雲外響 腸將斷 飛聲急

回首 クワイシュ　聲聲 シヤウ

春日泛湖

天晴 テンセイ　岸花 ガンクワ　水煙 スイエン　雲低 ウンテイ　涵空 カンクウ　水光 スイクワン　水面 スイメン　帆遠 ハンエン

悵望 チヤウバウ　切切 セツセツ　征帆 セイハン

春水 シユンスイ　山影 サンイン　波瀾 ハラン　遠樹 エンジユ　連天 レンテン　湖水 コスイ　城波 セイハ

枕上 チンジヤウ　湖上 コジヤウ

山遠 サンエン　前浦 ゼンポ　遠空 エンクウ　樟聲 シヤウセイ　樟穿 シヤウセン　滿眼 マンガン　鷗雲 オウウン

餘韻遠 ヨインエン　停雲響 テイウンキヤウ

垂柳灣 スイリウワン　翠微灣 スイビワン　百花灣 ヒヤククワワン　湖上山 コジヤウサン　如黛山 ジヨタイサン　淡靄間 タンアイカン　指掌間 シシヤウカン　伊鴨閒 イアカンカン

綠楊灣 リヨクヤウワン　九折灣 キウセツワン　雨岸山 ウガンサン　花滿山 クワマンサン　水雲間 スイウンカン　畫圖閒 グワトカン　花照顏 クワセウガン　釣侶閒 テウリヨカン

傾耳處 ケイジシヨ

晩霞 バンカ　碧水 ヘキスイ　晴和 セイワ　無際 ムサイ　如畫 ジヨクワ　乘舟 ジヨウシユウ　梓舟 シシユウ　平湖 ヘイコ　一聲 イツセイ　高吟 カウギン

水鳥 スイテウ　幾點 キテン　青山 セイザン　眼前 ガンゼン　萬里 バンリ　平湖 ヘイコ　斜暉 シヤキ　洲島 シユウタウ　烟水 エンスイ　把酒 ハシユ　一棹 イツタウ

微風 ビフウ　群鷗 グンオウ　綠波 リヨクハ　風景 フウケイ　白鷺 ハクロ　一鶯 イツオウ　曲島 キヨクタウ　水鏡 スイキヤウ　蒼波 サウハ　取靜 シユセイ　移棹 イタウ

花復般 クワフクハン　落花津 ラククワシン　太湖濱 タイコヒン　雨三人 ウサンニン　四面春 シメンシユン　白鷗馴 ハクオウジユン　一隻艇 イツセキテイ　坐垂綸 ザスイリン　晩晴新 バンセイシン　長線蹟 チヤウセンセキ　隨波去 ズイハキヨ

歲月還 サイゲツクワン　楊柳津 ヤウリウシン　綠水濱 リヨクスヒン　映清倫 エイセイリン　鏡中春 キヨウチユウシユン　滿江春 マンカウシユン　鷗鷺親 オウロシン　酌酒類 シヤクシユルイ　本酔貧 ホンスイヒン　春如畫 シユンジヨクワ

白鷗 日落 雨霽 和風 水色 輕舟 蒼茫 渺渺 尋芳

晴光 遲日 雨餘 春林 百花

春日 春色 腰光 桃李 照水 好鳥 庭院 流鶯 山花 野花 輕衫 青苔 線酒 霞光 風逕

平沙 汀花 息機

晴日 看花 啼鳥 桃花 花明 酒酣

花下小酌 觀花 踏青

紅日沒 花月夜 仙源遠 橫臥興 錦繡叢 白間紅 吐新紅 樹樹風 樂無窮 煙籠

百花叢 淺深紅 一枝紅 妬花風 舞晩風 轉眼空

驚歸雁 盪歌起 桃花落 芳草岸

春之部

柳絲 穿林 遊人 把酒 春鳥 胡蝶 和風 風輕 禽聲 移席 淑景

風逕 好鳥 庭院 流鶯 山花 野花 輕衫 青苔 線酒 霞光

香靄 芳草 芳菲 花裏 風軟 春塢 倚檣 宴樂

一孤通 句未工 酒滿筒 一總同 畫暉中 碧澗東 暗香通 南濠 人不同 烟雨中 暖日烘 養花天 欲夕天 萬樹妍 不惜錢

一孤通 句未工 酒滿筒 一總同 畫暉中 小園東 玉瑠璃 艷 艷陽天 雨後天 鬪芳妍 花欲然

芳辰　花鳥　萬朶　泥露鮮
花叢　遠近　飄香　爲花顚
沈醉　取醉　醉欲顚　落舞蕪
無數　杏花　醉芳筵　帶惹烟
相約　開盡　醉吟賞　白雲邊
繁華　芳樽　彩霞　花千樹
留連　醉踏　開簾　忘歸處
芳樹　照眼　清香　曲塢上
春遊　繼賞　微風　花間月
枝枝　爛熳　吟賞

草鳥　草鳥甚もの
醉欲顚　醉欲顚トハ酒ニ醉ヒ心ノ定マラヌ
醉芳筵　芳筵ハ芳宴ニ同ジ
落日　落日前ノ如ク
映晴烟　烟ハ晴ニ映ズ
春未老　春未老ハ春ノ老ヒ行カヌ
香霧裡　香霧裡ハ香霧ノ中
供醉風　醉風ハ醉ヒタル如キ風
紛紛雪　紛紛雪ハ花ノ散ルヲ雪ニ譬ヘタリ
春風逼　春風逼ハ春風ノ吹キ迫ルナリ

曉色微　曉色微ハ曉ノ色ノ微カナリ
映竹扉　竹扉ハ竹ノ戸ナリ
滑朝暉　滑朝暉ハ朝日ノ輝キ滑ラカナリ
朝日輝　朝日輝ハ朝日ノ輝キ
露沾衣　露沾衣ハ露ニ衣ノ濡ルルナリ
柳依依　柳依依ハ柳ノ風ニ靡キ依依タルナリ
映簾幃　簾幃ハ簾ニ同ジ
欲天明　欲天明ハ天ノ明ケントスルナリ
曉寒輕　曉寒輕ハ曉ノ寒サ輕キナリ
更漏聲　更漏ハ時ヲ知ラスル器ナリ
聽曉鶯　曉鶯ハ曉ニ鳴ク鶯ナリ

曉色　鶯啼　林邊　輕烟　曉窓　日出　幃鳥　春深　臥看　花明
曉風　曉見　楊柳　晴日　山頭　看花　春色　柳絮　青苔
花枝　風雨　花開　花影　爲啼　四望　春眠　花落
滿耳微　啓柴扉　露未晞　對牖暉　競春輝　香滿衣　蜂蝶飛　報春晴　紅旭明　賣花聲　百囀聲
曉色微　映竹扉　滑朝暉　朝日輝　露沾衣　柳依依　映簾幃　欲天明　曉寒輕　更漏聲　聽曉鶯

紀元節 佳節小集

春風 春林 三千
春鳥 園林 入戸 經雨 朝來 到耳 向曉 隱几 曉鶯 國夢 隔簾
歡聲 入戸 經雨 禽聲 城頭 春夢 曉窗 山花 春窓
神皇 卽位

花氣清 洗宿醒 聞曉鳥 花落否 輕烟抹 紅霧濕 談語滑 三竿日
柳藏鴛 洗宿醒 花落否 輕烟抹 紅霧濕 談語滑 三竿日
登極年

百禽鳴 照軒櫳
梅花白 花上露 花露重 花猶睡 東方白
德如天

新逢 章旗 共祝 普天 東夷 平定
揭旗 遠耀 創業 皇猷 祝詞
紀元 建業 聯綿 威高 東風 旗影 歡聲 滿都 率土 諸賊
佳節 賀都 國威 萬戸 腹生 林業 滿市 億古 祥氣 東征 橿原
幾百年 大於天 九重邊 紀元年 文物鮮 服黎民 開祝筵 詩一篇
天地間 千載間 耀九寰
幾遷 瑞氣 辛酉年 帝城邊 率土濱 頌聖傳 就傍山 服兜頑 征百蠻
絞萬民 率群賢

月明　浮雲　北雁　登樓　簡書　腸斷　鄉園　夜雨　沈酔　歸心　新愁

雲陽　經春　流鶯　歸鴻　春風　千里　看花　隣几　空房　客懐　無那

作客　思家　對酒　春衣　清猿　孤臆　寓居　歳月　旅恨　雲山　愁雲

寸心　馳　不堪悲　滑天涯　入夢時　泣路岐

春已闌　涙不乾　惜花殘　柳拂欄　好誰看　思百遍

鳥聲悲　未有期　天一涯　獨酌時　寄友詩

風春闌　酒杯乾　落紅殘　獨倚欄　仔細看　淚闌干

暮春　客中作

雄武　鴻業　基業　世運　爾來　世移　招客　客中

暮春　送春　逆旅　一夜　天涯　客中

聖明　偉功　回顧　百世　兆民　物換　僊宴　祝意

睿智　聖後　上下　千載　被恩　星移　祝意

異地　思家　對酒　春衣　對花

負錦期　路傍枝　春日遲

草莽　聞　濱時　定天下

過周武　紫皇祖　寓都後　遂佳節

列朝　遊　鎭重圍　大東國　重神器　傳萬世　世無匹　謳歌起　歷信遲

客夢　ゆめ
何日　いつ
獨坐　ひとり
鄕思　くにをおもふ
何處　いづこ
愁望　うれへのぞむ
引望　のぞむ
花鳥　はなとり

送春　落花

暮春　はるのくれ
春深　はるふかし

懷人　ひとをおもふ
故人　ふるき
春城　はるのまち
猿嘯　さるのなく
春陰　はるのくもり
隔簾　すだれをへだつ
驛路　たびぢ
迢遞　はるかなり

春殘　はるのこる
細雨　こさめ

鄕書　ふるさとのふみ
飛花　とぶはな
異客　たびびと
望鄕　ふるさとをのぞむ
花落　はなおつ
高樓　たかどの
春雨　はるのあめ

落花　ちるはな
萬點　ばんてん

曉猶寒　あけがたなほさむし
强自寬　しひてこころをなぐさむ
歸未得　かへりえず
思鄕夢　ふるさとのゆめ
何日到　いつかいたる
孤客恨　ひとりたびのうらみ
孤燈下　ともしびのもと
前路遙　ゆくてはるか

送殘春　のこるはるをおくる
半日春　はんにちのはる

行路難　ゆくみちかたし
路漫漫　みちはてしなし
春已過　はるすでにすぐ
知何處　いづくにかあるを
歸雁後　かへるかりのあと
窮途客　みちにまよふひと
關山路　せきやまのみち

猶是寒　なほさむし
共惜春　ともにはるをおしむ

春之部

風飄　かぜにひるがへる
傷春　はるをいたむ
春光　はるのひかり
堪惜　をしむにたへず
盡日　ひねもす
吟魂　ぎんこん
夜雨　よるのあめ
細水　こまかなるみづ
浮花　うかべるはな
亂紅　みだれたるくれなゐ
樹頭　こずゑ

林花　はやしのはな
東風　とうふう
欲盡　つきんとす
風花　かぜにちるはな
後庭　こうてい
無情　つれなし
惜春　はるをおしむ
悲傷　かなしむ
愁人　うれふるひと
惆悵　いたみうらむ
花落　はなおつ

對酒　さけにむかふ
空林　くうりん
春日　はるのひ
欲落　おちんとす
草長　くさながし
眼前　めのまへ
宿雨　よどほしのあめ
花飛　はなとぶ
雨濕　あめにしめる
孤吟　ひとりぎんず
殘花　のこるはな

花作塵　はなちりてちりとなる
鳥聲頻　とりのこゑしきりなり
苦吟身　くぎんするみ
滿九旬　きうじゅんにみつ

餞東君　はるをおくる
淚紛紛　なみだふんぷん
酒半醺　さけはんばいにたけなはだし
恨斜曛　うらむしゃくんのかげ
鳥聲聞　とりのこゑをきく
有餘薰　かをりあまりあり

三十日　みそか

落花紛　らくくわふんぷん
柳絮紛　りうじょふんぷん
夕日曛　ゆふひくんず
不耐聞　きくにたへず
恨無垠　うらみかぎりなし

酌酒頻　さけをくみてしばしばす
送春晨　はるをおくるあさ
淚濕巾　なみだきんをうるほす

西郊路　せいかうのみち

初夏田家山居

首夏 乳燕 花壺 飛畫 隨風 辭夢 吹盒

春陰 殘紅 亂點 幽砌 流轉 殘紅 匝亂 落英 殘鶯 著雨

小橋 小軒 蠶家 殘紅

曉鶯語 青帝鵠 不須睡 千觴酒 堪惆悵

入麥秋 萬綠側 麥鷹秋 綠陰側

鵑催急 東皇曆 來年節 難駐鵑

桑柘 鄰機 茶烟 深池 蚓壞 疎鹿 晴圃 竹籬 村村 野老 牛犢

新筍 綠樹 蒼烟 隔水 蝶衣 綠竹 晚蠶 日午 郊扉 郭外 農事

解耦 小軒 林蔭 繞舍 晒紛 新粉 繰絲 濁酒 野奏 稚子 酒旅

雨初收 聽鳴鳩 子母牛 一盤流 事私憂

麥半黃 插新秧 陌上桑 焙茶香 一艸堂 滿野塘

筍芽抽 喚雨鳩 抱村流 綠盈疇 晚未休 麥嘯黃 蠶緒忙 事倏乘 晚花香 夏日長 蔭綠楊

野寺　鄰翁　麥浪　田苗　茅堂　麥隴　細麥　燕子

荷鋤　麥熟　流水　風水　麥秋　綠陰

村邊　細雨　槐影　鶯老　籠鵝　晝永

筍出墻　梅雨近　農桑話　新秋長　鄰翁語　鳩鳩語　炊烟起

吠厖　清和候　勝刈麥　蛙聲聒　三兩戶　桑村暮

客夜聞鵑

蜀鳥　蜀魂　叫處

獨夜　成血　雨晴

客中　他山　客懷

杜鵑鳴　歸去聲　不耐情

蜀鳥鳴　叫血聲　故園情

夢魂驚　夜五更　半輪明　獸歸程

懷鄉

去國　獨家　一望　遠思　未歸　飛過　烟深　碧林　雲山　愁人

思歸　雲樹　愁殺　夜色　夢遠　青嶂　聲遠　腸斷　客舍　遊魂

客夢驚　月三更　片月明　風月清　十日程　不如歸　客未歸　淚沾衣　夕月牌　獨歌歌　月影微

苦勸歸　餓思歸　淚客衣　客計非　一聲微　蜀魂飛

夏之部

無計　月斜　隔天　行人　晴時　愁處　花落　雨裏　滴花　月落　夢裏

去國　獨家　一望　遠思　未歸　飛過　烟深　碧林　雲山　愁人

思歸　雲樹　愁殺　夜色　夢遠　青嶂　聲遠　腸斷　客舍　遊魂

客夢驚　月三更　片月明　風月清　十日程　不如歸　客未歸　淚沾衣　夕月牌　獨歌歌　月影微

苦勸歸　餓思歸　淚客衣　客計非　一聲微　蜀魂飛

夢魂驚　夜五更　半輪明　獸歸程

晩涼　露坐　涼風　蚊帳　流光　開窓　隨風　螢火　流螢　飛螢　星散　月墮　傍林　穿簾　隔窗　入檻　回籠　臨岸　柳邊　岡瞻　平沙

晩晴　竹院　滿眼　綠波　敷簟　一渠　池亭　橋畔　眼前　碧水　沙草　徘徊　徹曙　飛過　有情　映水　簾疎　曉映　月墮　傍林　穿簾　隔窗　入檻　回籠　臨岸　柳邊　岡瞻　平沙

雨冥冥　雨後青　似集星　野水傍　水一方　螢火光　螢火鳳　晩風涼　好寒鴉　芰荷香　水雲鄉　照欄檻　照水螢　池上亭　點點螢　照水螢　水心亭　亂飛螢　點池岸　水草香　引興長　水中央　千點影

雨冥冥　雨後青　似集星　野水傍　水一方　螢火光　螢火鳳　晩風涼　好寒鴉　芰荷香　水雲鄉　照欄檻　照水螢　池上亭　點點螢　照水螢　水心亭　亂飛螢　點池岸　水草香　引興長　水中央　千點影

流螢　故鄉　歸夢　旅館　孤燈　愁聽　紛紛　殘燈　片月　故國　客心　殘夜　歸心　客處　離別　遠客　愁眠　聲聲　夢欲飛　華山扉　千樹裡　投一宿　牀曉曉　千里夢　空展轉

思鄉淚　眠覺　空枕　燈影暗　千行淚

日暮　風定　波上
晩來　雨霽　風清
水邊　微涼　點水
孤亭　點點　一線

梅雨

宿雨　驟雨　引客
過客　午風　巢燕
補籬　雨徑　乳燕
林頭　書冊　啄泥
柴門　客到　落花
蝸牛　梅子　新蕊

細雨　疎簾　兎柵處
飛帆　肥梅　微風裡
靜後　靜眠　濃火色
杉日　把酒　鶯滴露
夜窓　客夢　苔梅綻
空濛　夜窓　鶯滴香

畫掩門　卽柴門
畫向晝　樹色昏
雨聲喧　破苔痕
展幽寂　綠陰繁
烟雨繁　竹有孫
細討論　老樹枯
梅子落　家家雨
梅子雨　黃梅節
蛙聲聒　紅榴火
梅雨厚　書帙濕
深草底　寺窓暗

御簾扉　十日霖　卽門
無由撲　草色侵　故人尋
乘興夜　故友尋　綠陰成
風草夕　綠樹陰　不停杯
入鳴琴　此來尋　胎胸襟
受玉音　鶯滴香

五日泛舟

端陽　重五　龍舟　兩岸　楊柳　扁舟　片舟　邊槳　鷗鷺　江風　波頭　烟波　少長　閑泛　渡口　野艇　對酒

離騷　汨羅　放舟　晴沙　江頭　乘舟　舟清　夕陽　柳岸　盃盤　晴色

艾酒　粽　楚客　才人　競渡　水畑　綿舟　且泝　木蘭船　楚臣　憔悴　萬古傳

到今傳　漁父　江湖上　堪角黍　午日天　獨醒哀　暮江邊　敗水畑　漁父篇

小橋西　釣磯西　荷葉齊　竹鷄啼

水東西　荻蘆齊　鵜秧鷺　隔水晴

夏日江村

綿岸　小艇　槳聲　圍繞　山榴　紅花　晩波　停橈　江流　高詠　蒲酒　悠悠　漁舟　橋邊　江村　江天　長夏　漁家　沙鷗　雨餘

江平　沙頭　波浪　榴花　江上　蒼江　水濕　野塘　午影

山中銷夏

水●涵●ルイハン　日●衡●ひのくれ　洲●島●しま　渡●口●わたし　江●流●ながれ

青●山●せいざん　絶●壁●ぜっぺき　杪●山●こずえのやま　北●軒●きたのまど

苔●磯●こけのいわ　廻●檣●めぐるほばしら

晴●看●はれをみる　高●樓●たかどの　水●寺●すいじ　晴●沙●はれすな　江●水●こうすい

水●國●すいこく　江●流●こうりゅう

波●濤●なみ　天●人●てんにん　杖●履●つえとくつ　水●村●すいそん

柴●荊●しばのいおり

深●林●しんりん　機●徑●はたおりのこみち　山●雨●さんうのやま　盤●折●わだかまる

流●水●りゅうすい　老●鶯●おいたるうぐいす　石●爲●枰●いしをもってばんとなす　荷●氣●かき

魚●盈●筍●うおたけのこにみつ　飛●白●鷺●しらさぎをとぶ　荷●蓋●路●はすのはのみち　青●嶼●末●しょうしょのすえ

鷗●眠●穩●かもねむりておだやか　堪●濯●足●あしをあらうにたる

涼●風●起●すずかぜおこる　垂●楊●岸●しだれやなぎのきし　漁●侶●釣●ぎょりょのつり　魚●銜●仲●うおくわえてなかだちす　機●心●息●きしんやむ

似●雨●聲●あめのごとし　石●床●平●いしのゆか　分●外●清●ぶんがいのきよし　竹●陰●清●たけかげきよし

當●軒●のきにあたる　穿●簾●すだれをうがつ　千●樹●せんじゅ　臨●流●りゅうにのぞむ

垂●楊●しだれやなぎ　極●浦●きょくほ　近●水●きんすい　浴●鴨●かものあびる　疊●帆●ほをたたむ　四●望●しぼう

泛●水●すいにうかぶ　小●燕●こつばめ　落●日●らくじつ　碧●潮●へきちょう　江●山●こうざん　江●雲●こううん　沙●淺●すなあさし　浦●嶼●うらじま　日●斜●ひのくれなり　帆●遠●ほとおし

鷗●かもめ　蟬●せみ　帆●檣●ほばしら　雨●岸●うがん　鏡●面●かがみのおもて　漁●人●ぎょじん　飛●鷺●ひさぎをとぶ　破●浪●はろうをやぶる　漁●翁●ぎょおう　凝●眸●ぼうをこらす

水●鴛●家●おしのいえ　近●水●家●きんすいのいえ　傍●原●廬●げんろにそう　浴●清●沙●きよきすなにあびる　畏●日●斜●にちしゃをおそる　寄●水●涯●すいがいにやどす　浴●群●鴉●むらがるからすをあびる　稚●子●隨●おさなごのしたがう

綠●楊●隄●りょくようのつつみ　夕●日●迷●ゆうひにまよう

雨●三●家●さんかのあめ　素●新●茶●しんちゃをもとむ　折●荷●花●はすのはなをおる　映●淺●沙●あさきすなにうつる　酒●帘●斜●さけのはたかたむく　托●生●涯●しょうがいをたくす　酒●須●除●さけはまずのぞくべし

白●沙●隄●しらすなのつつみ　曉●烟●迷●ぎょうえんまよう

山路　隔嶺　竹影　涼陰　虛枕　蜂影　葉聲　松塢　竹間　雲開　若徑

竹窓　幽僻　溪聲　槐影　風生　羨茗　風動　翠陰　古木　鳴蟬

舍雲　碧樹　坐治　山禽　一路　茅舍　採藥　高枕　谷鳥　林巒　白屋

夏木清　水一泓　泉石盟　寄此生　羨茶鎗　絕微聲　一草堂　北窓涼　橘花香　木千章　避熱方

雨送涼　滿院香　夏日長　映池塘　入睡鄉

一鳥鳴　丘壑情　簷丁丁　踏石行　汲泉烹

夏之部

晚雨　北窓　重陰　山橋　紗衣　重開　被襟　樹底　濕泉　蒼苔

池亭

清風　高枕　枕簟　溪雨　機客　深松　番木　松風　醒酲

池亭觀蓮

水榭

日夕　科頭　幽居　青苔　山園　風窓　偶成

清池

卽仙鄉　苔綠窓　避午陽　泉噴雪　蕃薇架　松風冷　綠底事　青峰色　唯高枕

池畔

千切岡　坐看朱　送斜陽　銷長夏　如酥雨　詩有債　長松下　清涼足

滿池

翠荷 初遊 風來 荷葉 迎香 自起 同遊 薫風 波搖 風動 蔭荷

圓荷 碧遠 輕風 人衣 擁簾 池面 雨過 荷粉 照水 芙蓉 池頭

池邊 香濕 荷花 池塘 開窓 斜日 園林 池中 游魚 月影 芰荷

美人姿 浴西施 映漪 月昇時 氷玉肌 十里塘 遠搖香 吐清香 午風涼 晝亦涼 祭野航

君子姿 翠蓋波 翳華滋 迎香奇 滴臙脂 藕花裾 十分香 西子粧 拂檻涼 綠池傍 荷葉衰

夏之部

驟雨

夏水 花發 清香 凌波 君子 風靜

滿池 出水 美人 冉冉

花開 紅脈 妖艶 香遠 合露

一雨 城頭 雨來 雨聲

暑雨 過雨 爽氣 風急

急雨 白雨 風生 風迎

起油雲 潑墨雲 濕暑氣 雨粉

君子質 齊出水 擎雨蓋 風露夕 周子說

半天雲 雨脚分 絶炎氣 帶斜曛

洗暑　送涼
傾河　飛電
卷雨　猛雨
颿輕　過江來
猛風　涼來
林梢　曉涼
望中　注荷杯
俄爾　露色開
激湍　避暑臺
奇峰　知秋
炎空　飛雨
翻墨　遠雨足
龍柱　驕熱
暴雨　衆星
驚雷　被褥坐
遊來　饒涼氣
驟秋　浴雨
天秋　峯外
早雁　溽暑
凉生　殘螢
秋風　來青
卷地　江上
白帝　涼雨
園秋　卷帷
風高　涼風

立秋

酒半醺　對南窻
一聲雷　殷殷雷
過江來　送涼來
氣快哉　晚涼爽
夕照催　注荷杯
片刻開　露色開
壓浮埃　避暑臺
宋玉才　知秋
驕熱　遠雨足
遠雨足　鵲河勢
鵲河勢　颯爽風
颯爽風　飛露珠
飛露珠　如意福
如意福　福祿壽

報秋初　衆星際
早涼初　機酥暑
濕天客　被褥坐
午夢餘　凉氣入
葉未砕　饒涼氣
聽砧初　入郊墟
驚秋蘭　過雨餘
夜窓虛

七夕小集

菌（ばね）　蕣（すい）　登樓（ロングーボルレバ）　衣襟（きもの）　蔀條（ものたばし）　霊匹（にせい）　羽車（しょうじのひらびらもの）　香薷（ナンジン）　別怨（わかれのうらみ）　河鰭（かはばね）　橋渡（かけはし）

暑（ショ）　侵衣（イヤフカス）　陳雨（はるさめ）　颯爽（さっそう）　此夜（ツヒ）　雲鬢（ウンビン）　二神（ふたつのかみのこと）　一年（イチネン）　仙期（センヤ）　更深（よふけ）

罷屬（すべてしたがふこと）　蟬吟（せみがなく）　砌蟲（にはにむしがなく）　七襄（たなばたのこと）　雲輧（ウンヘイ）　別情（わかれるこころ）　天逈（テンケイ）　三秋（サンシウ）　河漢（アマノガワ）

新蟋蟀（シンシツシュツ）　荷花老（はすのはなもよわる）　輕吹起（そよ〳〵とかぜがふきおこる）　天宇淨（そらがきれいだ）

半女星（ひこぼし）　織女星（たなばたぼし）　一葉零（ひとはがちる）　撲流螢（ほたるがうつ）　冷畫屏（びやうぶがさむい）　雲母屏（きらびやかなびやうぶ）

倣涼動（すゞしさをまねる）　銀漢露（あまのがはのつゆ）　商飈動（あきかぜがふく）　涼如水（すゞしさがみづのやうだ）

會雙星（たなばたぼし）　露滿庭（つゆがにはにいっぱい）　酒半醒（まひのさめる）　的的盤（ひかりかゞやくさま）　水精屏（すいしやうのびやうぶ）　酌緑醽（よいまひ）

草衰（くさおとろへ）　結驚（ハクノオドロク）　孤鴻（ひとつがいのかり）　天高（アキノソラタカシ）　蚊虹（かやのボウ）　暮景（くれのけしき）　夜涼（ヤリヤウ）　井梧（あきのきざし）　一夜（イチヤ）　新秋（はつあき）

遥謝（はるかにわかれる）　又遇（ふたゝびあふ）　風聲（フウセイ）　烏鵲（カラスとかさ）　秋聲（あきのおとづれ）　桐飛（きりがちる）　秋至（アキイタル）　晩來（くれがたより）　銀河（あまのがは）　炎消（あつさがきえる）

夜露（ヤロ）　驚秋（アキニオドロク）　金氣（あきのき）　氣澄（キスム）　一雨（ひとあめ）　襲籠（レンロウ）　新涼（はじめてすゞしい）　滿目（めにみへるもの）　窓外（ソウグワイ）　初月（ミカヅキ）　晩雨（くれがたのあめ）

風入廬（イホリニカゼガフク）　季鷹魚（ジュンサイ）　曉吹輕（あさかぜがそよ〳〵）　報秋蟲（あきをしらせるむし）　戰風蟬（かぜにたゝかふせみ）　野堂清（すゞしいにわ）　槿花榮（ムクゲノハナサカル）　促織鳴（こほろぎがなく）　秋晤生（あきがくる）　秋已立（あきがたつ）　蘭末秀（らんのはがのびる）

早蛩鳴（こほろぎがなく）　客心驚（たびびとがこゝろをおどろかす）　踏沙行（すなをふんであるく）　風露色（つゆのけしき）　梧桐影（きりのかげ）

滿座（ざしきにいっぱい）　水竹居（すゐちくのすまひ）　葛衣輕（かたびらがかるい）　滴露聲（つゆのしたゝるおと）　分外清（ブンガイセイ）　一帶橫（イッタイヨコタフ）

白露 楊石 雲路 雨懐 向月 清露 桂樹 珍果 七夕 涼月 弄杼

星座 銀樓 牛闌 秋河 隣風 白楡 今宵 經年 半輪 鵲駕

雲閣 覓裳 銀漢 別緒 壁線 新別 酒盈瓶 筆不停

鳳星期 烏鵲枝 流河時 織女絲 新別離 酒滿巵 玉露滋 透簾帷 烏鵲噪

燈影青 隔年期 碧梧枝 乞巧時 賦新詩 有所思 月影移

雙星會

一一八

秋之部

初秋郊行

蜘蛛 蟋蟀 月冷 金鉞 涼天 雲衣

穂棱 風清 穿窗 臥看 飛檐

粉牖 映月 紅絲 遙知 彩盤

立馬 沽酒 秋水 鳥雀 村童

酒郊 愁風 衰草 荒蹊

秋郊 牧笛 牛羊 遠樹 微溪

橘葉動 孚乞巧 離別恨 牛女別 牛落夕

早秋天 稲花天 半菱蓮 遠暮鐘 一縷烟

七月天 滿架瓜 驚蜂鬧 曉秋蟬 起茶烟

一一九

漁歌 出郭 緩歩 満袖 木葉 連村 酔眼 暮蝶 桑葉 徑斜 緑岸

牧笛 風捲 郊行 荒畦 殘草 村落 落日 千山 野色 小雨 平田

野叟 秋雲 秋意 林畑 一徑 疎林 烟叢 晩照 眸中 人家 高樹

七月 緑水邊 禾穉黄 野日黄 晩風涼 一路香 野渡 野趣長 殘炎欲 暮山蒼 過雨後

夕陽前 報豊年 線舍黄 送新涼 稲花香 下千羊 帯夕陽 幽興長 露濕袈 秋景淺 瓜棚下

山鳥 更遊 畑蔬 山雲

幽居 釣月 草蔓 高枕 寵辱 青松

秋日訪隱者

窓螢 山色 莎雞 山遥

閑居 歸山 幾門 江湖 林泉 偶到

喜痴 曠野 秋影 夕陽

高人 卜宅 都忘 幽巖 閑看

桐陰 雞犬響 携竹杖 禾黍熟

殘炎欲 暮山蒼 過雨後

亂山秋 紅樹秋 獨相求 足一丘 洞口流 不斷流

村舎急 三兩月 前村暮

菊籬秋 落葉秋 到林丘 石泉流 繞竹流 抱村流

掃門 客至 柴門 草舍 曳杖 抱琴 貧郭 青樽 秋風

深竹 杖藜 草立 燒棄 漁唱 閉門 苔蘚 栽菜 劉雲 市遠 芳蘭

慶尾 一室

一瓢 臨泉 看雲 棄魚 垂釣 黃花 樵歌 叩門 談玄 蒼苔 凡視 窓列 讀書 青山 葉柄 閑眠

問路 一揖 松竹 任懶 松童 茗煎 果樹 星漏 星漢 笑相留

渡漁 閑却 尋幽 故人 閑敲 甕牖 閑行 來尋 携酒 乘晴 松巖 竹徑 蒼蘚

寒砧 群山 客來 掃門 繩樞 茅衡 草舍 柴門 紅葉 秋風

秋未深 吐露心 引鶴舞 暮蟬吟 萬葉吟 寒山路 蓬蒿父 人語絶 鹿童子 山看足

夕日沈 其趣心 綠綺琴 聽龜吟 三五里 開戸木 聽猿聲 村酒熟 猿鶴伴 無海味

夕日留 事事幽 晝蟬聞 碧溪頭 宿鳥投 避塵喧 早蛩音 約童尋 竹樹林 人深林 此追尋 有清音 流水音 鹿吻吻 繰羊頭 茗煎甕 果樹洞 星漢間 笑相留

古木 山寥

秋日懐人

關山 對酒 未曾 獨倚 水遠 日月 別來 邊關 與誰

風雨 臨風 夢同 高樓 破夢 共看 獨作 白雲 秋雁

秋雨 已期 久違 西風 清風 明月 月冷 孤枕 附書

桃源趣

落西東 八月鴻 雨心同 夢寐中 劍雄雄 霜葉紅 嘆轉蓬 恨無窮 路漫漫

托秋鴻 恨不同 寄詩筒 在詩中 詩句工 夢魂通 九秋蓬 落木風 夢中獻

日暮 高秋 徒有 離別 湖海 骨共 秋風 江上 往年 登臨 涉世 自無 幾行 不知 遙想 惜別 悲秋

問訊 百年 雨深 愁入 貧病 何處 遙懐 蹉跎 聞道

往日歡 落木寒 涙不乾 問加餐 曉夢殘 仔細看 思百端 賠珠玕 鱗羽信

關山月 安穏否

衡早寒 社盟寒 旅服單 問平安 臭如蘭 好誰看 杜長嘆

明月夢 千里鴈 西風冷

風擂(フウライ)　纖雲(センウン)
素輝(ソキ)　長空(チヤウクウ)
年年(ネンネン)　永夜(エイヤ)
入夜(ニフヤ)　雲開(ウンカイ)
相對(アイタイ)　掃影(サウエイ)
昔月(セキゲツ)　妝臺(シヤウダイ)
秋夜(シウヤ)　清窓(セイサウ)
漸移(ゼンイ)　帶香(タイカウ)
合風(カフフウ)　四壁(シヘキ)
金樽(キンソン)　筐歐(キヤウオウ)
滅燭(メツシヨク)

光凝(クワンギヤウ)　輪墨筐(リンボクキヤウ)
萬里(バンリ)　賦新篇(フシンペン)
人間(ジンカン)　隔山川(カクサンセン)
吟脉(ギンミヤク)　鏡輪圓(キヤウリンエン)
桂香(ケイカウ)　鬱不開(ウツフカイ)
今宵(コヨヒ)　絕機瑛(ゼツキエイ)
輪影(リンエイ)　其咽懷(キエンクワイ)
鏡光(キヤウクワウ)　曙色催(シヨシキサイ)
風露(フウロ)　笛聲哀(テキセイアイ)
露泡(ロホウ)　捧玉觴(ホウギヨクシヤウ)
西風(セイフウ)　庾亮才(ユリヤウサイ)

照華筵(セウクワエン)
暗香傳(アンカウデン)
正酣然(セイカンゼン)
桂花開(ケイクワカイ)
影徘徊(エイハイクワイ)
瑤琴杯(エウキンハイ)
好事杯(カウジハイ)
饒鎗催(ジヨウサウサイ)
送雨來(ソウウライ)
候雁哀(コウガンアイ)
獨登臺(ドクトウダイ)

客夢(カクム)　中秋(チユウシウ)
風雲(フウウン)　桂魄(ケイハク)
悲心(ヒシン)　清夜(セイヤ)
渺渺(ビヨウビヨウ)　玉盤(ギヨクバン)
晴魄(セイハク)　兎魂(トコン)
蟾娥(センガ)　桂樹(ケイジユ)
風流(フウリウ)　遍宵(ヘンセウ)
清秋(セイシウ)　移席(イセキ)
白露(ハクロ)　地白(チハク)
逸興(イツキヨウ)　冷露(レイロ)

萬里(バンリ)　月色(ゲツシヨク)
玉輪(ギヨクリン)　蟾精(センセイ)
似畫(ジクワ)　遠浦(エンポ)
廣庭(クワウテイ)　棲鴉(セイア)
詩魂(シコン)

無概意(ムガイイ)　龍南桂(リユウナンケイ)
專嬋美(センセンビ)　雞栖洲(ケイセイシウ)

隨月正圓(ゲツセイエン)　一鏡圓(イツキヤウエン)
十分圓(ジフブンエン)　玉輪圓(ギヨクリンエン)
嫌長天(ケンチヤウテン)　桂花天(ケイクワテン)
欲雨天(ヨクウテン)　雨綿綿(ウメンメン)
鎖雲烟(サウンエン)　淨無烟(ジヤウムエン)
宿鳥眠(シユクテウミン)　人未眠(ジンミミン)
不須眠(フスミン)　任陶眠(ニントウミン)
醉中仙(スイチユウセン)　影娟娟(エイケンケン)

秋夜園基

皎月　銀色　半夜　對月　百尺臺　雨中擢
分明　千里　更闌　三五夕　秋三五
吟望　雲翳　隱見　蟾蜍影　嫦娥冷
藏蟾　雲生　罷賞　人定後　棲烏穩
徹筵　遮約　衙期　隙蟲切　蟲唧唧
空期　何處　冷透　三秋半　雲間貨
雲擾　埋沒　點滴　更漏轉　風兼雨
不堪　安得　何事　畑雲暗　空惆悵
蒼茫　不辨　空傳　徒掩戸　豆花雨
添愁　空濛　寂寞　寂寞　雲寂寞

清夜　園基　敵局　下子聲　百尺臺
夜深　爭先　寂無聲　響丁丁　雨中擢
決勝　對坐　爽秋名　黒白爭　秋三五
席上　黒白　互呑并　到五更　嫦娥冷
有聲　對面　敵手爭　到天明　棲烏穩
空客　聲高　石爲枰　出奇兵　蟲唧唧
松窓　局裡　叩楸枰　事嬉娯　空惆悵
人間　風籟　八陣圖　苦中娯　豆花雨
夜燭　清宵　圍碁子　手談俱　風兼雨
疎簾　風清　橘叟圖　備不虞　雲寂寞
掩簾　月到　幽窓　月影　戰龍　閑中　竹院　勢布　藏機　無言　縦横　設計　幽人

庭梧 ニヨリテ
牛窓 ニ
孤燈 ノ
殘月 ノ
燈下 ニ
牀頭 ノ
夜色 ノ
青燈 ノ
蟲聲 ノ
秋聲 ノ
短寒 ノ

客舍聞雁

孤雁 ノ
偏愁 ニ
孤飛 ヒ
鴻雁 ノ
一雁 ノ
旅雁 ノ
徃雁 ノ
鳴雁 ノ

月落 ノ
殘月 ノ
不知 ノ
月滿 ノ
陰蟲 ノ
一夜 ノ
念歸 ノ

窓燈 ノ
更深 ニ
寶鴻 ノ
斷夜 ニ
傳信 ノ
一行 ノ
何況 ヤ

獨影孤 ノ
好工夫 ノ
棋一局 ノ
橋中樂 ヲ
敲棋子 ノ
天未曙 ニ

客南翔 ノ
正斷腸 ノ
五夜霜 ノ
露爲霜 ノ

鴻雁翔 ノ
旅人腸 ノ
雨雲霜 ノ
惆悵傷 ノ

振庭梧 ノ
梯空雁 ノ
文楸上 ノ
過半夜 ニ
無一語 ノ

鄉國 ノ
風烟 ノ
孤城 ニ
衰叫 ノ
遠叫 ノ
遠客 ノ
故鄉 ノ
獻聲 ノ
夕陽 ノ
蘆花 ノ
聲聲 ノ

天高 ク
感時 ノ
氷閾 ノ
西風 ノ
遠雁 ノ
空恨 ノ
惆悵 ノ
殘陽 ノ
高飛 ノ
雲邊 ノ
飛鳴 ノ

水闊 シ
郡城 ノ
傳信 ノ
一行 ノ
成群 ノ
鴻聲 ノ
秋江 ノ
低度 ル
遠浦 ノ
望盡 ノ

滯他鄉 ノ
天一方 ノ
淚千行 ノ
望渺茫 ノ
客思長 シ
半天雲 ノ
字字分 ノ
最先聞 グ
淚紛紛 ノ
送雁群 ヲ

憶故鄉 ノ
書獻行 ノ
淚沾裳 ノ
又徹花 ニ
愁愁長 シ
曉天雲 ノ
雁陣分 ル
遠夜聞 ノ
根離群 ノ
度夕燻 ノ

兄弟序
千行字
卒安報
千里信
孤意
黄菊花
岸鳥紗
似陶家
隠士家

重陽（九月九日）

山路
無限恨
家人信
孤鴻遠
秋八月
何處去

見黄花
老孟嘉
陶令家
醉爲家

暮雨
風清
夜月
斷腸
孤音
紅菱
九日
挿髪
把酒
相逢

滿空
忽聞
思郷
長天
江上
一片
月冷
寒風
孤枕
遠空
雲外
秋風
菜菌
痛飲
黄菊
俱英
浮觴
醉來

酒杯
江楓
登臨
新詩
竹葉
回首
行樂
風流
滿眼
雲雁
醉吟

菊花
開
綠酒
相看
幽菊
醉中
年年
遍挿
酣歌
風光
斜陽
霜花
雁落
同傾
吹帽
携壺

烟酔
陶家
登山
西風
此會
酔把

秋之部

髪有華
烏帽斜
酒須除
競相誇
酔東籬
彭澤詩
巧裁詩
露菊枝
放杯遅

落帽時
日暮時
菊花時
笑語譁
歸路除
夕照斜
引昏鴉
髪遊華
對菊雛
少陵詩
徹霜枝
酒一巵

參軍（サングン）　佳辰（カシン）　晴雲（セイウン）
風吹（フウスイ）　水遠（スイエン）　載酒（サイシュ）
歛娟（レンケン）　黃花（クワウクワ）　且揷（シヤソウ）
良辰（リヤウシン）　金菊（キンキク）　晴山（セイザン）
斜雁（シヤガン）　憑高（ヒヨウカウ）　菊蕊（キクズイ）
送酒（ソウシユ）　楓林（フウリン）　高秋（カウシウ）
半醉（ハンスイ）　登賞（トウシヤウ）　開筵（カイエン）
晚興（バンキヨウ）　江山（カウザン）　雨歌（ウカ）
霜飛（サウヒ）　高齋（カウサイ）　樽中（ソンチウ）
延客（エンキヤク）　詩家（シカ）　菊芳（キクハウ）
對酒（タイシユ）　銜杯（カンパイ）　相携（サウケイ）

不極（フキヨク）　古梵宮（コボンキユウ）　黃菊酒（クワウキクシユ）
帽影歌（ボウエイカ）　一林楓（イチリンフウ）　紫桑宅（シサウタク）
蒼木悲（サウボクヒ）　飽霜楓（ホウサウフウ）　陶彭澤（タウホウタク）
髮邊絲（ハツペンシ）　樹樹紅（ジユジユコウ）　黃楓堰（クワウフウエン）
南山色（ナンザンシキ）　遠深紅（エンシンコウ）　蕭蕭下（セウセウカ）
畫屏中（グワヘイチウ）　遠九九（エンキウキウ）
夕日烘（セキジツコウ）　南山色（ナンザンシキ）
錦繡叢（キンシウソウ）

此（シ）追隨（ツイズイ）　白衣酒（ハクイシユ）　梵王宮（ボンワウキユウ）
日易移（ジツエキイ）　籬邊菊（リヘンキク）　萬樹楓（バンジユフウ）
不須歸（フスキ）　陶節（タウセツ）　霜後楓（サウゴフウ）
悲秋客（ヒシウカク）　同載酒（ドウサイシユ）　勝花紅（セイクワコウ）
登高日（トウカウジツ）　舞晚風（ブバンフウ）
案（アン）黃色（クワウシキ）　句亦工（クエキコウ）
悲（ヒ）秋客（シウカク）　蹙彩虹（シユクサイコウ）
碧溪東（ヘキケイトウ）

觀楓

坐上（ザジヤウ）　萬峯（バンポウ）　霜葉（サウエフ）　紅楓（コウフウ）
霜風（サウフウ）　丹楓（タンプウ）　風瓢（フウヘウ）　醉目（スイモク）
新丹（シンタン）　餘霞（ヨカ）　碎錦（サイキン）
胭脂（エンジ）　亂霞（ランカ）　紅鑑（コウカン）
錦綺（キンキ）　錦片（キンペン）　秋風（シウフウ）
曉楓（ギヤウフウ）　夕照（セキセウ）　楓樹（フウジユ）
楓葉（フウエフ）　露下（ロカ）　葉葉（エフエフ）
遠憎（エンゾウ）　紙園（シエン）　上方（ジヤウハウ）

陰風（インプウ）　曉來（ギヤウライ）
颯颯（サツサツ）

鴈（ガン）
鴈影（ガンエイ）　古梵宮（コボンキユウ）
南飛鴈（ナンピガン）　一林楓（イチリンフウ）

芙蓉（フヨウ）
芙蓉醉（フヨウスイ）　梵王宮（ボンワウキユウ）
萬樹楓（バンジユフウ）
霜後楓（サウゴフウ）
勝花紅（セイクワコウ）
舞晚風（ブバンフウ）
句亦工（クエキコウ）
蹙彩虹（シユクサイコウ）
碧溪東（ヘキケイトウ）

問音　霜氣　千枝　楓林　古壁　夕陽　秋霜　曉霜　霜林　收盡　露染　寶閣

詩僧　赤葉　雲間　晩霜　山色　千林　散去　曉煙　霜乾　寺閣

曉來　掩映　空山　遠澗　霜重　秋後　風霜　照山　照眼　深秋　禪堂

曲徑通　楓樹林　滿祇林　落葉深　鏡磬音　滿地金　夕陽沈　聽鐘尋　石澗淸　宿鴉「カ」　傍樹陰

伴槲蕭　祇樹林　此登臨　白雲深　送鯨音　似布金　返景沈　遠此尋　馬上吟　石磴陰

僧厉　石磴　吟看　斜陽　幽賞　林表　菊花　秋香　籬菊　夜霜

白雲　無客　懸櫚　夕日　望眼　處處　黃花　白菊　東籬　籬下

塔影　境寂　倚檻　勝賞　幽楽　黃莢　細菊　朝露　開落

楓林晩　秋色老　霜後色　禪寂境　廻廊外　題紅葉

菊千莖　白玉英　隱逸名　似星明

寒山路　紅似錦　招提境　秋寂寂　紅間綠

吐金英　餐落英　萬種名　照眼明

閑亭　寒霜　搖風　秋來　玉莚　耐寒　秋色　深秋　鮮藍　莚舍　繁枝

相對　冷露　金英　清香　浮香　香圻　晩香　秋光　徹霜　香散　共愛

繁莚　金風　最愛　一族　滑冷　離邊　露圮　金栗　徹莚　滿眼

菊花香　露凝香　徹曙霜　白又黃　新粧　共稱觴

竹籬傍　費品評　鏤紫瑤　月輪掌　徹霜清　衰露清　畫雖成

三徑傍　晚節香　滿林霜　鮑魚軒　引興長　酒滿罌

幽香　合露　陶杯　似雪　酸都　濃白　糊斑　開處

把菊　閑園　醉看　瑤英　冷艷　素艷　濃紅　重重

風吹　把酒　食英　香飄　鮮明　清奇　淑眞

芳園裡　叢叢紫　金莚色　深院下　秋未老　仙人露　香馥郁

東廳下　彩澤裏　散霜雪　陶興屈　如洗鏡　香應絢

紫宸宮　親出窮

聖明　與文

天長節

寄叶　布澤

盛代　施德

延大東　理治功

群臣　輔政　人和　傳不窮
愛民　下情　敬化　萬國中
如子　仁恵　公明　報國忠
正大　來才　群後　國威隆
嘉祥　外交　振恤　眼底空
在廷　群賢　列職　敕旨新
民安　立憲　殊勳　天下人
熙平　疇庸　聿興　東海濱
進奏　以聞　日新　絶戰塵
庶民　歐西　佳節　苦吟身
東方　喜極　四海　答佳辰

旭旗紅　日出東　各奏功　指麾中　仰威風　雨露新　拜紫宸　草莽臣　文化新　太平民

玉扇　魯同　賜宴　明天子
鳳闕　紫林　菊花　天下治
御苑　秋色　如錦　隣交厚
車馬　纔曉　滿都　天長節
瑞氣　歡聲　正是　逢佳節
旗動　都鄙　街中　家家祝

逢聖世　四無警　千秋業　祝佳節　祝呼裏

初冬山居

繁霜　寒色　幽居　不知冬

已開冬

幽棲　竹外　風竹　柴扉　千樹　野鳥　溪聲　斜暉　隔雲　漁樵　孤棠

樓息　古木　新酒　衡門　落日　日午　石徑　雲影　留客　獨夙

隣翁　晴寒　庭　飲家　一路　茅舍　平生　松聲　陰晴　山寒　彈琴

晴入冬　白雲重　冒寒松　住年峯　霜露濃　水源深　隴鹿　鎖寂寥　覆深樹　竹機橋　抬新槌

落蘂重　掛古松　秀孤松　見前峰　濁醪濃　萬事慵　猟木橋　事採樵　草木凋

蕎蕨　猟木橋　事採樵　草木凋　落蘂重　掛古松　秀孤松　見前峰　濁醪濃　萬事慵

避塵　蜜　薪炭鏡　墜葉風　酒一甕　碑林外　寒山裡　鳴寒鳥　新酒熟　堆落葉

帯葉燒　好道　學鼠　冬尚暖　舍雪　焚掃　烏薪　初結氷

寒樹　寒輕　種薬　角巾　棋局　結宇　寄跡　松軒　獨酌

寒天　曙色　繁霜

山窓　空庭　北風　獨鶴　小隠　閑軒　苔深　無塵　垂帷

劉酒　題詩　閑眠　山空　千峰　閑坐　幽渓　高枕

硯池氷

陳林（ちんりん）　拍翅（はくし）　寒風（かんぷう）　晴雪（せいせつ）　晨起（しんき）　寒沙（かんさ）　星河（せいが）　強臥（きょうが）

起來（きらい）　梅花（ばいか）　燈殘（とうざん）

欄葉（らんよう）　轉枕（てんちん）　殘砧（ざんちん）　雞鳴（けいめい）　疎鐘（そしょう）　晨興（しんこう）　推窓（すいそう）　睡覺（すいかく）

月落（げつらく）　風霜（ふうそう）　遠樹（えんじゅ）

雞唱（けいしょう）　風雪（ふうせつ）　樓寒（ろうかん）　曉夢（ぎょうむ）　寒衾（かんきん）　木葉（もくよう）　星稀（せいき）　冒寒（ぼうかん）　霧合（むがっ）　寒窓（かんそう）　木落（もくらく）

未明時（みめいじ）　漏盡遲（ろうじんち）　待朝曉（たいちょうぎょう）　寒透肌（かんとうき）　讀書帳（どくしょちょう）

一盆氷（いちぼんひょう）　書室燈（しょしつとう）　待日昇（たいじつしょう）　霜氣凝（そうきぎょう）　百不能（ひゃくふのう）　氣稜稜（きりょうりょう）

隔宵燈（かくしょうとう）　曉不曙（ぎょうふしょ）　氣嚴凝（きげんぎょう）　淡子僧（たんしそう）　月半稜（げつはんりょう）

起坐遲（きざち）　日昇遲（にっしょうち）　一輪曉（いちりんぎょう）　枯木枝（こぼくし）　衰薄態（すいはくたい）

梅開（ばいかい）　園蔬（えんそ）　江城（こうじょう）　寒沙（かんさ）　曙雪（しょせつ）　統頭（とうとう）　汲泉（きゅうせん）　敲氷（こうひょう）　雪後（せつご）

欲雪（よくせつ）　獨立（どくりつ）　薄霧（はくむ）　寒雲（かんうん）　晴鳥（せいちょう）　出門（しゅつもん）　硯氷（けんぴょう）　朝來（ちょうらい）

閑吟（かんぎん）　濕襴（しつらん）　霜晴（そうせい）　曉雪（ぎょうせつ）　遠巷（えんこう）　開戶（かいこ）

霜染鬢（そうぜんびん）　雞鳴後（けいめいご）　霜烏噪（そううそう）　殘月下（ざんげつか）　吹茶鼎（すいちゃてい）　飢禽叫（きごんきょう）

屬佳辰（しょくかしん）　訪松筠（ほうしょういん）　竹葉春（ちくようしゅん）

曉風吹（ぎょうふうすい）　催未起（さいみき）　殘燈暗（ざんとうあん）　疎鐘響（そしょうきょう）　霜威肅（そういしゅく）

幽棲濱（ゆうせいひん）　閒隱倫（かんいんりん）　暗含春（あんがんしゅん）

至日遊山寺

冬至（とうじ）　弱線（じゃくせん）　雪後（せつご）

刺繡（ししゅう）　飛灰（ひかい）　朝來（ちょうらい）

吹霞（すいか）　持觴（じしょう）　初陽（しょよう）

催春　臘凍　寒遲

鯨看　積雪後薪

初傳　積鳥薪

坐相親

寒梅　酒巾　一醉

歲華　細石　人世　獨鳥親

乘閑　寒色　風烟　避俗塵

松筠　先入　烏角巾

柴扉　天寒　來復初

倚檻　樹杪　林外居

松老　當窓　步徐徐

山深　閑雲　人跡疎

牌關　香林　興有餘

此日　起太虛

晴約　滿階除

雪中作

冬之部

飛雪　繁雲　長空　雪滿山

遠嶺　年豐　寒更　暗前山

瑞雪　同雲　巧剪　變江山

酒盃　昨夜　銀沙　白玉顏

玉樹　飛瓊　窓前　雪滅跡

瑤華　積素　積玉　髮毛斑

撥鹽　似絮　如花　頃刻間

裁花　凝華　山勢　一味閑

遠從　輕繞　積雪　愛幽閑

輕飛　暮色　夜雪　雪初晴

四圍山　屋深山　現紙山　照瑤顏　虎文斑　宿雲顏　畫圖間　梧棲閑　雪未晴

隨風 ガフ
四望 バウ
一靜 レイ
雪色 ショク
對雪 ニタイシテ
落雁 ガン
新詩 シン
澗橋 ケウ
忽對 ニタイスレバ
銀界 カイ
枯窓 ニンス
寒月 ゲツ
扁舟 シウ
寒雲 ウン
幽庭 テイ
山擁 ヨウス
飢烏 ウ
幾樽 ソン
餓鶻 コツ
頃刻 シバラクノ
酌酒 シヤクス
折柳 ハツス
一夜 ヤ
風捲 ケンヲ
書窓 ソウ
深 シン
江橫 ワウス
凍雲 ウン
狂風 フウ
忽見 ケンヲ
烹茶 チヤヲ
無限 ゲン
一段 ダン
竹折 セツ
入 ニイル
酒寒 カンニシテ
閒梅 バイ
漱玉 ギヨクヲ
玉龍 リユウ
雪罫 ケイ
不能歸 キヲ
風有威 イアリ
萬山 サンノ
雪滿 ミツ
不放歸 キヲ
人跡 セキ
隔 ヘダツ
明 メイ
竹折 セツ
糝 サン
布雲 ウンヲ
著屐 ゲキ
酒滿 ミツ
分外 ブンガイ
辰 シン
雪滿 ミツ
路 ロ
夜 ヤ
東郊 コウ
萬木 ボク
滯 タイ
深到 トウス
沽 コヲ
無聲 セイ
深 シン
急 キフ
高低 テイ
千里 リ
捲 マク
亂 ミダル
忽 コツ
北風 フウ
夜 ヤ
凍雀 ジヤク
嚴 ゲン
漁養 ヨウ
池 チ
凍 トウ
雪 セツ
寒 カン
飛 ヒ
寒 カン
雲 ウン
遠樹 ジユ
天 テン
擁 ヨウス
雪 セツ
寒 カン
照 セウス
沽 コヲ
深 シン
風 フウ
透 トウス
衣 イ
路 ロ
夜 ヤ
阻 ソヲ
競 キソフ
雪 セツ
夜 ヤ
酒 シユ
裘 キウ

入戸　厚氷　破窓　冷壓　衾者　氣嚴　千山　片片

重裀　凍硯　滿地　寒風　阿手　陌迷　密酒　紛紛

重裘　氷合　愈覺　前山　阿筆　冷逼　凜列

雪塞　寒光

呵凍筆　凍雷響　膚生粟　茶爐下　埋幽徑　二夜宿　連陰夕　茶當酒

一枝梅　野村梅

天醸雪　寒徹骨　聲漸遥　盈尺雪　歸路沒　風雪夜　難除酒

雪映梅　百花魁

早梅　欲開

重裀　凍硯　滿地　寒風　阿手　陌迷　密酒　紛紛

春前　梅花

雪中探梅

雪合　江邊　一枝　千樹

雪塞　寒光

呵凍筆　凍雷響　膚生粟　茶爐下　埋幽徑　二夜宿　連陰夕　茶當酒

一枝梅　野村梅

天醸雪　寒徹骨　聲漸遥　盈尺雪　歸路沒　風雪夜　難除酒

雪映梅　百花魁

臘後　一樹　香迎　潔白　迷素　馬蹄　山中　仙衾　風情　細看　雪徑

南枝　孤芳　臨水　照人　江南　芳信　月明　吟懐　拙尋　清香　臘雪

雪合　江邊　一枝　千樹　雪滿　處處　林下　占盡　尋疑　照水　飄風

處處栽　小溪隈　一枝春　第一春　相映新　氷雪晨　問梅人　傍松筠　幽澗濱

買雪開　簑瓊塊　趁香來　買醉來　買村醪　雪裡春　暗偸春　競航新　屐痕新　隨頭人　問梅人

處處栽　雨般堆　積素來　雪成堆　小溪隈　一枝春　第一春　相映新　氷雪晨　問梅人　傍松筠　幽澗濱

探梅 タンバイ
詩成 シナリ
閑遊 カンユウ
吟鈴 ギンレイ
斜影 シャエイ
一牛 イチギュウ
横斜 オウシャ
携客 ケイカク
尋梅 ジンバイ
暗吐 アントハク
到処 トウショ
疎離 ソリ
猷懐 ユウカイ
郷国 キョウコク
風寒 フウカン
遠夢 エンム
月落 ゲツラク
寒江 カンコウ

冬夜泊舟

幽尋 ユウジン
滑雪 カッセツ
幽香 ユウコウ
牢愁 ロウシュウ
杖策 ジョウサク
浮動 フドウ
空江 クウコウ
旅雁 リョガン
蓬窓 ホウソウ
烏角巾 ウカクキン
白子銀 ハクシギン
南枝發 ナンシハツ
梅似雪 バイジセツ
黄昏月 コウコンゲツ
横斜影 オウシャエイ
輕輕折 ケイケイセツ
獨夜舟 ドクヤシュウ
雪滿舟 セツマンシュウ
倚蘆舟 イロシュウ
泊扁舟 ハクヘンシュウ
好維舟 コウイシュウ
蘆荻洲 ロテキシュウ
花消息 カショウソク
香霞郁 コウカイク
香暗動 コウアンドウ
三兩衆 サンリョウシュウ
點綴勻 テンテイイン

月白 ゲッパク
江星 コウセイ
舟移 シュウイ
短艇 タンテイ
長堤 チョウテイ
一夜 イチヤ
倚蓬 イホウ
落雁 ラクガン
漁船 ギョセン
天寒 テンカン
海霧 カイム
舟人 シュウジン
前浦 ゼンポ
人烟 ジンエン
寒沙 カンサ
客帆 キャクハン
客路 キャクロ
鏡塵 キョウジン
潮來 チョウライ
旅懐 リョカイ
帶月 タイゲツ
舟火 シュウカ
郷國 キョウコク
浪静 ロウセイ
天涯 テンガイ
雁過 ガンカ
和月 ワゲツ
古岸 コガン
天空 テンクウ
厚氷 コウヒョウ
海色 カイショク
寒城 カンジョウ
宿寒渕 シュクカンエン
雪未收 セツイマダオサメズ
伴宿鷗 バンシュクオウ
泊津烟 ハクシンエン
榜人愁 ボウジンシュウ
凍月浮 トウゲツフ
大江東 タイコウトウ
驚孤蓬 キョウコホウ
逆潮風 ギャクチョウフウ
斜落鴻 シャラクコウ
浮碧中 フヘキチュウ
雪酒蓬 セッシュホウ
寄書鴻 キショコウ
秋花中 シュウカチュウ
有無中 ウムチュウ
滯氷流 タイヒョウリュウ
一沙鷗 イッサオウ
月似鉤 ゲツジコウ
古渡頭 コトトウ
惹鄉愁 ジャクキョウシュウ

孤帆 ひとつ
寒雨 ふゆの
愁眠 ねむれぬ
夜靜 しずかなり
平沙 すなはま
雨岸 きし
寒潮 うしお
晴月 はれた
渺渺 はるかにひろがる

江水 かわ
急雪 にわかに
夜泊 とまる
泊舟 ふねがかり
宿雁 かりがね
潮平 ウシホトヒラカニシテ
不知 シラズ
寒江 さむい
漫漫 ひろびろと

山月 やまにのぼる
雪霽 はれる
三更 よなか
夜久 ふける
寒浦 うらべ
今夜 こんや
何處 いずこ
月照 てらす

雪滿空 そらいっぱい
望不窮 はてしない
喞水鳥 みずどり
蘆動 ゆれる
纔處 ところ
鄉夢 ゆめ
燈火暗 くらい
還買醉 また
風潮急 はげしい

何處寺 どこの
風捲雪 ふきまく
風刀冷 かたなで
山陰與 うらがわ
寒燈滅 きえる
眠鐘 ねざめ

四山空 やまは

歲暮感懷

駒陰 しまの
獨坐 ひとり

忽見 たちまち

聚將除 としもも

闔歲除 としのこと

春通 はるが
遠盡 とおく
春逼 はるが
憂心 うれい
半夜 よなか
寒燈 ともしび
世事 よのこと

紿悟 だまされた
年光 としつき
家家 いえいえ
新梅 あたらしい
五更 よあけ
流年 ながれゆく
臘月 しわす
萬事 よのこと
滿眼 めにみち
推窓 まどをおす
人事 ひとのこと

人聞 ひとは
春消 はるが
燈光 ともしび
暮景 くれ
挑盡 かきたてる
世慮 よのなかのこと
凍雪 こおる
鐘聲 かね
明年 らいねん

感有餘 おもいのこり
一草廬 いおり
養窓疏 まどをやしなう
惜居諸 ときを
與世疎 よのなかと
常晏如 つねにやすんず
隨老居 おいにまかす

感流年 としのゆくのを
獨不眠 ねむれない
殘臘天 としのくれ
嗟逝川 ながれゆくみずを

愛三餘 ひまを
臥茅廬 いおりに
夜窓虛 まどのしずか
階石儲 いしだたみ
泊生硯 すずりを
似蠹魚 むしのごとく

待明年 としを
對壁眠 かべに
轉凄然 さびしく
一之酒鏡 さかずき

星回 歳帯 家人 除夜 椒盤 臘残 歳序 官暦 歳杪

迎春 燈燭 春到 除夕 殘燈 歳除 神燕 冬去 往算

開遊 風雪 物華 爆竹 春遅 盤花 鬼丸 寒酔

買書餞 陵谷遷 蜀輿玄 東流水 駒過隙 勝遊夜 三多抄 常多捲 天將暗

百盧煎 箭離弦 少周旋 更漏轉 歸来得 雲鬟歳 鏡結夢 無限意

雑部

壽某太翁

龜齢 喜逢 詩酒 松筠 碧桃 笑開 龜鶴

不老 誕節 笙歌 仙人 花底 年華 長庚

喜色 佳氣 蓬壺 採芝 遐齢 長春 桃實

杖郷年 杖朝年 杖國年 古稀年 此開筵 姓名簿 卽神仙 小洞天 舞踊躍

秘書筵 九如篇 瑞氣罨 綺席前 竹素傳

壺中(こちゅう)　開宴(かいえん)
無窮(むきゅう)　五雲(ごうん)
紫霞(しか)　神仙(しんせん)
和氣(わき)　喜色(きしょく)
霞杯(かはい)　盛宴(せいえん)
龍管(りゅうかん)　朱顔(しゅがん)
彩衣(さいい)　青松(せいしょう)
延齡(えんれい)　養老(ようろう)
紺髮(こんぱつ)　碧瞳(へきどう)
流霞(りゅうか)　延年(えんねん)
獻樂(けんがく)　僧老(そうろう)

樂事(らくじ)　結實(けっじつ)
長生(ちょうせい)　白首(はくしゅ)
高年(こうねん)　仙鼎(せんてい)
庚長(こうちょう)　兒孫(じそん)
鳳笙(ほうしょう)
膝下(しっか)
大椿(たいちん)

覺(さとる)　開壽域(かいじゅいき)
辰(しん)　第一人(だいいちにん)
屬佳辰(しょくかしん)　壽無限(じゅむげん)
待千春(たいせんしゅん)　延年術(えんねんじゅつ)
綠髮新(りょくはつあらた)
會佳賓(かいかひん)
倨傲倫(きょごりん)
孤節(こせつ)

初度辰(しょどしん)　松椿壽(しょうちんじゅ)
六十春(ろくじっしゅん)　呈祥(ていしょう)
伴大椿(はんたいちん)　鶴髮人(かくはつじん)
酒千巡(しゅせんじゅん)
陸海珍(りくかいちん)
獻壽觴(けんじゅしょう)
雲五色(うんごしき)

壽某太孺人

瑤地(ようち)　王母(おうぼ)
賀客(がかく)　萱花(けんか)
翩翩(へんぺん)　星祥(せいしょう)
清容(せいよう)　懸帨(けんせい)
門懸(もんけん)　錦帨(きんぜい)
上壽(じょうじゅ)　長有(ちょうゆう)
嫦娥(じょうが)　慈顏(じがん)
綠鬢(りょくびん)　花顏(かがん)
玉堂(ぎょくどう)　閨秀(けいしゅう)
蘭桂(らんけい)　玉人(ぎょくじん)

壽觴(じゅしょう)
五鳳(ごほう)
慈親(じしん)
漢宮(かんきゅう)
慈孫(じそん)
婺女(ぼじょ)
童顏(どうがん)
賓筵(ひんえん)
慈闈(じい)

圖　五雲輝(ごうんかがやく)
鳳彩衣(ほうさいい)
斕錦機(らんきんき)
萱草肥(けんそうこえる)
古來稀(こらいまれなり)
附　金母堂(きんぼどう)
玉樹芳(ぎょくじゅかんばし)
萬壽觴(ばんじゅしょう)
九霞觴(きゅうかしょう)
表慈祥(ひょうじしょう)

侍慈闈(じいにつかえる)
斑爛衣(はんらんい)
孟母機(もうぼき)
青鳥飛(せいちょうとぶ)

奉萱堂(ほうけんどう)
第一章(だいいっしょう)
七十霜(しちじっそう)
壽無疆(じゅむきょう)
五雲光(ごうんこう)

慈祥　閫風　滿堂　青鳥　瓊液　光風　八秩　壽域　本賀

花堂　玉池　祥光　神駒　雙鳳　融融　春日　襲衣　健在　住週

賀新婚

鴛鴦　良媒　琴瑟　青鸞

魚水　梁園　六旬　蘭孫　如春　壽筵　長年　仙骨

孝子愛　却老方　王母壽　同孟母　蔣羅鶴　島反哺　芝蘭茂　南山曲　知命域

合歡花

奥自長　瑤池宴　蟠桃熟　和鳴鳳

夜合花　三多祝

織女車　入窓紗　掌上珠　合歡枝　遠此移　瑞烟扇　射爻

柳眉　如意　下落地　連理枝　鳳凰枝　氣候嘉　璧聯華　並蒂花　玉無瑕　龍碧紗

是佳期　氷玉肌　挺幽姿

獻情　永諧　喜氣　龍飛　好夢　執鴈　雙柄　泉案　東床　氷清　桃李

良媒　琴瑟　青鸞　鳳占　比翼　僧老　如賓　春風

吉士　紫鳳　佳兆　吉夢　鵲喜　鳳皇　麟兒　更慶　玉潤　春色

玉簫 吹徹 雙鳳曲
芙蓉 蓑花 堪憐老
香幃 蘭薫 琴瑟和
畫眉 金閨 異去年

哭友人

埋玉 沈珠 淚然
往事 故人 金玉緘
埋骨 浮雲 隔川
姓名 聲名 草芋
何處 傷懷 萬感
空餘 雨暗

傷心 獨悵然
堪傷 周遊紙
奇才 絶朱絃
忽驚 遥不逢
荒山 恨綿綿
雲昏

續 牛女匹 獨悵然
胸唯樂 周遊紙
標梅吉 絶朱絃
氷未拌 遥不逢
恨綿綿
二十年

續 山水聲 白雪聲 泣孫壁
泪縦横 不埋名
竹帛名 一孤壁
故人情 獨傷情
畜妣盟 往昔盟
奈塞盟
歌薤露 空懐宿
名不朽 千行涙
空有字

續 夜笛 憩死 時遂 目斷 捐館 洞櫳 遺稿 空留 掛劍 夜臺 佳城
隣笛 相弔 花蕚 唯有 永訣 悄悵 荒草 憶君 泉臺 玉樓 訃聞
蘭枯 墟墓 水流 恨無 玉樹 空想 物在 招魂 愁絶 九原 天乎

閨怨

雙雞 斗酒 還愛 歸永夜

閨中 楊柳 落花 幾度 閨閣 吹夢 綠窓 郎去 遠信
疑粧 夫婿 徹雨 春眠 別離 楚江 無伴 天涯 無憑
少婦 月下 臨風 關山 西風 深閨 愁人 歲月 東風

雁北歸 未歸人 寄秦太一 嫁時衣 錦字機 姑願違 負芳菲 引雛飛 隔炎涼
雁北歸 淚濕衣 夢金徽 音信稀 翠幃 憶遼陽 燕入扉 百花飛 有新霜

雜部

吹根 音書 夜更 芳草 愁看 玉枕 夜長 春閨 惟有 碧窓 寒更
墜露 秋雁 春風 思遠 夜殿 夜月 秋盡 夜殿 斜月 暁鴉 忍看 陰蟲
流螢 機杼 入夢 楊花 遠別 金閨 可憐 啼斷 愁聽 空閨
木葉黃 獨斟腸 鸞金堂 合歡床 雁幾行 驚空入夢 驚禽瓦 刀尺冷 双栖燕 廻文錦 陰蟲語
菊花黃 淚沾裳 腐新粧 淚千行 望杳杳 空閨裡 硯山月 同心結 鳴螿悼 花自落

邊詞

夢魂 夜夜

大漢 風塵 原頭 曠野 輕車 孤城 陰風 雪淨
黃河 輕騎 夜深 遙望 萬里 天涯 日暮 胡天
白草 秋天 黃昏 羌笛 黃沙 長征 北海 塞上
愁夢覺

漢時關 明月關 大軍還 破胡還 月彎彎 賀蘭山 戍樓間 戍邊陽
雁門關 人未還 獫狁還 月似鉤 在燕山 暗雪山 沙漠間
無消息 紫塞霜

邊詞 結部

塞塞 年年 雪暗 何人
風吹 片月 塞城 夜宿 胡軍 邊月 潮雪
月明 黃雲 旭旗 邊城 塞鴻 陰山 烽火 風多 何處 邊風
吹角 北風 邊霜 劍雲 平沙 沙磧 磧鳴 夜半 胡笳 腥風
已絕 曩金 起朔方 雁一行 淚沾裳 不須防 獨關腸 道路長
秦時月 羌笛響 知有敵 胡笳曲 破蠻羌 木葉黃 羽林郎 望沙磧
鴻雁翔 左賢王 淚千行 磧衣裳 骨香 沙漠 紫塞 霜

加撃　征衣　落日　戦士

戦馬　胡塵　一雁　戎馬

強虜　幾日　月中

追騎虜　氷開日　叢古裏　和親策

河邊骨　吹白草　長城窟　遠征客

畫題

泉石　點綴　天機　斷岸　煙雲　妙手

飛湍　鋪張　雪浪　孤峰　翠滿　丹青

怪石　意匠　煙嵐　波浪　良工　蔓色

東

水西　東下　小橋　通一幅中　翠微中　奪天工　一朶紅

水浸空　一徑通　凡尺中　縹渺中　造化工　滿林紅

雨三鴻　古樹驚　釣魚翁　一林楓　上屏風

叢

雨三株　叢根株　叢篠　滿帆風　細細風

望無窮　一釣遙　吐積雪　一徑斜　遠岫孤　遠鴻孤　一峰孤　漁艇孤　一徑迂

水一隅　雲匝　有若無　釣戈娯

彩雲　揮毫　點屏風　筆端　寫出　山分　入神

五　坐　臥　落筆　毫端　永石　山色　信手　胸中　青山　欲動　靜有　坐中

臥遊　落筆　永石　遠景　筆下　江流　精神　氣勢　健筆　古壁　川流

知流　彷彿　妙筆

江山

石激（セキゲキス）　有色（イロアリ）　無聲（コエナシ）　隔溪聞（ケイヲヘダテテキク）
黛青（マユズミノヨウナ）　翠碧（ミドリアオシ）　白波（シラナミ）　秋潮（シュウチョウ）
青巒（セイラン）　疑聞（ウタガイキク）　自得（ジトク）　入新圖（シンズニイル）
乍疑（タチマチウタガウ）　試向（コレニムカッテコヽロミル）　筆底（ヒットニアリ）　南岸廬（ナンガンノイオリ）
練光（レンコウノ）　拂黛（マユヲハラウ）　席上（セキジョウ）　一幅圖（イップクノズ）
墨迹（ボクセキ）　擎舒（ササゲノベル）　入座（ニュウザ）　過橋沽（ハシヲワタッテカウ）
咫尺（シセキノアイダ）　壁上（ヘキジョウ）　新圖（シンズ）　山骨瘦（サンコツヤセテ）
何人（ナンビトカ）　收拾（シュウシュウ）　江湖（コウコ）　隔溪聞（ケイヲヘダテテキク）
都在（スベテアリ）　只留（タヾトヾム）　長在（トコシエニアリ）　烟樹裡（エンジュノウチ）
山川（サンセン）　屏間（ビョウノウチ）　驚響（ヒヾキニオドロク）　千里色（センリノイロ）
逸筆（イッピツ）　怪秋（アヤシムアキノ）　無楓（カエデナシ）

贈僧

風煙（フウエン）　高手（コウシュ）　揮成（フルヒアゲ）　孤亭上（コテイノウエ）
看盡（ミツクス）　高人（コウジン）　　　　鎖樵路（ショウロヲトザス）
眞僧（シンソウ）　高僧（コウソウ）　茲翁（コノオキナ）　　
出家（シュッケ）　老衲（ロウノウ）　洗鉢（ハツヲアラウ）　圖僧禪扉（ソウゼンノトビラ）
飛錫（ヒショク）　掛錫（シャクヲカケル）　蓮社（レンシャ）　滑苔蹤（コケノアトスベル）
說法（セッポウ）　脫障（ショウヲヌグ）　解脫（ゲダツ）　翠濕衣（ミドリニシメルコロモ）
細衣（サイエ）　錫杖（シャクジョウ）　鳴鐘（ショウヲナラス）　隔翠微（ミドリヲヘダテテ）
丈室（ジョウシツ）　一鉢（イッパツ）　三衣（サンエ）　佛燈輝（ブットウカガヤク）
衣鉢（エハツ）　塵外（ジンガイ）　爇香（コウヲタク）　輒易逸（タヤスクハシル）
烹茶（チャヲワカス）　隨緣（エンニシタガッテ）　香烟（コウエン）　客跡稀（キャクセキマレニ）
　　　　　　　　　　　　　　踏月歸（ツキヲフンデカエル）

雜部

芽屋燕（ヤニツバメ）　長春薇（チョウシュンノビ）　碧山圖（ヘキザンノズ）
千山暗（センザンクラシ）　比丘衣（ビクエ）　鳥道微（チョウドウカスカニ）
　　　掛禪衣（ケゼンエ）　夢魂飛（ムコントブ）
　　　　　　　　乞花歸（ハナヲコウテカエル）

山中 サンチュウ
山月 サンゲツ
逢迎 ホウゲイ
遙羨 ヘルセンヤム
眞覺 シンカク
水月 スイゲツ
翻經 ホンキョウ
詩偈 シゲ
禪機 ゼンキ
幽峯 ユウホウ
伽藍 ガラン

佛界 ブッカイ
禪室 ゼンシツ
禪床 ゼンショウ
海月 カイゲツ
虛心 キョシン
白水 ハクスイ
雲遊 ウンユウ
寂寞 セキバク
眞諦 シンタイ
意眼 イガン
法相 ホッソウ

靜邃 セイスイ
白雲 ハクウン
清梵 シンボン
山雲 サンウン
禪龕 ゼンガン
青蓮 セイレン
雲水 ウンスイ
禪心 ゼンシン
色空 シキクウ
禪寂 ゼンジャク

碧雲吟 ヘキウンギン
鐘聲音 ショウセイオン
廬嶽堂 ロガクドウ
不染心 フゼンシン
祇樹林 ギジュリン
蒋蘿深 ヘイラフカシ
蒼苔陰 ソウタイイン
群峯路 グンポウロ
人世外 ジンセイガイ
塔想像 トウソウゾウ
龍蹲勢 リュウソンセイ
幽絕處 ユウゼツショ
碧澗泉 ヘキカンセン
寺門深 ジモンフカシ
夜鐘沈 ヤショウチン
夢相尋 ムソウジン
仙幽舍 センユウシャ
仙梵音 センボンオン
入閑吟 ニュウカンギン
支遁室 シトンシツ

稽古 ケイコ
看書 カンショ
講道 コウドウ
文章 ブンショウ
詩書 シショ
淵源 エンゲン
董帷 トウイ
舉到 キョトウ
論經 ロンキョウ
舉成 キョセイ

絳帳 コウチョウ
舉問 キョモン
解疑 カイギ
談經 ダンキョウ
無惑 ムワク
行藏 コウゾウ
自有 オノズカラアリ
德業 トクギョウ
師友 シユウ
授業 ジュギョウ
校書 コウショ
周程 シュウテイ
文氣 ブンキ
業遂 ギョウスイ
詩名 シメイ
講堂 コウドウ

淡鴻儒 タンコウジュ
德不孤 トクフコ
寄我無 キガムシ
明月珠 メイゲツシュ
鳳皇雛 ホウオウスウ
洛唐虞 ラクトウグ
子雲才 シウンサイ
屈宋才 クツソウサイ
讀書臺 トクショダイ

楚大夫 ソダイフ
一燈孤 イットウコ
唾餘珠 ダヨシュ
萬斛珠 バンコクシュ
汗血駒 カンケツク
繼韓藍 ケイカンラン
馬卿才 バケイサイ
李杜才 リトサイ
百尺臺 ヒャクシャクダイ

升堂　入室　閉戸　負笈　道徳　規模　通経　孤坐　傳道　輪文　靜君　游學　知君　篤志　酒心　黌冠　志業　三餘　五車　經笥

讀書　尋師　誦經　好學　不倦　簡編　聲名　黃卷　積學　三篋

志氣　灰　緋帳　開　未切　陪　謝庭　埃

千秋業　玩玄　草　開緋帳　供饘酒　三都賦　驚人句　高齋下

豪傑　魁　屈　追　陪　共脚盃　往且來

稱不朽　傳洙泗　鯉魚頭　求騏骨　千金賦　瓊琚贈

贈醫家

醫生　良醫　神醫

老醫　扁鵲　青囊　起生

華陀　回生　秘方

察脈　通神　活人

良劑　學究　丹房

神農　採藥　除瘴

金匱　藥境　藥園

福倉　去病　藥禍

醫得　療却　魔方

藥國　奏效

養生方　寒經方

繼扁倉　灸黃帝　掛青囊　學南陽

三世良　桃苗香

楊樹香　禹日楫

濁長沙　鉄丹砂

似仙家　博士家

貞白家　種藥井

種杏花　酒紫霞

三世業　醫國手

口訣　三世　保合　奇驗

贈書家

如神　服餌　藥石　有驗

有靈　神界　軒岐

揮毫　臨池　雲烟　圓健　寫成　鵞目

染翰　寫字　舞鳳　龍蛇　縱橫　君家

潤筆　紙上　翔鸞　勢寫　倩手　自有

活人術　長生訣　瀟灑域　龍宮秘

屋倉術　三秀草　移七術

對墨池　世稀奇　把筆時　不知疲　蓬上詩　雅絶倫

日臨池　絶世奇　嶧山碑　月照雜　世所推

世無倫

清奇　毫端　右軍　耀眼　形錦　淋漓　新奇　拂素　換鵞　歐虞　顏柳

活筆　筆法　草理　墨池　古瘦　行雲　二王　流水　鍾索

得法　字字　筆硯　凭几　驚動　醉墨　志在　辭來

筆硯親　右軍真　墨痕新　愛鵞人　筆頭素

王逸少　稱草聖　龍蛇走　如起鳳　如綫筆

最遒眞　揮洒新　衙夫人　妙通神　欲傚顰　來舍帖　蠅頭字

揮毫處　真墨妙

青松 セイショウ
長松 チョウショウ
孤松 コショウ
松聲 ショウセイ
霜根 ソウコン
雪幹 セッカン
蒼髯 ソウゼン
秀嶺 シュウレイ
耐寒 タイカン
五株 ゴシュ
龍鱗 リュウリン
洗心 センシン

喬松 キョウショウ
巨松 キョショウ
寒松 カンショウ
堅心 ケンシン
偃蓋 エンガイ
參天 サンテン
高節 コウセツ
風韻 フウイン
龍吟 リュウギン
大道 タイドウ

高松 コウショウ
深松 シンショウ
松影 ショウエイ
勁節 ケイセツ
蓋影 ガイエイ
龍鱗 リュウリン
千尺 センジャク
傲多 ゴウタ
鶏影 ケイエイ
寒聲 カンセイ
百尺 ヒャクシャク

高入 コウニュウ
不凋 フチョウ
經雪 ケイセツ
凌雲 リョウウン
直幹 チョッカン
影徙 エイシ
寒聲 カンセイ
君子 クンシ
盤根 バンコン
婆娑 バシャ
楚楚 ソソ

青冥 セイメイ
雪霜 セッソウ
節操 セッソウ
鶴膝 カクシツ
雨泗 ウシ
棟梁 トウリョウ
歲寒 サイカン
大夫 タイフ
帶雨 タイウ
蒼蒼 ソウソウ
亭亭 テイテイ

高標 コウヒョウ
孤根 ココン
不改 フカイ
籠嶺 ロウレイ
風響 フウキョウ
三冬 サントウ
老幹 ロウカン
含烟 ガンエン
鬱々 ウツウツ

拂雲 フッウン
凌霄節 リョウショウセツ
翻鵬影 ホンポウエイ
風惡 フウアク
三冬綵 サントウサイ
長不改 チョウフカイ
幽澗底 ユウカンテイ
高百尺 コウヒャクシャク

九鼎丹 キュウテイタン
霜雪操 ソウセツソウ
君子操 クンシソウ
棲仙鶴 セイセンカク
濤聲起 トウセイキ
松子落 ショウシラク
蒼髯叱 ソウゼンシツ
千年珀 センネンハク
層崖上 ソウガイジョウ

詠竹

緑竹　野竹　蜜竹
痩竹　苦竹　幽竹
幽篁　篁竹　新竹
新篁　竹色　竹影
叢篠　竹暗　竹清
竹映　琅玕　勁直
烟濃　翠色　濃陰
真節　清陰　掃月
王家　千畝　棲鳳
清風　　　戴竿

碧玉叢　雨三叢
送清風　君子風　淡雲籠
晉時風　碧玲瓏　戴詩筒
碧玲瓏　待作筒　淡烟中
待作筒　悪中悪　軽雨中
悪中悪　暁風中　映簾櫳
暁風中　洪水澳　遠此移
洪水澳　手自移　雨三枝
手自移　碧玉枝　翠於眉
碧玉枝

雑部

寒生　一局棋　風月知
炎曦　是相知　月上時
清影　與月宜　坐題詩
龍孫　清痩姿　露華滋
風吹　補疎籬　出短籬
午陰　蕭悦筆　文生法
一庭　洪澳種　扶疎影
漏月　酒色　琅玕質
飽經　凌霄　腾脱筆
紛節　清寒韻　潮如淚
永留　爭豔態　斜斜影
影入　山窓　雨三叢
清逕　鳳尾　碧玉叢
翠滴　月上　君子風
合風　雨洗　淡雲籠
風梢　月影　戴詩筒
緑陰　驚疑　淡烟中
恰似　成林　軽雨中
化龍　窓前　映簾櫳
雪　龍吟　遠此移
臨軒　翠葉　雨三枝
寒色　最憐　翠於眉

詠梅

竹理　龍孫蟄　數竿竹
竹聲　翠袖　狀疎　湖娟　破臙　玉骨　瓊枝　素面　花魁　暗香　春信　合歡　傳春　霜龕　清香　幽艷　雪香
竹影　淡　冷淡　竹外　氷肌　雪夢　清奇　疎影　芳姿　霜雪　新粉落　遮俗夢　婆娑影
又一奇　唯一枝　獨移時　月落時　竹外枝　亦宜詩
百歲枝　繞疎籬　水畔籬　爲題詩　尚參差　向南枝　半放時
美人來　萬樹開　爲誰開　不染埃　橫地　羌笛　尋香　香風　老幹　凌雪　溪邊　獨立　臨流　如粧　朱唇　瑤角　老樹　作拆　江頭　屈曲
氷雪姿　月先知　塵外姿　遠寄來　漠漠香　絕塵埃　春又回　浸玉盃
似有私　酒落姿　獨先時　半是苦　昔誰栽　在瑤臺　雪裏來　斷腸猿　獨徘徊　對客開
一枝　異香　孤根　雅淡　倚竹　寂寞　暮雪　鐵骨　梭牙　參差
緇　都

離餞（ばなむけ）　折梅（せつばい）　清癯（せいく）　佳人（かじん）　園林（えんりん）　仙姿（せんし）　淡月（たんげつ）　羅浮（らふ）　梅信（ばいしん）　旗亭（きてい）　無雙（むそう）

雪後（せつご）　月梅（げつばい）　横斜（おうしゃ）　高士（こうし）　孤高（ここう）　竹籬（ちくり）　淡烟（たんえん）　臥龍（がりょう）　携酒（けいしゅ）　孤山（こざん）　獨占（どくせん）

問梅（もんばい）　李開（りかい）　月下（げっか）　山中（さんちゅう）　孤標（こひょう）　數點（すうてん）　溪邊（けいへん）　青苔（せいたい）　沽醉（こすい）　苦吟（くぎん）　春光（しゅんこう）

謫仙才（たくせんさい）　一遥（いちよう）　菊已（きくすでに）　折得（せっとく）　寒照水（かんしょうすい）　香滿屋（こうまんおく）　動詩興（どうしきょう）　江南夢（こうなんのゆめ）　願如鐵（てつのごとくならんことをねがう）　異仙骨（いせんこつ）　桃李蹊（とうりのけい）

何代栽（いつのよにかうえし）　幾株梅（いくかぶのうめ）　雪作堆（ゆきうずたかし）　百花魁（ひゃっかのさきがけ）　雪中立（せっちゅうにたつ）　寒夜（かんや）　塵外境（じんがいきょう）　何遲在（なんぞおそきにあらん）　高世志（こうせいのこころざし）　耐寒苦（たえがたきくるしみ）　嘆其老（そのおいたるをなげく）

壹鬱（いつうつ）　氣のふさぐこと　翁鬱（おううつ）　草木のしげるさま　沈鬱（ちんうつ）　しづみがちにくらきこと　勃鬱（ぼつうつ）　不平の氣

幼眇（ようびょう）　わかきこと　莊嚴（しょうごん）　おごそかなること　磊塊（らいかい）　ごろ〳〵石のさま　侷蹐（きょくせき）　ちぢまるさま　倜儻（てきとう）　すぐれたる人

斜暉（しゃき）　夕日の光　颯爽（さっそう）　すがすがしきさま　漫漶（まんかん）　きえうせること　魁岸（かいがん）　容貌あること　軒昂（けんこう）　宮殿の立なること

紛霏（ふんぴ）　飛ぶさま　皚皚（がいがい）　雪のほどろ〳〵と降るさま　徜徉（しょうよう）　ぶらあるくこと　巉岩（ざんがん）　けはしき山　嶔崎（きんき）　山のけはしきさま　欹傾（きけい）　かたぶくこと

陸離（りくり）　ひらめくさま　皓皓（こうこう）　谷のほとりの深きこと　彷徨（ほうこう）　うろつきまはること　參差（しんし）　ふぞろひなるさま　嶙峋（りんじゅん）　そびゆるさま　欹屬（きしょく）　まがりつづくこと

紛紜（ふんうん）　同上　離披（りひ）　花がさきみだるる　闌干（らんかん）　遮る親星又は涙にいふ　爽秋（そうしゅう）　さわやかなる秋の候　敲遍（こうへん）　たたきあるくこと

紛亂（ふんらん）　みだれ散るる　綽約（しゃくやく）　美人のしなやかなるさま　彷徨（ほうこう）　うろつきまはること　參差（しんし）　ふぞろひなるさま　嶙峋（りんじゅん）　そびゆるさま　欹屬（きしょく）　まがりつづくこと

芬菲（ふんぴ）　花の香氣　郎當（ろうとう）　おちぶれたるさま　龍鍾（りゅうしょう）　山のだんだんきはまるさま　呢喃（じなん）　つばめのなきつづること　欹屬（きしょく）　まがりつづくこと

氤氳（いんうん）　氣の立ちこめたるさま　恰打（こうだ）　ひとりぼつち　倚毛（きもう）　毛ぶかきさま　倜儻（てきとう）　氣象の大なること　綿蠻（めんばん）　鳥の聲　偶儻（ぐうとう）　すぐれたる人

扁舟（へんしゅう）　ふねがなく　汎宅（はんたく）　欲のそらなること　輪奐（りんかん）　宮殿の立派なこと　倜儻（てきとう）　氣象あること

鶺鴒（せきれい）　鳥の羽毛　扁脚（へんきゃく）　鶴の羽毛　蹉跎（さだ）　不平の貌　杭縴（こうせん）　失意の人　踟躕（ちちゅう）　行きなやむ貌

酴醾（とび）　花の名　蹉跎（さだ）　時をうしなふこと　躑躅（てきちょく）　春の景色　躑躅（てきちょく）　行きなやむ貌

蹙踏（しゅくとう）　舞ふ形　蹙波（しゅくは）　波などにいふ　蹙縮（しゅくしゅく）　ちぢまること　蹙額（しゅくがく）　ひたひにしわよる

龍鍾（りゅうしょう）　おちぶれたる貌　遥遥（ようよう）　丘などのつらなる　爛漫（らんまん）　花咲き盛る　咖喱（かれー）　鶏の羹

匠（カク）　山などのとりまく
男則（リョクソク）　山のそびゆる形
襲（シュウ）　老いて盛んなる人
従容（ショウヨウ）　ゆつたりせる形
陵夷（リョウイ）　くづるるさま
雇（コ）　顧（コ）　やつれこと
鯉魚（リギョ）　こせこせする
倭（イ）　失意のさま
局促（キョクソク）　ちゞむ
徒倚（トイ）　たゞむ形
荏苒（ジンゼン）　月日の立つさま
戦慄（センリツ）　おそれふるへる
遊遨（ユウゴウ）　そゞろあるき
蒼黄（ソウコウ）　あはたゞしき
荒爾（コウジ）　笑ふさま
倉皇（ソウコウ）　同
遊逸（ユウイツ）　期せずして會面
激越（ゲキエツ）　立腹のさま
屯邅（トンテン）　行きつまる貌
唐突（トウトツ）　だしぬけ
空濛（クウモウ）　細雨の貌
冥濛（メイモウ）　雨のおそ
鬱蓊（ウツオウ）　氣の盛
傍礴（ホウハク）　氣の鬱積
岐嶷（キギョク）　小兒のさま
糢糊（モコ）　ぼんやりしたる
旁午（ボウゴ）　縱横に行ちがふ
倏忽（シュクコツ）　にはかに
冥濛（メイモウ）　くらきさま
蹁躚（ヘンセン）　舞ふ貌
激越（ゲキエツ）　立腹のさま
唐突（トウトツ）　だしぬけ
屯邅（トンテン）　行きつまる貌
荒唐（コウトウ）　とりとめなき言
倉皇（ソウコウ）　同
荒爾（コウジ）　笑ふさま
倉黄（ソウコウ）　あはたゞしき
活潑（カツハツ）　いきゝとしたる形
自若（ジジャク）　ゆつたりおちつく
離奇（リキ）　入りまれたるさま
冥邈（メイバク）　同
落寞（ラクバク）　衰へたるさま
寂寞（セキバク）　さびしき
綿邈（メンバク）　はるかなるさま
赫奕（カクエキ）　かゞやく
踴躍（ユウヤク）　おどりあがる形
瞳曨（トウロウ）　旭の上
颯忽（サッコツ）　同
遊遨（ユウゴウ）　そゞろあるき
戦慄（センリツ）　おそれふるへる
顚頓（テントン）　やつれこと
陵夷（リョウイ）　くづるるさま
匠（カク）　山などのとりまく

遥遠（ヨウエン）　はるかなる
檀欒（ダンラン）　形容
蒼莽（ソウモウ）　野のひろきさま
岩巒（ガンラン）　たゝ形
嚇陰（カクイン）　暗などのこゝろ
凜森（リンシン）　すごきさま
髣髴（ホウフツ）　のごとし
岌業（キュウギョウ）　山の高き形
嶔崎（キンキ）　山のけはしき
磅礴（ホウハク）　形容
巉巌（ザンガン）　同
曼衍（マンエン）　際限なき形
團欒（ダンラン）　人のまどゐ
滉瀁（コウヨウ）　水のひろきさま
沈吟（チンギン）　思案する
呻吟（シンギン）　同
遥遠（ヨウエン）　はるかなる
歔欷（キキ）　すゝり泣き
寂寞（セキバク）　さびしき
綿邈（メンバク）　はるかなるさま
赫奕（カクエキ）　かゞやく
踴躍（ユウヤク）　おどりあがる形
瞳曨（トウロウ）　旭の上
颯忽（サッコツ）　同
遊遨（ユウゴウ）　そゞろあるき
蒼黄（ソウコウ）　あはたゞしき
活潑（カツハツ）　いきゝとしたる形
倉皇（ソウコウ）　同
荒爾（コウジ）　笑ふさま
嗚咽（オエツ）　むせびなく
戦慄（センリツ）　おそれふるへる
倭遅（イチ）　失意のさま
顚頓（テントン）　やつれこと
鯉魚（リギョ）　こせこせする
陵夷（リョウイ）　くづるるさま
男則（リョクソク）　山のそびゆる形

香遠（コウエン）　遠くひゞろし
渺茫（ビョウボウ）　ひろし
激湍（ゲキタン）　波のゆるやかなる
蕭條（ショウジョウ）　さびしきさま
墜露（ツイロ）　露のさま
陰森（インシン）　木の茂りあげ
霊雨（レイウ）　雨のさま
的皪（テキレキ）　星の光るさま
霏微（ヒビ）　上同
跳梁（チョウリョウ）　はね上る形
鏗鏘（コウショウ）　金玉の聲
旬日（ジュンジツ）　同上
凄涼（セイリョウ）　さむきさま
蔭曖（インアイ）　木のしげりあひ
鬱蒸（ウツジョウ）　氣のこもる
蔚藍（ウツラン）　空の色
渺茫（ビョウボウ）　ひろし
縹緲（ヒョウビョウ）　絹はなやかなる
飄蕩（ヒョウトウ）　ひろがへる
横斜（オウシャ）　梅の枝にいふ
蒼森（ソウシン）　しづかなる
森厳（シンゲン）　いかめしき
呻吟（シンギン）　うめく
軒豁（ケンカツ）　高くひろし
天矯（テンキョウ）　龍蛇の形容
逶迤（イイ）　うねり〳〵
蹉跎（サダ）　つまづく
峻嶒（シュンソウ）　山の高きさま
巉巌（ザンガン）　山の高きさま
盤旋（バンセン）　たちめぐる
須臾（シュユ）　こんとんたるさま
汗漫（カンマン）　所極まらず
幽邃（ユウスイ）　奥ふかし
繚繞（リョウジョウ）　まとふ
縹緲（ヒョウビョウ）　絹はなやかなる
蒼莽（ソウモウ）　野のひろきさま
檀欒（ダンラン）　竹の形容
髣髴（ホウフツ）　ほのか
巉巌（ザンガン）　たゝ形
凜森（リンシン）　すごきさま
嚇陰（カクイン）　暗などのこゝろ
嶔崎（キンキ）　山のけはしき
岌業（キュウギョウ）　山の高き形
髣髴（ホウフツ）　ほのか
磅礴（ホウハク）　形容
巉巌（ザンガン）　同
跳梁（チョウリョウ）　上同

兀然（獨居のさま）　頽然（酔ふたるさま）　靡然（感望ある又は超然（づぬけたる）　衰然（貴册のある）　亭然（高きさま）　翕然（こぞつて）　靡然（上同）　廓然（廣大のさま）　落然（玉のおと）　漉乎（淡泊のさま）　皎乎（白く光る）

泊如（自得のさま）　蒨如（盛多のさま）　煥焉（かゝやくさま）　奭爾（笑ふさま）

滔如（上同）　翼如（盛んなるさま）　介焉（獨立のさま）　嗟爾（上同）

鄭如（廣大のさま）　粲如（かゞやく）　翰焉（宮室の美なるさま）　巍焉（なげくさま）　蠖爾（蟲の動くさま）　矍爾（ひろがへるさま）

翼如（眞如の月）　自如（おちつく）　奐焉（上同）　潛焉（深の出づるさま）　偶爾（たまたま）　翕爾（ほがらかなる）

瀰如（さつばりしたる）　晏如（やすらか）　巍焉（顯いさま）　巍焉（ひかるさま）　塊爾（獨立のさま）

矯矯（勇ましきさま）　杲杲（日の出づるさま）　蹇蹇（忠眞のさま）　濟濟（人才の盛んなること）

雙字

繹如（絃えざるさま）　翩翩（飛ぶ形）　默爾（無言の貌）

欣如（あきらか）　蔑如（いやしむ）　皦焉（いやめいさま）　翩翩（飛ぶ形）　默爾（無言の貌）

熙熙（和氣の貌）　栖栖（不安の貌）

瑯瑯（玉のきよらかなるひゞき）　凜凜（いきゝたるさま）　朗朗（ほがらかなる聲）

呱呱（幼兒の泣き聲）

雙字

徹徹（明かなるさま）　衰衰（威儀のあるさま）　卒爾（にはかに）　莞爾（笑ふ）

仲仲（垂ふるさま）

桓桓（たけき武人）

喈喈（笑ひさゞめく聲）

雙字

渺渺（廣遠のさま）　莘莘（すぐれたる人）　雅雅（正しく整ふさま）

侁侁（衆多のさま）　偲偲（友情の厚きこと）

佚佚（盛なる貌）

陳陳（ヂン）古るくさき貌
孜孜（シ）勉強するさま
洶洶（キョウ）水の波立つさま
蓬蓬（ホウ）雲の起る貌
茫茫（バウ）地の廣大なるさま
滔滔（タウ）水のはびこるさま
瀟瀟（セウ）雨の淋しきさま
毿毿（サン）枝垂れ柳に云ふ
丁丁（タウ）木をきるひゞき
呶呶（ドウ）くだ／＼しく物言ふ
拳拳（ケン）愼み守るさま

耿耿（カウ）物思ふてねむられず
戰戰（セン）恐る恐る
皛皛（ヒヤウ）キラ／＼する水光
點點（テン）ポツ／＼雨などの
浩浩（カウ）水の廣大なるさま
岌岌（キフ）墻などの危き貌
瑟瑟（シツ）秋風又は秋水の形容
靡靡（ヒ）なびくさま
栩栩（キョ）蝶の飛ぶさま
諾諾（ダク）へい／＼かしこまる
翼翼（ヨク）愼んで爲す貌

諄諄（ジュン）親切に説くこと
溶溶（ヨウ）水の靜なるさま
遲遲（チ）春ののどけきさま
萋萋（セイ）草が青々茂げる
蒼蒼（サウ）天の高きさま
團團（ダン）月の盈つるさま
盈盈（エイ）水の滿ちたるさま
耽耽（タン）虎のにらむさま
呦呦（イウ）鹿の鳴く聲
揚揚（ヤウ）得意がること
營營（エイ）せはしきさま

碌碌（ロク）やくざな人間
漾漾（ヤウ）上に同じ
習習（シフ）春風のおと
蒨蒨（セン）上に同じ
矗矗（ショク）山の切立つさま
灔灔（エン）滑かなる水面
颯颯（サツ）風のそよ／＼
蚩蚩（シ）蟲のうごめく貌
閣閣（カク）蛙の鳴く聲
綽綽（シヤク）ゆとりのあるさま
汲汲（キフ）一生懸命にする

彬彬（ヒン）文學の盛なる貌
茸茸（ジョウ）草の茂げるさま
濛濛（モウ）雲のむらむらせるさま
蔥蔥（ソウ）木が青々茂げる
峨峨（ガ）山の高き貌
皚皚（ガイ）雪の白きさま
森森（シン）はやしの深きさま
啾啾（シウ）鬼哭の聲
堂堂（ダウ）正しくおくせざる貌
喃喃（ナン）ペチャ／＼しやべる
遑遑（クワウ）いとまなきさま

絮絮（ジョ）こま／＼物言ふ
簌簌（ソク）葉の落つるおと
杳杳（エウ）はるかなるさま
莽莽（マウ）野のあれたるさま
鬱鬱（ウツ）木の蔽ひかぶされる貌
皎皎（カウ）月の白く光るさま
冪冪（ベキ）雲の深きさま
叱叱（シツ）牛や馬をしかること
諤諤（ガク）直言すること
嘖嘖（サク）衆人のほむること
縷縷（ル）はてしなき言語

寥寥（レウ）まれなる形容
囂囂（ガウ）がや／＼さわぐ
怡怡（イ）樂しむさま
嚶嚶（アウ）鳥の聲
搖搖（エウ）ゆらゆら
紛紛（フン）みだれたる形
粼粼（リン）水の底を拍つおと
田田（デン）蓮の葉の形容
殷殷（イン）雷のおと
行行（カウ）ゆきゆく
軒軒（ケン）自得又舞ふ貌

寂寂（セキ）さびしき形容
肅肅（シユク）物しづかにする
怏怏（アウ）憂ふるさま
喔喔（アク）鷄の聲
勃勃（ボツ）生氣むら／＼
漫漫（マン）夜の長き又は水の廣き樣
濯濯（タク）つやのあるさま
謖謖（ショク）松の風おと
裊裊（デウ）なよ／＼しきさま
歷歷（レキ）山川抔ありありと見ゆ
悻悻（カウ）怒る貌

呵呵（カ）高かに笑ひの聲
徐徐（ジョ）そろ／＼と爲すこと
悽悽（セイ）いたましきさま
轔轔（リン）車のおと
迢迢（テウ）はるか
芬芬（フン）香氣
鼕鼕（トウ）鼓のおとに云ふ
亭亭（チイ）松などの獨立するさま
霏霏（ヒ）雪又は雨のちら／＼
飛飛（ヒ）とびとぶ
言言（ゲン）高大なる貌

啞啞（ア）笑聲又は鴉聲に云ふ
戀戀（レン）こひしたふ
惻惻（ソク）なげくさま
濊濊（クワク）水のおと
井井（セイ）とゝのふ形
閃閃（セン）ひらめく
的的（テキ）星の光又梅花の形容
喞喞（ソク）蟲の聲
冉冉（ゼン）動くさま
漠漠（バク）はつきりせぬ形容
狉狉（ヒ）禽獸の群り走る

區區（ク）こせ／＼すること
便便（ベン）腹の大なる形
惶惶（クワウ）恐るゝさま
醺醺（クン）酒の氣
飄飄（ヘウ）ばらばら
鏘鏘（サウ）金玉の聲
蓁蓁（シン）桃の葉のしげれる
轟轟（クワウ）砲聲などにいふ
潸潸（サン）涙の出づるさま
惺惺（セイ）精神の明かなるさま
比比（ヒ）頻々に同じ

咄咄（トツ）怪しむ貌或はどもり
楚楚（ソ）さつぱりしたるさま
隱隱（イン）鐘のおと
拂拂（フツ）同上たるがきの臭
炯炯（ケイ）眼光のかゞやく
赫赫（カク）かゞやく
籜籜（タク）竹の形容
嫋嫋（デウ）秋風又は簫聲など
磊磊（ライ）松などの秀でたるさま
鑠鑠（シャク）きらめく美しさ
亹亹（ビ）倦まざるさま

元元 萬民のこと
樂樂 痒す親
俣俣 容貌の大なること
汲汲 未寧靜動のさま

虚字

嚊嚊 大言壯語
駢駢 馬の行きて併ざる也
仿仿 志を得ざるさま
紲紲 多き意又絆ざる親
沃沃 年若く盛んなる
趹趹 忽氣の銳又鼠小意
招招 手にて呼ぶこと
揭揭 高きに云ふ
帖帖 垂れ下る親
彼彼 なびくさま
菶菶 草木の茂げる
翊翊 大言する親
奕奕 重ふる親
非非 ばかし
駸駸 侯騎の親

請君 ツーニュン
紲君 オスセヤーガ
趹君 ヒニュクヮ
昔我 ムカシレン
嗟爾 オスアルガ
覺汝 トヂンアガ

淡君 ハムヤーガ
愎君 オスセヤーガ
魄我 ウンガ
乞我 ニコア
岡余 シレーユ
憐渠 アハムカレガ

勸君 ニスムヘヤーガ
顧君 ヘヤーガ
倦我 ムヒ
憐爾 アハムヂンガ
音余 ヒレン
笑渠 クヮクレガ

愛君 スヤーガ
憐君 アハムヤーガ
勉我 ヘムヒ
悅爾 クヮンヂンガ
慰余 クヮンレン
看渠 レムカレガ

嗟君 スヤーガ
感君 センゾーガ
怪我 ヘムヒガ
惜爾 ヂンガ
顧余 ーレバレン
負汝 ニヂン

憶君 オスセヤーガ
知君 シルヤーガ
念我 オモヒガ
思爾 オモヒヂンガ
知汝 シルヂンガ
煩汝 ハンヂンガ

我且 ワレ
君自 ヂーツカラ
誰肯 クレカヘンガ
待誰 クレヂンガ
爲君 ヂーニ
與我 クレ
何論 ナンゾロンゼン
何會 ナンゾクヮ
何物 ナニモノ
不屈 ヤマズ
不覺 オボエズ
何事 ナニゴトソ
何必 ナンゾカズレモ
何似 ナンゾ
緣何 ナニユヘニヨリテ
不道 イハズ
不看 ヤマズ

我復 ワレ
君能 ヂーヨク
誰復 クレマタ
有誰 クレアリヤ
知儂 シルノン
與我 クレ
何用 ナンゾモチヒン
不覺 オボエズ
不願 ネガハズ

我厠 ワレヤクニ
公是 コウハシ
憑誰 クレニヨリテ
人誰 ヒトタレカ
爲我 ワガタメニ
與人 クレトヒトニ
何問 ナンゾトヘン
亦何 ナンゾ
不知 シラズ
不及 オヨバズ
不聞 キカズ

憐公 ヤルアハレム
僕本 ボンベン
公何 コウゾ
倩誰 クレヲヤトフテ
知誰 シルヤタレ
爲誰 タレガタメニ
與君 クレ
何如 ナンゾシカン
何者 ナンジャ
一何 イカンソ
不言 イハズ
不見 ミズ

吾豈 レンアニ
僕亦 ボンモマタ
信誰 クレヲシンゼン
爲他 タガタメニ
與世 ヨト
向誰 クレニムカフ
誰憐 タレカアハレム
誰他 タレカカレ
何如 ナンゾシカン
何須 ナンゾモチヒン
劍誰 クレニカケン
誰能 クレカヨク
君已 ヂースデニ
與君 クレ
何似 ナンゾニタリ
不道 イハズ
不看 ミズ

吾儂 レンノン
知儂 シルノン
與我 クレ
有誰 クレアリヤ
君自 ヂーツカラ
誰肯 クレカヘンガ
何論 ナンゾロンゼン
何會 ナンゾクヮ
何物 ナニモノ
不屈 ヤマズ
不願 ネガハズ

我厠 ワレヤクニ
公是 コウハシ
憑誰 クレニヨリテ
人誰 ヒトタレカ
爲我 ワガタメニ
與人 クレトヒトニ
何問 ナンゾトヘン
亦何 ナンゾ
不知 シラズ
不及 オヨバズ
不聞 キカズ

不聽 不敢 不關 不比 不得 不奈 不耐 未審 未知 無「問」 無額

不解 不爲 不語 不滅 不慮 不使 不擬 未移 無遂 無限 久無

不如 不須 不起 不歸 不復 不冷 不辭 未滅 無力 無窮 則無

不若 不用 不同 不駕 不顧 不堪 不借 未許 無改 無盡 已無

不似 不曾 不改 不看 不盡 不禁 未休 未果 無媒 無厭 竟無

不得 不管 不了 不歇 不勝 未經 未要 無知 無聊 若無

恐無 獨有 莫爲 莫問 幸勿 暫得 但得 扇得 除得 學得 見得

幸無 更有 切莫 莫道 愼勿 先得 果得 引得 携得 占得 行盡

惜無 猶有 幸莫 莫言 勿復 兼得 忽得 博得 記得 留得 看盡

時有 莫漫 莫敎 莫聞 勿遽 爲得 浪得 知得 認得 移得 閱盡

常有 莫向 莫怪 莫嘆 始得 爭得 想得 見得 盡得 染得 吟盡

唯有 莫復 莫笑 且勿 又得 何得 料得 剩得 寫得 買得 撚盡

話盡 ヘナシクス
折盡 フラクシス
白盡 ハクシクス
看取 カンシュスス
斷了 ディーシアヌス
題遍 ディシアネクス
吹斷 スキンディス
歌罷 ケシヌンデ
踏來 アレヌル
吹動 スキンドゥカス
織成 オナス

費盡 ヘナシクシス
摘盡 デリンクス
讀破 レゲンドゥス
聽取 オウディシュス
忘了 オブリヴィスス
倚遍 リヌアンネクス
吟斷 リヌンドゥス
讀罷 レゲンデ
擧來 ミウヌル
吟動 リヌンドゥカス
編成 トゥオナス

送盡 オクシクス
洗盡 ラヴァンクス
吟破 ゲンドゥス
記取 ヤシュスス
看了 ヴィディス
吹過 フヌス
叫斷 クヌンドゥス
曲罷 ヌンデ
老去 オイオサル
扶上 スステヌス
忽成 ノンドゥス

散盡 ヌンシクス
趣盡 ヤンクス
攙破 ラピドゥス
分取 ディシュスス
倘了 ソルヴィス
吟過 ゲンドゥス
撼斷 ヌンドゥス
宴罷 ニヤンデ
眠去 ヌムルス
吹上 スキンドゥス
初成 ハクノナス

落盡 オクシクス
吹盡 フヌクス
驚破 ケンドゥス
留取 リクシュスス
看遍 レアヌクス
吹幾 フヌンドゥス
占斷 ヤンドゥス
看來 レヌル
放去 ヘアヌス
寫成 クンドゥス
今成 イナス

消盡 ヌクシス
綠盡 リンクス
點破 ピクス
知了 ヌンドゥス
吟遍 ゲンドゥネクス
折幾 フラクノス
醒來 ヌル
飛去 ヴォル
描成 ピクトゥス
已成 ヤナス

漸成 ヌヌンドゥス
願爲 ヘルヴェヌス
可憐 アヘレベレ
豈緣 ニヒルロラン
豈獨 ニヒルソラ

所無 ナヒルロ
已報 スデニハウズ
豫報 アプルヘハウズ
何辭 ナンゾルヴォン
自笑 レゾルクワフ

今豈 イナニ

見成 ヴィデンス
定爲 サンクンヌン
可惜 ヘルレベレ
豈圖 ニヒルクンヤ
豈必 ニヒルノンメ

所知 ヘルロ
所求 ヘルロ
又報 マクハウズ
憶否 オモアイナヤ
何恨 ナンゾルフラーン
自言 レゾルクワイフ

所期 ヘルロ
所得 ヘルロ
爲報 ノニハウズ
記否 ヤスヘヤナヤ
何異 ナンゾルナラン
自要 レゾルクニウス

豈若 ニヒルカン
豈料 ニヒルカランヤ
豈敢 ニヒルアヘタ
豈如 ニヒルシカン
所貴 ヘルロ

好報 ヨレハウゼン
所疑 ヘルロ
何嘆 ナンゾルクカン
知否 レルヤイナヤ
自比 レゾルクヒス

豈唯 ニヒルダ
豈止 ニヒルノーナク
所有 ヘルロ
所好 ヘルロ
何似 ナンゾルニェル
何限 ナンゾルヴァン
本自 モトアンクス

豈其 ニヒルソン
所冀 ヘルロ
更報 オラニハウズ
何知 ナンゾルラン
何笑 ナンゾルフハン

豈亦 ニヒルアク
可無 ヘルカンヤ
卻報 カヘハウズ
何似 ナンゾルニェル
何限 ナンゾルヴァン

常爲 クネニヌス
休笑 リクフヤノ
可想 ヘルヘレ
豈敢 ニヒルアヘタ
豈如 ニヒルシカン

試爲 コヤトニヌス
休問 トフヤノ
可見 ヘルレ
豈唯 ニヒルダ
豈其 ニヒルソン

造成 フセニヌス
休怪 リヤルハアヤノ
豈止 ニヒルノーナク
豈亦 ニヒルアク
可無 ヘルカンヤ

退却 シリゾケル
遣却 ヤリサル
閑殺 カンサツス
豈酔 アニヨハン
元來 ガンライ
遂着 オヨブ
復酔 マタヨフ
一謝 ヒトアヤマリ
爲謝 ノタメニアヤマル
謝天 テンニアヤマル
且對 カツタイス

脱却 ヌギサル
笑殺 ワラヒコロス
妬殺 ネタミコロス
睡着 ネムリツク
本來 モトヨリ
不酔 ヨハヌヤウニ
多謝 タシヤ
唯謝 タヾアヤマル
寄謝 ヨセテアヤマル
相對 アヒタイス
又對 マタタイス

閑却 カンキヤクス
氣殺 キヅカヒコロス
驚殺 オドロカス
顚酔 ヨヒクヅレ
由來 ユヱニ
酔着 ヨヒツク
好謝 ヨクアヤマル
遙謝 ハルカニアヤマル
謝君 キミニアヤマル
空對 ムナシクタイス
泣對 ナキテタイス

滅却 ケシサル
笑殺 ワラヒコロス
睡殺 ネムリコロス
遂酔 ツヒニヨフ
舊來 モトヨリ
憶着 オモヒツク
也謝 ヤアヤマル
須謝 スベカラクアヤマルベシ
謝公 コウニアヤマル
吟對 ギンジテタイス
臥對 フシテタイス

除却 ノゾキサル
愁殺 ウレヒコロス
罵殺 ノノシリコロス
生來 モトヨリ
病着 ヤミツク
休酔 ヤスミヨフ
必謝 カナラズアヤマルベシ
謝爾 ナンジニアヤマル
乞謝 コフアヤマル
閑對 カンタイス
愁對 ウレヒテタイス

失却 ウシナフ
惱殺 ナヤマシコロス
酔殺 ヨヒコロス
從來 モトヨリ
端來 イトヨリ
莫酔 ヨフナカレ
幸謝 サイハヒニシヤス
暫謝 シバラクアヤマル
謝渠 カレニシヤス
笑對 ワラヒテタイス
酔對 ヨヒテタイス

亦自 マタオノヅカラ
且須 カツスベカラク―スベシ
猶須 ナホスベカラク―スベシ
勿使 スルナカレ
已使 スデニ―セシム
使君 キミヲシテ―セシム
長遣 ツネニ―セシム
能令 ヨクセシム
莫令 セシムルナカレ
空歎 ムナシク―セヨ
休歎 ヤメヨナゲクナ
又被 マタ―ラル

猶自 ナホオノヅカラ
猶須 ナホスベカラク―スベシ
未使 イマダ―セシメズ
誰使 タレカ―セシム
使誰 ―セシムルハタレ
先遣 マヅ―セシメン
祇令 タヾ―セシム
不令 ―セシメズ
更歎 サラニ―セヨ
故歎 ―セヨ
偶被 タマ―ラル

能自 ヨクミヅカラ
不使 ―セシメズ
總使 タトヒ―セシム
好遣 ヨク―セシメン
未遣 イマダ―セシメズ
長令 トコシヘニ―セシム
欲令 セント―セシムトホツス
却歎 カヘツテ―セヨ
已被 スデニ―ラル
忽被 タチマチ―ラル

自當 ミヅカラマサニ―スベシ
莫須 ―スベカラクハスベシ
必須 カナラズ―スベシ
最須 モツトモ―スベシ
元須 モトヨリ―スベシ

但使 タヾ―セシム
永使 ナガク―セシム
也遣 マタ―セシム
欲遣 ホツス―セシメン
又令 マタ―セシム
坐令 ソゾロ―セシム
錯歎 アヤマツテ―セヨ
曾被 カツテ―ラル
見笑 ワラハル

遂使 ツヒニ―セシム
使我 ―セシムルヲレ
更遣 サラニ―セシム
徒令 イタヅラ―セシム
更令 サラニ―セシム
唯令 タヾ―セシム
直歎 タヾ―セヨ
更被 サラニ―ラル
見寒 サムカラン

再使 フタヽビ―セシム
使人 ―セシムルヒト
故遣 モトヨリ―セシム
頓令 ニハカニ―セシム
終令 ツヒニ―セシム
也令 マタ―セシム
狂歎 タハケテ―セヨ
長被 ツネニ―ラル
忘却 ワスレサル

默對 モクヒヤクイス
仍逢 ナホアフ
好遇 ヨクアフ
再值 フタヽビアフ
獨剩 トヾリノコルアフス
且留 カツトヾムル
還拋 アヒカケウツ
笑倚 ワラツテヨリカヽル
醉倚 ヱヒヨリカヽル
唯應 ヽヽニハ——スベル
只恐 タヾオソルヽ

偶逢 タマヽアフ
忽遇 タチマチアフ
恰值 アタカモアフ
空餘 ムナシクノコス
徒剩 イタヾノコルアフス
長留 トヾメオクニアフ
更拋 サラニウチステヽ
復鄉 マタサトニカヘル
吟倚 ギンジヨリカヽル
唯用 タヾモチヰヨ
只合 タヾヤハラニ——スベル

又逢 マタアフ
還遇 カヘリアフ
正值 マサニアフ
猶餘 ナホノコル
獨殘 ヒトリノコル
空留 ムナシクトヾム
暗拋 クラニウチステヽ
獨倚 ヒトリヨリカヽル
唯見 タヾミル
重倚 カサネテヨリカヽル
只今 タヾイマ

正逢 マサニアフ
始遇 ハジメテアフ
更值 サラニアフ
只餘 タヾノコス
已殘 スデニノコス
唯留 タヾトヾム
空拋 ムナシクウチステヽ
高倚 タカクヨリカヽル
暫依 シバラクヨル
唯知 タヾシル
只隔 タヾヘダツ

幸逢 サイハヒニアフ
重遇 カサネテアフ
幸值 サイハヒニアフ
唯剩 タヾノコス
漸殘 ヤウヤクノコス
仍留 ナホトヾム
已擲 スデニナゲウツ
靜倚 シヅカニヨル
長依 ナガクヨル
唯對 タヾムカフ
只似 タヾニタリ

行逢 ユクユクアフ
頻遇 シバヽヽアフ
頻值 シバヽヽアフ
倘剩 ヒヨットノコル
空殘 ムナシクノコス
好拋 ヨロシクウチステヽ
竟擲 ツヒニナゲウツ
笑倚 ワラフヨリカヽル
唯獨 タヾヒトリ
唯有 タヾアリ
只擬 タヾナゾラフ

數目

只許 タヾユルス
只解 タヾヨクス
定知 サダメテシル
知是 シルハコレ
正是 マサニコレ

只候 タヾマツ
只需 タヾモチヰヨ
定有 サダメテアラン
誰是 タレカコレ
好是 ヨシコレ

只向 タヾムカフ
底事 ナニゴトゾ
遮莫 サモアラバアレ
却是 カヘツテコレ
本是 モトヨリコレ

只好 タヾヨシ
何事 ナニゴトゾ
從教 サモアラバアレ
關是 カヽハリアルコレ
劃地 カクチ

只儘 タヾツクスニ
底用 ナンノヨウゾ
任他 サモアラバアレ
便是 スナハチコレ
特地 トクチ

只空 タヾムナシク
何用 ナンノヨウゾ
一任 サモアラバアレ
也是 マタコレ
忽地 タチマチ

一覺 一カクノ夢
一壺酒 一
一聲 一ノ新雁
一床書 一ノ書
一簽 一ノ牛背
一夢 一ノ人生中

一夕話 一
一天秋 一
一夜風吹 一
一池荷翻 一
一世顚 一

一更到三更 一カウニ更盡
一術 一ノ青山
一徑 一ノ苔
一枕 一ノ清風
一釣竿 一ノ

一道泉 一ノ
一宵話 一ノ
一路吹香 一ノ
一帶 一ノ青山

一派 銀河
一曲 清歌
一枝 竹外
一重 翠壁
一去 一不回頭
一抹 細煙
一年 花落花開又一
一巵 酒
一鳥 山更幽
一灣 月
一字 蕭疎
十日 晴泥
十里 燈龍
十年 換得西湖秋
千行 試却更為行
千秋 萬歲元龍百尺 陳倒樓
十二樓 春色先歸
十二峰 叠雨嘗
十二欄 人在樓臺
第幾峰 家在濟美
第幾重 春在珠簾
第幾枝 月在梅花
第幾樓 人在雪
三千里 加遠君外
三千客 春風門兎
三千字 縱横直樂
三千文 綠何白等
三十六宮 無紛光
三十六峰 黄山四千仞蓬峰
三十六灣 秋月明
三十六陂 煙浦冷
七十二峰 中最高
七十二君 封禪壇
七十二重 春在珠簾
萬古青 濃濃
萬古黑 漫漫
萬紫千紅 都振精
千巖萬壑 競秀爭流

故事故典

【一葦】小舟なり、詩經に識ゐ河を廣しと謂ふ、一葦之を抗(渡)らんと。【二酉】多くの書物を云ふ、小酉大酉は二ツの山の名、石穴中に書千巻ありと云ふ。【三山】蓬萊、方丈、瀛洲の三神山は渤海の中に在り史記に出づ。【四靈】麟、鳳、龜、龍の四靈なり云ふ、禮記に出づ。【五柳】陶淵明、門前に五株の柳あり五柳先生の傳を著す。【六龍】天子の車駕を云ふ、周易は乾爲馬、以て天に御すと。【七賢】晉竹林七賢と云ふ、山濤、向秀、劉伶、阮籍、嵇康、王戎を竹林七賢と云ふ。【八荒】八方極遠の地なり、過秦論に八荒を并呑すと。【九五】帝位の尊きを云ふ、周易に九五の尊に居ると云々。【十洲】仙人の棲める島、十洲記に其洲名を擧ぐ。【百穀】菜は菜豆の總名、稻は粢稻の總名、三穀各二十種、六十と爲す、蓋果の屬、醫藥を助くるもの皆【千里】王敦解ふ毎に鼓吹、意を以て壁壘を觸て歌ふて曰く、老驥櫪に伏すも志千里に在り、烈士暮年壯心已まずと、世説に出づ。【萬歲】漢の武帝蓬山を封す、代つて一と呼ぶもの三たび、漢書、漢王の父母妻子を葬て歳福の辭へす、其勞を燒く、民一と稱す歳福の辭也。【青雲】青雲の志、代賢士が盛政官に爲る、史記、睢傳に出づ。【白眼】俗物は白眼を以て睨み附け、酒を齎す、阮籍傳に出づ。【高風】歳道して世に高ぶるを云ふ、謝安傳に出づ。【效顰】無閭に人風俗を爲す事、莊子に出づ。【白眉】馬氏五常皆秀、而白眉最良、蜀志、馬良傳に出づ。【朋友】論語に出づ。【盍簪】盍は合ふ也、簪は笄を云ふ、會合を云ふ、周易に出づ。【擊歌】戰勝を祝する事、周易に出づ。【凱歌】戰勝を祝する歌也、司馬法に出づ。【解顏】人をして笑はしむる也、匡衡傳に出づ。【嘉遯】隱遁の意味也、周易に出づ。【賦言】出遊の意味也、詩經に篤し出づ。

【樂府】漢代の歌謠を云ふ、漢書禮樂志に樂府(ガフ)を立て、詩を采ると云ふ。【侘傺】志を失ふ貌、楚辭に出づ。【當壚】近頃市中に見るバーの如きをいふ、美人文君酒を侑む(司馬相如傳)

【彈冠】シルクハットを撫廻して宮中の御召を待つ大臣候補の類、漢書王吉傳。【讜言】忠正の言也、東部賦に出づ。【紈袴】華族の公達を紈袴子と曰ふ、漢書に出づ。【黄口】元來は雀のヒッコなり、轉じて青二才を云ふ、說苑に出づ。【偶語】政府攻擊の類、史記秦記に詩書を偶語するあらば棄死せんと。【元老】山縣松方諸公の如きを云ふ、詩經に方叔は元老其猶(謀)を壯にすと。【言責】言を以て責と爲す人、孟子に言責ある者、其言を得ざれば則ち去ると。【挂冠】官を辭する事、冠を解き、東都の城門に挂くと、逢萌傳に出づ。【傾倒】器中の物を傾け出す如きを云ふ、杜甫の詩に志士幽懷傾。心腑已傾倒と。【傾蓋】途中人力車を駐めて相語るの類、親友に譬ふ、家語に出づ。【天爵】福澤先生が三田の町人として、獨立自尊を以て一生を終れる如きを云ふ、孟子に出づ。【祭酒】後世學政を掌る官人を指す、荀卿傳に出づ。【獨醒】屈原曰く、衆人皆醉へり、我獨り醒む、是を以て放たると、先覺者也。【陽春】調の高き詩賦を云ふ、宋玉曰く陽春白雪和する者數人のみと。【彈鋏】孟嘗君の食客馮煖、歌ふて曰く長鋏歸らんか、食に魚なしと。不平の意也。【珠履】春申君の客三千人、其上客皆珠履を躡むと。得意の狀也。

【投轄】款待して客を引留る事、客の車轄を井中に投ず、陳遵傳に出づ。【懸榻】人を歡迎する事、徐穉來れば特に一榻を設く、去れば之を懸く、陳蕃傳。【蓬蒿】後漢張仲蔚家貧にして居る處、蓬蒿人を沒す、高士の居を云ふ。【投筆】班超家貧にして傭書す、筆を投じて曰く、大丈夫封侯を取るべし、何ぞ筆硏を事とせんと、後漢書に出づ。【差池】齊しからざる貌、詩經に燕々こゝに飛ぶ差池たる其羽とあり。【故人】知己朋友なり、史記范睢傳に綈袍戀々として故人の意ありと云ふ。【青女】霜の神也、淮南子に青女出でゝ霜雪を降らすとあり。【絕唱】好き詩歌のこと、謝靈運傳に絕唱高蹤久しく嗣音なしとあり。【青帝】春の神也、尙書緯に春を東皇と爲し、又青帝と爲すとあり。【梅妻】林和靖は梅を愛して妻と呼び、鶴を飼ひて子と呼ぶ、梅妻鶴子是れ也。【忘機】世の中のうるさき塵事を忘るゝを云ふ、李白の句に陶然共忘機とあり。【方壺】海中の神仙の住める島、列子に出づ。【破顏】顏を和げて笑ふ貌、白樂天の句に一放狂歌一破顏とあり。

【阿嬌】美人の事なり、漢武帝幼時、語て曰く若し阿嬌を得ば、金屋を作て之を貯へんと。【二喬】二人の美人なり、孫策は大喬を納れ、周瑜は小喬を納る、東坡の詩に銅雀春深鎖二喬の句あり。

【雞群】凡骨の密合を云ふ、嵇紹の稠人中に在るは、野鶴の雞群に處るが如しと。【貂蟬】武人の冠の裝飾也、貂は其溫暖を取り、蟬は其淸高を取ると云ふ。【金貂】阮孚傳に金貂を以て酒に換へ、所司の彈劾する所と爲るも、帝之を宥すと、徽章を酒代にしたる類也。【芥舟】極小なる譬也、莊子に杯水を坳堂の上に覆せば、芥之が舟と爲ると。【雞鳴】孟嘗君逃れて、函谷關に至る、關の法雞鳴て客を出す、孟嘗君追者の來るを恐る、從者能く雞鳴を爲す者ありて、雞悉く鳴く、遂に出づるを得、史記に出づ。【大荒】太陽の沒する處を云ふ、日月の入る處、之を大荒の野と曰ふと(山海經)【鷸蚌】鷸が蚌を啄はんとして嘴を挾まれ、漁夫の獲物と爲る譬喩、蘇秦遊說の一節、戰國策に出づ。【招魂】宋玉屈原の忠にして斥けられたるを哀み、招魂を作り、其精神を復し、其年壽を延ばさんと欲す、後世招魂の始也。

【不言】禮記に天は則ち言はずして信あり、神は怒らずして威ありと。【折腰】陶淵明彭澤の令と爲る、上官巡視し來る、吏曰く束帶して見ゆべしと、淵明歎じて曰く、吾豈五斗米の爲めに腰を折りて鄉里の小兒に事ふるを爲さんと、辭し去る。【奇兵】老子に曰く正を以て國を治め、奇を以て兵を用ふと。【彼蒼】天のことを云ふ、詩經に彼の蒼たる者は天とあり。【心盲】當今心に盲する者皆是れ、雞が如きは自から謂ふ、獨り目に盲するのみと、韓愈の文。【智囊】樗里子滑稽多智、秦人號して智囊と曰ふ、史記に出づ。【醉翁】歐陽修自から醉翁と號し、醉翁亭記を作る、時に年四十。

【挽歌】葬儀の歌也、王公貴人を送るを薤露と曰ひ、士大夫庶人を送るを蒿里と曰ふ。【布衣】庶人の服なり、因て庶人の稱と爲す、梁鴻傳に布衣を着て操作すと。【廟食】廟を建て、祀らるゝを云ふ、漢書に生きては侯に封ぜらるべし死しては當に廟食すべしと。【杜康】酒の異名、魏武帝短歌行に何以解憂、唯有杜康と。【飛錫】僧徒の遊歷を云ふ、高僧傳に神僧あり、錫を飛ばし雲を凌て行くと。【飛將】武けき大將を云ふ、李廣傳に匈奴李廣を飛將軍と號して之を避くと。【跋涉】跋は草行、涉は水行の意、山川を踰え行くを云ふ、詩經に出づ。【蟾蜍】月の中に住むといふ蝦蟇のこと、月の異名と爲る、淮南子に出づ。【蓴鱸】故鄉に歸るを思ふ故事也、張翰は吳人洛陽に入りて、秋風起るに遇ひ、吳中の蓴鱸を思ひ歸らんと欲す。【羊腸】坂路の屈曲せる形容、呂氏春秋に太

行の山盤折半。【郎當】零落又は衰病の見。楊大年の傷陽の如しと。【南冠】囚虜の義なり。左傳に出づ。趙【丁當】金鼓又は佩玉の音なり。曹唐の詩に細環清佩響丁當と。【鶺鴒】兄弟相親しむの義に用ふ。詩經棠棣に出づる。【金蘭】朋友相交る厚きを云ふ。二人心を同ふして其利金を斷つ。同心の言其臭蘭の如しと。周易に出づ。【雙柑】往て黄鵬の聲を云ふ。上野惠滿雙柑斗酒を攜ふ。人其安くに行くを問ふ。曰く【菟裘】元來は地名なれども、隱居の故事となる。左傳に出づ。隱公曰く菟裘に營まし吾將に老いんとすと。同じく隱居でも大浦氏の隱居とは違ふ。【浮圖】又浮屠と書す。佛祖の訛音なり。或は僧を稱ふ。又寺院を云ふ。落陽伽藍記に永寧寺中に九層の浮圖。【絲桐】琴を云ふ。神農氏始めて桐を削りて琴を爲り、絲を繩にし絃と爲すと。【翁仲】銅像の一なり。魏志に明帝景初二年銅人二を鑄て司馬門外に列す。號して翁仲と曰ふとあり。【石馬】石にて馬の形ちを作り、墓門に立つる也。【黍薇】山の中腹なる云ふ、周彼の句に及ばざるを墓處と曰ふと。【桑梓】鄉里の事也。詩小雅小弁に出づ。【守馬】寸馬豆人とは小さく見ゆる人馬の形容也。莊子徐無鬼に出づ。【寸馬豆人】と同じ。【秘駕】駕を解くこと、疲れを解也。【柱石】國家の重臣を云ふ。漢書霍光傳に將軍は國の柱石たりと。【鳳詔】後魏時代に木にて鳳凰を造り、詔書を銜ませ、其時自ら鳴くと。【枌榆】社の名なれども、故鄉の義に用ふ。漢書に出づ。【兵革】戰爭の事にて、左傳に出づ。【屆膊】雞の鳴くことを云ふ。古詩に腦々膊雞初鳴の句あり。【奇骨】嵇康之を贈す。其音々、温潤なり。幼時、此兒奇骨ありと。晉書。【學窮】貧乏學者の一と。宋の太宗趙普を相とし爲さん。【窮髮】髮は草なり。莊子に窮髮の地と。不毛の地を窮髮と呼ぶ。【窮丁】志を失ふ說、李密傳。孤苦とあり。【書淫】劉孝標、博く群籍を極めて文藻秀出す。人之を一と。【倉庚】鶯を云ふ。詩經に出づ。【典午】馬は午也。晉の姓司馬、因て司馬官を改めて典午と呼ぶ。【知音】伯牙琴を鼓す。鍾子期の死するや、伯牙絃を絕つて終身復た琴を鼓せずと。音を知る者なければ也と。列子に出づ。【點額】水經に曰く、龍門（登龍門と有るを上ろ、渡る魚あれば龍となる。若らざれば點額（傷く）して還る。試驗に落第せざるに喩ふ。李白の句に點額不成龍とあり。【破琴】載宣琴を武陵王之を聞き、人をして之を召さしむ。載曰く、秦客ならば東海を踏て死するあり。我は王門の俗人にあらずと。其聽を斷つ。【踏海】登仲遂曰く、秦客ならば東海を踏て死するあり。今の賓世亂時代などに有りさうな故事なり。【泛鄧】范蠡既に亡して後、五湖に遊ぶ。功成り名遂げて退く故事なり。【青紫】公侯の印綬は紫、九卿は青なり。國て一は公卿の義に用ふ。夏侯勝曰く、士は經術に明かならざるなり病む。明かならば其青紫を取るに儉して地芥を拾ふと。【黄卷】卷と云ふ。古人書を寫す、皆黄紙を用ひ、蠹を避くるの故也。故に黄卷と云ふ。顔氏家訓に黄卷は五經、一一は經書を云ふ。

【元日】正月一日を云ふ。元日を雞と爲し、二日を狗と爲し、三日を猪と爲し、四日を羊と爲す。其一歳の元、時の元、日の元な り、又正月を三元の日と爲す。【人日】正月七日を云ふ。元日を雞と爲し、二日を狗と爲し、三日を猪と爲し、四日を羊、

船を棹して相應する聲なり、蓋也、アヲアイと讀むは誤れり、柳宗元の詩註に一本機聲に作るとあるより此說を生ぜる也。【蒸徹】日光のかすかなるを云ふ、陶【酒徒】ん ぜ宇の如く酒のみ也。史記酈生傳に善には獨り非ずと。【大樹】將軍の別稱なり、後漢書馮異傳に論ず異常と大將と意を通ずる符合人あり、六朝に出づ。【紅樓】富家の女人の室を云ふ、白樂天の句に紅樓富女の居とあり。【青樓】妓樓を云ふ、古詩に倡女不勝愁、結束下青樓とあり。【沈瀣】司馬相如傳に一一を呼吸し、其註に北方夜半の氣なりと、張衡【嫦娥】月の異名なり、嫦娥といふ縮不死の藥を飲み、登仙して月中に奔げりといふ傳說に出づ。【此君】竹の異名なり、王之猷が竹を愛して何ぞ一日も此君なかるべけんやと云ひしに出づ。【零丁】志を失ふ說、李密傳。孤苦とあり。【倉庚】鶯を云ふ、詩經に出づ。【典午】馬は午也。晉の姓司馬、因て司馬官を改めて典午と呼ぶ。【書淫】劉孝標、博く群籍を極めて文藻秀出す。人之を一と。【知音】伯牙琴を鼓す、鍾子期の死するや、伯牙絃を絕つて終身復た琴を鼓せずと。音を知る者なければ也と。列子に出づ。【點額】水經に曰く、龍門（登龍門と有るを上ろ、渡る魚あれば龍となる。若らざれば點額（傷く）して還る。試驗に落第せざるに喩ふ。李白の句に點額不成龍とあり。【破琴】載宣琴を武陵王之を聞き、人をして之を召さしむ。載曰く、秦客ならば東海を踏て死するあり。我は王門の俗人にあらずと。其聽を斷つ。【踏海】登仲遂曰く、秦客ならば東海を踏て死するあり。今の賓世亂時代などに有りさうな故事なり。【泛鄧】范蠡既に亡して後、五湖に遊ぶ。功成り名遂げて退く故事なり。【青紫】公侯の印綬は紫、九卿は青なり。國て一は公卿の義に用ふ。夏侯勝曰く、士は經術に明かならざるなり病む。明かならば其青紫を取るに儉して地芥を拾ふと。【黄卷】卷と云ふ。古人書を寫す、皆黄紙を用ひ、蠹を避くるの故也。故に黄卷と云ふ。顔氏家訓に黄卷は五經、一一は經書を云ふ。

五日なり、六日を馬、七日を人と爲す、人は萬物の靈なるが故に此日を人日と呼ぶ。【社日】春分に近き戊の日を云ふ、春祭祠るが故に此日を人日と呼ぶ。之を社日と稱す。【上元】正月十五日のこと。【上巳】三月の上の巳の日を云ふ、水上にて祓除す、是れ邪疾を去らしむ已日の例に依るなり。【重三】三月三日也、上巳を云ふ。陰湖の交に佳月遊重三云々。【蘭亭】永和九年三月三日王羲之支遁の孫綽等四十一人を會して會稽山陰の蘭亭に禊事を修す、（禊は潔なり病悩を祓除するを云ふ）酒酣にして詩を賦し、羲之乃ち鼠鬚紙蠶繭紙筆を以て、序を書せしと云ふ。【寒食】冬至の後、一百五日にして風雨あり、と郁ふる季節を云ふ、舊俗永く火を禁じ、後世此日を寒食と曰ふ、江淹の詩、寒食の日、家を挙げて新門に掃む、又唐六三日は冬至の後二日目を云ふ、五は午と通ずる也、晶日換土には蘭を以て浴し、端は初なり、五月の初午を端午と云ふなり。【清明】寒食節の後二日目を云ふ、五月五日を云ふ、一百四日、一百五日、一百六日を云ふなり。【端午】五月五日を云ふ、端は初なり、五月の初めて午の日なり。【三伏】夏至の後第三の庚日を云ふ、庚は金なり。（唐書曆）【七夕】七月七日、此夕織女牽牛の二星會合す、酒酣時星あり供へ、嘗を乞ひ、子なき者は子を乞ふ。【鵲橋】織女天漢を渡りて牽牛に嫁る、唯一ある乞ふべく願ひ求むる時は必ず得と傳ふ。【乞巧】七夕に婦人綵縷を以て七孔針を穿ち、瓜果を庭中に陳て巧を乞ふ、（荊楚歳時記）【曝書】七月七日人皆衣を曝す、（荊楚歳時記）【除夜】前除一日歳を送る意、鬼を逐ふの儀と混除と謂ひ、又歳と曰ふ。（呂氏春秋）【守歳】除夕の夜、士庶の家、燈を圍みて團坐晩に達して寝ず、之を守歳と謂ふ。（東京夢華錄）【分歳】除夜親先の祭り、長幼家敵酬し、飲食して散す、之を分歳と謂ふ。（東京夢華錄）

【屠蘇】五月五日屠蘇酒に浸して飲む、悪鬼を辟ると云ふ、屠蘇は草名、之を用ゐて酒に浸すなり。【椒柏酒】椒柏酒を以て賀す、椒人之を薬ふ、是日竹筒を以て米を貯へ、水に投じ三伏の後都門を出る、（唐歳時記）【九日】重陽の節、菊花酒を飲む、此日高山に登り、菊花の酒を飲めば百事吉祥なるべしと、九日高山に登り菊花酒を飲む、此に始まる。

【落帽】晉の孟嘉桓溫が幕軍と爲り、九日龍山に遊ぶ參旅集る中に坐す、風忽ち帽を吹き落す、嘉之を覺らず溫之を見て興甚だ。【白衣】陶淵明九月九日酒なく宅邊菊花叢中に坐す、白衣の人を見る、即ち王弘酒を送る也、白衣【小春】十月天時和暖にして春に似たり、故に名けて小春と云ふ、（歳時記）【冬至】冬至の宣義に三あり、一に陰極の至る、二に陽氣の始て萌す日、三に日行南に至るなり。【臘月】冬至の後、三の戌を臘と爲す、新故交接之を祭と謂ふ、大に衆獣を取て以て祭る、（風俗通）【除夜】前歳一日歳を送る意、鬼を逐ふの儀と混除と謂ひ、又歳と曰ふ。（呂氏春秋）【守歳】除夕の夜、士庶の家、燈を圍みて團坐晩に達して寝ず、之を守歳と謂ふ。（東京夢華錄）【分歳】除夜親先の祭り、長幼家敵酬し、飲食して散す、之を分歳と謂ふ。（東京夢華錄）

【祭詩】買島晉官に錢除なきを以て一年得る所の詩を取り、酒を以て師に祭り、是を以て補はんと詩を祭る、蓋し此に始まる。【一字師】僧の賈島、早梅の詩を得て郎谷に示す、前村深雪裏、昨夜數枝開の句あり、郎谷曰く、「一枝に若かず」と改めて曰く敷枝は早きに非ず「一枝に若かず」と人呼んで一字師と爲す。【二毛歎】潘岳字は安仁、秋興賦序に云く、「晉の十四年、余女選に出づ、余二毛を見る云々、「晉の十四年、余侯に封ぜらる、此れ布衣の稽也、良（張良）に於て足れり、【三十而】潘岳侯世家の史記に今一一を以て帝者の師と爲り、高戸【四方志】諸國を征服する志なり、近時の「蜀魏帝が獻洲を征服するが如きを云ふ、又韓信傳に三寸の舌を掉して齊の七十餘城を下すと、【五噫歌】梁鴻京師を過ぎ、歌を作り五句とも云ふ。【六月秋】六月は炎暑なり、暑中の凉しきを云ふ、劉克莊の詩に、「六月秋」と云ふ、【七歩詩】魏文帝曹て東阿王を召して七歩にして詩を作らしむ、成らずんば法に行ふべしと、王即ち口占して詩を作る、彼の萁在釜底然、豆在釜中泣、云々の詩是也、【八斗才】詩の才に富むを云ふ、謝霊運の曰く天下の才一斗を得、我れ一斗を得、曹植は前にも見えたる曹植なり、東阿王は曹植の事、也、世説に出づ、古より今に及び謝霊運の曰く天下の才一斗を得、我れ一斗を用ふと、【九重門】王城の門は九重に作らる、故に皇居を九重と稱す、【十字街】十字の形なる成す街路を云ふ、都邑皆爲之、唐の文點の如き是れ也、張籍の詩、小

小欲に長怨十字衙。使耶心四散と曰ふ。【百世師】後の世まで師表となるを云ふ、孟子に聖人は一一之一也とあり、東坡の韓文公廟碑に匹夫にして一一一と爲り、一言にして天下之法と爲る云々。【千里駒】劉德黄老の學を修め、智略あり、甘泉宮に召見せらる、武帝之を一一一と謂ふ、又楚辭に寧ろ昂々たる千里の駒の若しの語あり。【萬戸侯】德川時代の御大名の如きを云ふ、漢李廣傳に文帝廣に謂て曰く、惜い哉、時に遇はず、若し子をして高帝の時に當らしめば一一一豈道ふに足らんと、李陵の審に云く功を妨げ能を害する臣、盡く一一一と爲ると。【沒字碑】文字を知らざる人物を云ふ、五代の安千秋、狀貌堂々而かも文字に通ぜず、人之を一一一と謂ふ。【墮涙碑】羊祜、潤甫と峴山に登りて曰く、由來賢達此に登る者多し、皆埋沒して聞ゆるなし、甫が曰く明公德四海を貫く、此山と並び傳ふべしと、祜死して後百姓碑を建つ、望む者涕を流さゞるなし之を一一一と名く。【樗櫟材】一一は用を爲さゞる樹なり、用ひ所なき厄雑人物を呼ぶに用ひ、又は謙遜して自分のことにも用ふ、莊子に出づ。【寧馨兒】寧馨は晉人の俗語にて「かくの如き」といふ意なり、王衍年少にして神情明秀、山濤曰く何物の老嫗か一一一を生む、天下蒼生を誤る者は必らず此人ならんと、寧馨は褒め辭にあらずと知るべし。【鼎湖龍】天子の崩御のことに用ゐる、黄帝上天の故事なり、黄帝鼎を荊山の下に鑄る、龍あり胡髯を垂れて下って黄帝を迎ふ、帝之に騎つて天に升る、小臣從はんと欲するもの龍髯を攀づ、髯拔けて從ふ能はず云々、史記に出づ。【亡羊歎】一羊を逃がす者あり、隣人と之を追うて捕へんとす、衆歸りて曰く岐路の中に又岐あり、之く所を知らずと、方向に迷ふ意味に用ゐる、列子に出づ【破天荒】荊州の擧人多く名を成さず天荒と號す、劉蛻の及第するに至りて一一一と曰ふ、從前例なき事を爲す意味に用ゐる。【登龍門】三秦記に云く、大魚龍門に集る數千、上るを得れば龍と爲ると、龍門は黄河の上流に在り、人の立身榮達に用ふ、李膺傳に膺聲名を以て自から高ぶる、士其接容を被むる者あれば、名けて一一一と爲すと。【韓荊州】李白が韓朝宗に與ふる書に曰く、白聞く天下の士を談ずるもの言つて曰く生れて萬戸侯に封ぜらるゝを願はず、但一たび韓荊州を識らんことを願ふと、何ぞ人の景慕をして此に至らしむと、知己になつて貰ひたい人のことに用ふ。【忘年交】禰衡逸才あり、少くして孔融と交る、時に衡二十に滿たず、融は已に五十、一一一を爲すと。【董狐筆】直筆して權勢を恐れざるを云ふ、孔子曰く董狐は古への良史なり、法を書して隱さずと。【金蘭簿】戴洪正、密友一人を得る每に、編簡に書し、香を焚きて祖考に告ぐ、之を一一一と號すと。

【點鬼簿】王楊、盧駱文名喧々たり、人其疵を議して曰く楊は好んで古人の姓名を用ふ、之を「一一一」と謂ふ、駱は好んで數字の對句を用ふ、之を「算博士」と謂ふ、「一一一」は寺院の過去帳といふに同じ。【薛濤箋】唐の元和の初、薛濤と云へる妓女能く小詩を賦し、小牋を作りて之に書せり、是れより詩箋を一一一と曰ふ。【烏絲欄】黑の罫紙を云ふ、宋亳（地名）の間、絹、界道を織成す、之を一一一と謂ふと、黄山谷の句に正圖紅袖寫烏絲と。【麒麟兒】善き小兒を稱する辭也、杜甫が徐卿二子を見る歌に、徐卿二子生絶奇、……並是天上一一一とあり。【金蓮步】南齊の廢帝、金蓮花を地に鑿せしめ、潘妃をして其上を行かしめて曰く、步々金蓮花を生ずと、美人の步む形容に用ふ。【爛柯棊】信安郡石室の中、晉の時樵者王質、二童子の棋するに遇ふ、質に一物を與ふ、棗核の如し、之を食ふて饑へず、斧を坐に置て棋を觀る、童子が曰く汝が柯爛れたりと、質郷里に歸れば復舊人なしと。（述異記）邦俗に浦島太郎の話しと同意味の故事なり。【鷦鷯枝】莊子に一一林に巢ふ一枝に過ぎずと、貧乏文士が裏長屋に住む如きを云ふ。杜甫の句に已忍伶俜十年事、強移栖息一枝安といふ。【錦囊詩】李賀、小奚奴をして古錦囊を背にせしめ、詩を得る每に之を囊中に投ずと、佳作の多きを云ふ、唐書に出づ。【酴醾酒】輦下歲時記に寒食に宰臣に賜ふに一一一を以てすと、一一一は重醸の酒を云ふ、蔓生の灌木、其花一一一に似たるあり、一一又花名なり。【襟帶固】山を襟と爲し、河を帶と爲す、要害の堅固なるを云ふ、戰國策に襟とするに山東の險を以てし、帶とするに河曲の利を以てすと。【蕭牆禍】門牆内の憂患にて内亂を云ふ、又兄弟喧嘩などにも用ふ、論語に季孫の憂は顓臾に在らずして、蕭牆の内に在りと。【鷫鸘裘】西京雜記に司馬相如文君と共に成都に還り、服する所の一一一を以て市に就て酒を買ふ云々、衣服を脱ぎ之を質に入れて酒代に供せし故事なり。【漉酒巾】陶淵明、酒熟すれば頭上の葛巾を取て酒を漉し畢つて後之を着けしと云ふ、杜甫の句に謝氏尋山屐。陶公一一一と云ふ。【原憲貧】子貢、衞に相たり、原憲を訪ふ、憲敝れたる衣冠を着て見ゆ、子貢曰く子病めるか、憲が曰く財なきを貧と謂ふ、道を學んで行ふ能はざる之を病と謂ふ、憲が如きは貧也、病には非ずと、王維の句に莫學稽康懶。自安一一一と曰ふ。【凌煙閣】唐の大宗、功臣二十四人の像を一一一に畫かしむ。（唐書）【麒麟閣】漢の宣帝喚を服せしめ股肱の美を思ひ、其人を一一一に畫く凡そ十一人。（史記）【白玉樓】李賀夢に人あり、版を持して告げて曰く、天帝一一一成る、君に請ふて記を作らしむと、賀遂に卒す（唐史）文士の死せるに用ゆる

故事也。近頃の新聞紙は軍人や俗吏の死せるにも白玉樓中の人と成るなど記す、笑ふべし。【露鬢手】被褐家と云ふに同じ、唐の趙琮の妻事と爲る、凡そ人之を一ーと謂ふ。【杖頭錢】阮宣百錢を杖頭に掛けて酒店に至り、獨り酣暢す。家に儋石なく晏如たりと云ふ。【買山錢】一ーを求む。頔之に百萬を與ふと云ふ。【解語花】玄宗帝楊貴妃と共に太液池千葉の蓮を賞す、妃を指して左右に謂つて曰く、何ぞ此一ーに如かんと。【羅浮夢】趙師雄羅浮に遷さる、一日天寒く日暮る、松林の間、酒肆の傍舍に於て美人の淡粧素服して出で迎ふるを見る、時に殘雪未だ消えず、月色微明、師雄之と語る、言極めて清麗にして、芳香人を襲ふ。因て與に酒家の門を叩て共に飲む。暫くして綠衣の童子來り歌舞戲笑す。師雄醉うて寢ぬ、但覺ふ風寒うして相襲ふ、之を久うして東方已に明く、起て視れば大梅花樹の下に在り、月落ち參横たはる、但惆悵するのみ（龍城錄）。【逢驛使】陸凱の詩に、折花逢驛使、寄與隴頭人。江南無所有。聊贈一枝春とあり、梅花を人に送る故事と爲れり。【武陵溪】武陵の人、魚を捕ふを業となす、溪に沿つて行く、水源に小口あり、豁然として開朗なり、祖先秦を避けて此地に來ると。即ち武陵桃源也。【玄都觀】唐の劉夢得が桃花詩の引に云く、予貞元二十一年に屯田員外郎と爲る、時に玄都觀に未だ花木あらず。是歲出でゝ連州に牧たり、尋て朗州司馬に貶せらる、居ること十年、召されて京師に至る、人々皆言ふ、道士あり、仙桃を植ゑて觀に滿ち紅霞の如しと、遂に前篇を作ると、其詩の後半に云く玄都觀裏桃千樹。盡是劉郎去後栽と。【一株雪】東坡の詩に梨花淡白柳深青。柳絮飛時花滿城。惆悵東欄一株雪。人生看得幾清明と。是れより後、一株雪は梨花として通用す。【花中仙】王禹偁は花譜を作り、海棠を以て花中の神仙と爲す、東坡の詩に嫣然一笑竹籬間、桃李漫山總粗俗の句あり。海棠は梨花に用ひなば先生に咲はれん。【花木妖】明皇の時、沈香亭前の木芍藥、一枝兩頭、朝には深碧、暮には深黃、晝夜の間、香艷各異なる。帝曰く是れ花木の妖也と云ふ。【猩猩血】躑躅花の一名。【木筆花】辛夷は木の高さ數尺、葉柿に似て長し、初め出づる時、筆の如し、故に一ーと云ふ。

平仄字典

囗イ 移 怡 貽 飴 頤 噫（以下之に倣ふ。平仄両用、又両韻） 伊 咿 猗 漪 椅 匜 迤 迆（二字同じ） 夷 姨 痍 圯 彝 醫 毉
台（別音タイ） 蛇（別音ダ、ヤ） 衣（以上支） 依（二字微） 意 已 异 以 苡 異 易 肄 懿 恚 洧 鮪 綏 戻 倚 （イツ）一
壹 乙（以上質） 鷸 佾 佚 鎰 溢 軼 汩 昱 （イウ）由 郵 囮 蚰 蝣 遊 游 疣 猷 憂 優 油 輶 櫌 幽 攸 尤
猶 悠 呦 蝤 蚰 卣 蛐 逌（以上尤） 友（上） 有 右 牖 誘 莠 黝 酉 囿 狖 鼬 宥 祐 幼（二音） 又 侑 佑 柚 （イ
フ）邑 挹 悒 浥 裛 揖 （イク）育 鬻 毓 煜 昱 郁 燠 彧 閾 （イン）寅 夤 闉 姻 茵 因 禋 湮 堙
（以上眞）陰 音 霪 婬 瘖 喑 淫（以上侵） 殷 慇（以上文） 引 蚓 靷 隱 印 飲 蔭
囗ロ 廬 驢 臚（三字本魚） 爐 壚 盧 鸕 顱 蘆 纑 艫 瀘 鑪（以上虞） 魯 鹵 櫓 露 鷺 路
潞 賂 輅 呂 絽（二字音リヨ） （ロウ）聾 嚨 櫳 朧 瓏 籠 蘢（以上東） 瀧（江） 樓 螻 僂 髏 摟 簍 蔞 窶
（以上尤） 塿 嶁 陋 漏 弄 呀 （ロク）鹿 甪 漉 簏 轆 麓 祿 碌 騄 綠 肋 扐 勒 仂 阞 （ロン）淪 論 掄

【イ】【ロ】

（以上）（ロッ）肆

（以上）巴（以上）爬杷芭吧琶葩（以上）　跋簸巨播破把潘覇懶伯派（本音）（ハ）蘗（廃）馬罵薦馬（ハイ俳牌（佳）以上）壊胚盃（杯同じ）裴（俳に通用）徘（灰）以上）擺罷沛（ハイ）旆稗敗拝（誇韻字偏誹配背輩肺癈廃吠悖（ハイ）侮陪培煤媒楳毎醅（以上）（佳）賣買貝狽唄蓓倍焙毎妹昧（三字奥音マイ）（ハク）白粕博箔泊（博に同じ）魄膊伯拍柏（箱に同じ）帛舶百（奥音ヒ）迫怕竜駁駁駮駁跑樸朴璞颱珀薄髄剝橋撃壱陌貊（ハク）漠縛幕鎖莫暴慢寞駁駁麦黙遷膜（俗音ミ）（ハッ）髪醱撥発反破鉢蠎鉢八杁（ハッ）間伐閥跋抜秣魃筏末沫麦靺鞨帕（ハッ）方飽肪枋芳滂（以上）邦（三字）泡庖胞跑咆包苞匏炮（以上）袍褒（褒に通用）砲（尤）彭烹棚澎（以上）捧（尤）蚌鮑麭炮爆膨豹泡墢撲寶葆保紡倣髣防妄訪謗放舫髣優報暴（暁に同じ）彷仿迸（ハウ）尨（江）茅（有）髦毛茆旄（豪）以上）邙忙忘芒亡茫望呆房鉾妨膀旁傍（二字同じく防坊鮒肪（以上）萌甍哄亩（以上）冒網帽鴾茅蛑猛卯娼毫冒幅暴曝安棒芳榜磅貌蚌（ハン）頒

蕃繁蠻番蹯繙瑠燔蟠旛樊攀鱕（翻に同じ）反（元）以上）磻潘癖拌（俗字繁同）般（以上）班瘢攀煩頒（以上）凡帆颿（威）以上）半伴伴畔判叛絆枠飯販阪板扳汎泛氾范貌範（ハン）蕃（二字）盤蟠（三字）蟠肝（二字）萬晩挽輓婉伴卍（佛書にある萬の字）

（三字）二貳尼荵（支）二貳尼（本音ヂ）（ニウ）柔（本音（尤）のウ）（ニク）肉（本音ジク）（ニチ）日（本音ジツ）（ニャ）若（本音ヤク）若弱（二字本音ジャク）（ニュウ）乳（本音ニフ）入（本音ジフ）（ニョ）如（本音ジョ）女（本音ヂョ）（ニン）人仁（眞）（二字）任妊（侵）（二字）及忍認（以上本音ジン）

（ホ）晡（哺）餔（晡）痛遣精蒲餔餔（餔）（以上）圃（浦）補哺歩捕輔脯布甫餔敷抪（俗音チ）簠（ホ）娘膚摸謨膜模莫（以上）墓慕暮嫫姥募暮簿鉾母姆戊牡拇（ホウ）蓬茂豊（以上）峯蜂封逢縫烽縫（以上）朋棚鵬（以上）褒不坏（以上）鳳奉俸棒棒（ホウ）夢（二字同音）贔（以上）丰（冬）邦（東）謀倖牟鉾葺（以上）剖瓢茄表貿冒（ホク）北（ホク）墨木沐卜扑（撲に同じ）僕樸牧睦濮蝶穆繆（別音（ホッ）弗拂（二字本音フツ）（ホウ）復孚悖（二字別音ハイ）勃（ホン）奔（奔に同じ）翻（本音（二字）蕃（本音ハン）（ボン）盆（元）（二字）梵凡（別音ハン）

【ヘ】（イ篦ノ俗）兵平評（呉音ヒ）苹坪枰并（以上俗）停婷津軿屏瓶鮃（同じ）二字（以上）丙柄炳病
敝幣弊蔽斃聘陛蜌變辨閉併餅跰乘（ヘイ）皿米袂臍（ベツ）魔杓（別音シ）儐標
瓢瓢標飄漂驃剽擰（以上）標裱俵表憑脅豹（本音ヘウ）貓描苗錨（以上）廟
庙（同じ）二字眇渺藐緲秒妙（別音メウ）杪秒（ベキ）癖壁僻璧擗劈霹甓避擗擘闢碧避（本音ヒ）
（ベキ）泊霹覓（ベツ）秘蔑（別音ヒツ）（ベツ別）蔑瞥鼈鱉憋出鷩（ベン）遍
篇扁偏編蝙蝙駢胼（以上）砭（俗）偏遍（同じ）二字編匾變返貶返片変（ベン）鞭便鞭（三
先）弁晃免俛勉兔（本音エン）卞忭抃辨瓣辦瓣（二字本音ベン）汚眄梘
【ホ】（ト都途塗徒）居圖称（俗）啚茶（俗）（以上）土塔肚賭槝杜兎苑盧渡鍍吐敦妒（同じ）二字
斗蚪陡（三字本音トウ）（ド奴孥駑怒弩（俗）（以上）努怒弩度（トウ東通涷（二字）多疼形髪（上以
冬）登蹬鐙鐙（二字）藤籐謄螣膝（以上）頭投偸兜菟蝓鍮（以上）悉（本音シツ）蝳
凍棟桶痛煮統等踏磴瓮膝寳透豆逗飩闘陡蚪斗（ドウ同）桐筒（箭に桐同じ）恫侗銅峒
童僮曈瞳艟（以上）螼（虹俗）動働慟胴洞（トク）瀆櫝黷督得徳特式匿篤禿瀆

【ト】櫝（トク）讀（讀）櫝毒獨（トツ）咄訥柮鈯凸突揬肭（トン）豚呑屯豚敦燉（以
上）遁沌遯頓（俗）（ドン）曇壇（二字別）貪（以上）飩鈍嫩（ナン）
【ナ】チ池坻堪馳知蜘蜘癡痴（二字）笞鮐態箪趁簇縒縒遅（以上）雉豸耻（別音
チヨ）薙祉（俗）（音）施地稚稺（二字）智補致軽緻値置瞬（テ）尼持治（三
字）峙痔恥賦特（チク）竹筑蓄逐筑蹙（別音ン）（テク）舳軸恤（以上）
昵暱（チヤ茶（標の俗字）（音ダ）（チヤウ）張長倀腸（以上）脹帳漲（以上）
場（二字）丈仗杖（三字本音チヤウ）定錠錠（三字本音テイ）（チヤク）著（著の俗字）（別音チヨ）
廚（同じ）躕（以上）仲（チユウ）中忠衷沖（以上）仲蚰注炷（三字本音シユ）杜駐住（三字
本音（テウ）躊儔疇躊稠綢惆（以上）晝丑紂肘酎宙胄鑄（本音シユ）簡（テウ）
【ツ】狃（俗音）（チユン）椿迍屯（別音（以上）（チヨ）潴豬樗儲（チツ）
躇除猪（俗字）（以上）箸楮著佇貯楮（字）紵杼宁（チヨ）藷（俗）（二字）女（チヨウ）帋（俗）鐵
憃（以上）家塚寵（チヨウ）（呉音）穉穉（三字）（チヨク）蔵蓄筑（俗）（テン）

陳珍琛（眞以上）砧碪二字同じ 椹沈（侵以上）朕鴆鴎枕酖鎮賃趁 （デン）塵（眞）陣

【リ】リ）犁 犂同じに 釐鸝黧 以上三字レイ又齊韻別音 罹驪離梨 棃同じに 藜蘺籬璃醨縭漓犛 別音キ 狸釐螭

麗（支以上）里俚理邐利痢莉蜊詈莅李吏履裏莉 別音レイ （リウ）流劉騮鶹瑠勠留榴旒

謬遛劉鷚（尤以上）柳溜霤罶 （リユウ）隆窿癃（東以上） （リフ）立笠粒 （リヨ）閭廬驢二字

俗音ロ 臚櫚（魚以上）梠旅侶呂膂慮膟 （リヨウ）龍（冬）陵凌綾菱崚稜棱楞（蒸以上） （リ

ヤウ）涼 凉は俗字 良粮量糧 糧同じに粱 梁（陽以上）兩倆輛亮魎諒掠 別音リヤク 緉領 別音レイ （リ

ヨク）力仂朸綠淥錄 別音ロク （リク）六陸戮勠蓼 別音リウ 僇 （リツ）律栗慄篥立笠 二字本音

リフ （リヤク）略掠 別音リヤウ （リン）鄰 隣同じに 倫麟鱗掄輪綸鯩燐璘淪轔粼驎磷嶙（以上

眞）霖臨林痳琳淋（侵以上）廩稟 別音ヒン 吝悋藺躪躙 同じ二字 凜

【ル】ルイ）纍縲 同じ二字 羸（支以上）纇壘藟誄淚泪 同じ二字 唳 別音レイ

【ヲ】ヲ）汙汚洿 同じ三字 芋杇嗚惡（虞以上）隖塢 同じ二字 （ヲウ）翁（東二字）漚歐鷗謳摳甌嘔（尤以上）

毆漚甕蓊 （ヲク）屋 （ヲツ）乙 本音イツ 膃 （ヲン）溫恩轀蘊薀 二字同じ別音ウン（元以上）音 別音イン

（佳）穤

【ワ】ワ）和窩渦 別音クワ 倭 別音ヰ（歌以上）話 本音クワイ （ワイ）隈偎（灰二字）淮 本音クワイ又音ヱ（佳）矮煨猥

荷 （ワク）或惑 二字本音コク （ワン）灣彎（刪二字）剜（寒）綰腕椀碗盌 以上三字同じ 惋剜

【カ】カ）河哥伽迦歌謌呵訶苛柯茄荷枷珂何軻訶（歌以上）加葭家迦豭鰕痂跏瑕瘕

葭笳枷珈嘉遐（麻以上）佳（佳）架駕賀可砢舸坷哿嫁稼假暇蝦賈 本音コ 價稼斝夏廈下

鏵箇个 （ガ）娥鵝蛾哦莪俄峩（歌以上）衙芽衙呀枒（麻以上）我餓雅訝 （カイ）階堦鮭楷

揩皆偕諧喈鞋 俗音アイ（佳以上）磑開皚（灰三字）澥獬蟹解廨磕海界瀣廨价疥懈誡戒屆

芥薤隘鎧改械介罣枴喙乂刈芟 （ガイ）街崖涯骸駭荄（佳以上）孩獃劾該（灰以上）駭害

蓋塏亥賅愷効欬駭慨愾漑概礙碍 （カウ）江矼扛降杠腔缸釭悾洚（江以上）郊嚆鮫

膠肴筊烋殽唬淆爻茭咬嶠哮敲數 俗音ケウ 交轇姣佼（肴以上）高篙蒿膏皐羔翺皞尻槹

餻櫜（豪以上）岡綱亢吭行頏航剛 俗音カウ 香昂鋼康糠杭（陽以上）阬迒桁庚行秔耕蘅羹賡

衡亨鏗硜更硜（庚以上）耗 別音モウ 港項講巷鬨絳狡絞巧窖校效斆孝較 別音カク 昊鎬考拷

稟皓縞稿好梟顥顱浩誥告（別音）靠擢覺（二字別音カク）狡鉸幸耿硬梗硬綆更背抗酔
猫硫慷忱（同じ）（ガウ豪毫濠嚎）蒸（ジョウ）奨竈鷲敖號聲嗷鰲（以上俗）傲（カフ峡夾
笑狹頬（以上俗）閣（ケフ）閤鴿蛤閘楪合溘盍嗑蓋磕匈甲袷狎匣洽恰（カク）角横慤
較確碻閣郝駱恪格客涸（俗音コ）南客革駱骼膈嚇搭赫嚇隔殼擱核號鶴鷲覺（ガク）嶽樂（別音學堊郭鶚鰐萼愕諤蝁額嶺岳噩（愕に同じ）（カッ）褐竭渴喝割匂葛
楊曷暍磕靸顏鞨刖猾憂曝瞎黠轄滑鴾（二字別音コッ）（ガツ）枡鶻（同じ）（カン）褰韓肝
幹榦看（二字同じ）奸刊竿（別音）玕乾（別音ケン）于（以上）慳（別音ケン）間閒鵰姦鵰閑躉（以上）堪部坩龕
憨函甘戡酣醋柑（以上）函嵌緘監鹹成械（成に同じ）（上）叶早稈宰侃汗肝漢翰閑限（呉音ゲン）悍
扞衍幹緋（呉音ケン）艦簡東澗諫撼憾窗坎垳瞰感敢菌眼啗嚮憾憨喊陷鑑（ガン）顏
（劒含（意）函巖銜（成に同じ）（上）岸眼雁贋顔峯豻軒
（ヨ）余予好譽舁輿旗璵餘與（歟に同じ）（魚）（以上）漁與豫揩預（ヨウ）踊邕容蓉傭
慵鎔蓉蓉鏞庸蓉蓉唯榕溶鰫璦（冬）（以上）蝋鷹膺懿（蒸）（以上）臃擁甬蛹勇（別音ユウ）

（涌踊用（以上八字ユウ）沃欲慾浴昱燠奥粟弋（呉音ク）
鬱（ウツ）勿他（佗宅舵駝詑（以上）橐（別音タク）拓（茶（様の俗字別音ヤ）俗音サ）
（タク）馲（駝）鼉（駝）沱迩（拏に同じ）（麻）（上）蹅（支）那（慶）娜哪朶妥打情兌（呉音ダイ）儒繻（タ
イ）堆台駘鮐胎跆槌鎚捶（別音ス）苔薹頽隤靆（灰）（上）體（替）滯薹（呉音テイ）蛍結詰
待怠餒伯痴等（別音トウ）殆迨倍除對態戴耐碓倍瑇黛愆退速貸様黛擡玳埭蒼帶腿
太法（ダは俗音）（ダイ）臺儓靆（灰）（上）題醍（二字呉音テイ）乃代大（別音ナイ）第（二字呉音テイ）奈（楽に
同じ）（タウ）撞幢憧（江）（二字）唐塘螗湯蹚襠鐺（別音當）螳瑭鏜鎕蟷（陽）（以上）蹬撐撑（俗字）（以上）抵
（別音ティ）梃（以上）濤檮陶鼗咷綯逃淘鞉桃茢刀條叨忉滔挑（別音テウ）弢（以上）啕
（二字）盜稻島搗黛儔籌晝宕陽到倒套悼踏（別音タク）罩擣禱討櫂濯（別音踏）鑿棹
闘韣（タウ）幢（江）（二字）堂棠（陽）（二字）瞪螳（庚）（二字）猛撓（二字）（俗音ドウ）道導慅碭
闘（タク）啄琢啅到琢涿擢卓倬踔拓託度（別音）棗豚魄（別音）擇摘（別音テキ）謫磔
闘濁（タク）啄琢啅到琢涿擢卓倬踔拓託度（別音）棗豚魄（別音）擇摘（別音テキ）謫磔
拆坼宅澤（タク）濁諾擢（タツ）闥達狚踏撻褐獺（タツ）撻奪妲怛靼脫（タン）

【ン】【ッ】

澹鄲彈豎搏管丹鼈單（別音ゼン）彈薄歎（以上衆）單源曇聒刻疲探貪酰耽吠曇擔鐔儋潭
譚蝮（以上蛇）誕袒短但坦蛋綻家且疸贋姑憚鍛炭茫暗（以上同じ）脇湊毯淡嚢擔澹（同じ）
（ダン）難（別音ナン）灘墳檀擅團（以上）南（別音ナン）男楠（二字同じ）喃（以上同じ）煖（暖に同じ）媛暖歸檀
（別音ガン）憚（憚に同じ）靆懇

レイ 令伶囹鴒靈靈（二字同じ）櫺蠕醴齡聆寧創苓鈴零玲給鈴（以上）棗
黎璃（別音）騨鸝黧（以上三字又以上別音リ）齊（又）禮醴隷儷厲勠礪冷厲癘蠣瀝
領（別音ヤウ）例戾鯉澧唳另（レウ）僚繚撩料燎遼寥聊寮鐐嘹（以上）瞭療蓼（別音）
了綟（レフ）叢獵躐（レキ）礫厲櫪靂櫟靂櫪靂（レッ）捋（別音）烈裂洌冽（二字
別音レイ）列劣（レン）連漣憐聯蓮（以上）廉簾薕斂檢奩（以上）斂（俗音レン）錬練鍊戀連棟
殮鈆澁變擸

ソ 江宜超蹤梳且狙蛆疽硃硫（混以下本以上）鼠狙薥酥甦（阿に祖籠徂（以上）
礎楚鼠組詛（二字本阼祖聡浙塑錯（別音）胙組素措粗厝莋阻詛訴醋（ソウ）聰聰

駿櫻叢惣匆崇祖鬚（以上）宗法悰琮凍鬆淞（以上）窓牕（窗に同じ）江（以上）僧綜嬉曾層曾
曾嶒（以上）捜漿（二字本（二字）総逐棲宋綜甑洩致叟瘦漱嗽走奏輳嗽擻腹傯傯
（二字同じ）贈（ゾウ）憎増（二字）贈（ソク）嗽（別音）俗速足束促卿息悃則測塞側卽炮仄廁
（本音セキ）昃（ソク）簇鏃嚇嘱（本音シ）粟賊績（ソッ）卒倅猝捽率（ソン）村尊（樽に同じ）蹲
鱒孫猻蕞存（以上）忖巽遜噂損寸（俗音スン）

ツ（本音（慶）本音（真））津（ソン）都（本音（慶）本音（真））頭（本音（尤））（ツキ）追鎚（別音以上）槌（二字
（以上）鎚墜槌（椎に同じ）墜對（本音（別音）錘（ツウ）通（痛）痛（二字本音トウ）
（以上）鎚墜槌（椎に同じ）墜對（本音（別音）錘（ツウ）通（痛）痛（二字本音トウ）
（本音）（ネイ）寧（二字同じ）嚀嚀（以上）濘（以上五字）（ネウ）饒（別音）鐃（本音）
尿嬝嫋溺（四字本）（ネッ）熱（本音）熱涅捏（三字本）（ネン）年然（本音（二字）拈黏（二字）
粘餅念鮎唸鮎（以上九字本音テン）
ナ 那（慶）奈（本音）（ナイ）乃（二字本音ダイ）（ナウ）囊（腦に同じ）惱腦（以上本音ダウ）（ナフ）納（本音
（ナッ）捺（本音）（ナン）難（本音ダン）（慶）男南楠諵（以上本音ダン）（慶）喃喊（以上本音ダン）喃喊（二字同じ）

【ラ】(ラ)灑羸螺蘿羅儸邏欏曬騾(以上歌)倮嬴邏覶　(ライ)雷駭來徠萊礨瑠鐳擂(以上灰)
儡蕾纇頪瀨癩酹賚纇禮(別音レイ)耒礌礨磊壨　(ラウ)瀧(江)牢撈醪勞(以上豪)螂浪郎筤
蜋榔稂琅踉硠鋃(以上陽)老潦朗　(ラフ)臘蠟鑞擸拉(俗音ラツ)　(ラク)犖駱樂(別音ガク)格(別音
カク)酪珞絡烙落　(ラツ)埒捋剌辣糲(別音レイ)　(ラン)瀾巒欗鸞蘭襴鑾闌欒攔(以上寒)爛
(删)嵐婪藍籃襤(以上覃)卵爛亂覽纜濫擥欖懶孄(二字同じ)
【ム】(ム)無(別音ブ)矛(尤)謀牟(三字本音ボウ)(以上尤)務霧武鵡(四字本音ブ)夢(本音ボウ)梦(俗字ノ夢)
【ウ】(ウ)烏雩吁吁盱竽盂于迂紆汙(汚に同じ 二字別音チ)(以上虞)芋宇羽雨禹煦傴隖塢(三字本音チ)右
有(二字本音イウ)　(ウツ)欝蔚(別音ヰ)　(ウン)雲耘云芸蘊(薀に同じ)紜氳篔(別音エン)沄熅緼(以上文)運
暈惲薀鄆慍
【ヰ】(ヰ)爲帷維唯惟遺(三字音ユヰ)委萎逶痿(以上支)闈威韓韋違圍葳(以上微)胃蝟渭藯鮪葦
煒韙偉謂緯畏慰熨蔚尉(三字別音ウツ)彙暐位餧　(ヰキ)棫緎(二字本音ヨク)　(ヰン)匀筠(二字眞)
韻(韵に同じ)尹胤允狁隕殞

【ノ】(ノウ)農儂膿濃醲秾襛(四字本音ヂヨウ)(以上冬)能(蒸)
【オ】(オ)於淤(二字魚)瘀飫　(オク)億臆憶薏檍
【ク】(ク)區軀驅嶇瞿衢氍駒鴝劬枸吁(別音ウ)蚼(以上虞)句呴煦蒟苦(別音コ)咻(別音キウ)踽齲齵
(別音ロウ)栩詡矩懼窶(別音ロウ)屨(別音ル)　(グ)喁(別音ギヨウ)(冬)虞愚俱(三字虞)具颶懼　(グウ)隅
嵎禺(三字虞)遇寓偶(本音グウ以下)耦藕(二字本音ゴウ)　(クツ)屈窟堀掘詘　(クワ)窠窩渦濄蝸過訛
禾韓鍋戈科和濄堝囮媧(以上歌)媧騧驊蝸胯誇(俗音コ)夸姱譁華瓜緺花樺(以上麻)蜾輠
顆裹課菓貨夥禍果寡跨踝胯(別音コ)化華卦　(グワ)囮訛(二字歌)瓦臥畫(本音クワク)　(ク
ワイ)灰魁詼傀槐槐瑰回恢廻洄佪嵬虺瘣匯(以上灰)淮(俗音ワイ)懷乖(以上佳)悔晦賄(別音ワイ)
隗噲駃瞶怪悔艪蕢話詿快壞獪滙磈塊闠穢濊薉誨繢匯潰澮繪會儈檜獪膾繪
[illegible]　(グワイ)外　(クワウ)皇黄(二字本音ワウ)徨隍潢媓、媓蝗凰晄湟遑篁簧光荒徨煌慌
(以上陽)黌宏紘閎觥肓轟訇横(本音ワウ)嶸璜鍠喤(以上庚)幌晃廣壙礦(別音クワウ)纊曠滉礦獷
(クワク)虢馘畫劃摑獲砉玃鑊蠖矍擭攫攉矱蒦钁彍臒廓霍藿郭槨　(クワツ)

活鵠括筈闊聒豁刮滑猾聒（グヮツ）月（本音ゲツ）（クヮン）關寰関闔鰥寰癘還環鐶錻擐漫患（以上）観（懽通皆）観讙莞棺冠統完桓沈紈官信寛（以上）鰥款館鶤盥薍喚管遄悾鐶癨煥奐換貫瀇喚宦慣串勸緩卉巻（本音ケン）篠（クヮン）頑（陸）童紈丸剜（以上）玩翫賢願（クヮン）嘽君轂勳助（同じ字）薫蕈裙憲纒醺（以上）揮訓

（グン）軍（二字）郡

（ヤ）耶（耶に同じ）鈶椰（揶に同じ）（以上）野夜冶射（別音シャ又セキ）也鵺（ヤウ）陽暘洋羊佯徉痒楊揚颺場瘍（陽に同じ）（以上）養瀁恙様漾（ヤク）約躍薬葯淪爺厄戻（二字本同じ）阨益役（二字本音エキ）（ユ）麻蟆（麻に同じ）（二字）靡摩魔（以上）馬（麻て本音バ）（マイ）埋（俚）霾枚（二字）邁昧味瑁毎妹（埋以下凡て本音バイ）米（本音マウ）毛（二字）盲（虞）網罔孟猛亳惘蟒莽耗（毛以下凡て本音バウ）（マク）膜（別音幕）（二字本音バク）（マツ）末沫抹秣（四字本音バツ）（マン）曼謾漫鰻饅鏝墁瞞（以上）慢蔓滿懣蹣縵幔媚（曼以下凡て本音バン）

（ケイ）奎攣（二字同じ）渓（二字同じ）畦閨磎難鶏（二字同じ）蹊（携に通ず）徯（徯に通ず）稽（徯に同じ）睽笄（以上）京

兄鎣（勁に同じ）警（擎に同じ）荊莖瓊輕傾繁磬卿鯨（以上）扃（垌に同じ）形刑經硎型鉶蛵褧馨
駉熒（青に同じ）（以上）啓（蛵に同じ）蛵堅勁掲啀磬聲稽計恵慧（蛵に同じ）繫係繼境脛蛵警景敬
徼慶勁竟到竟（境に同じ）契薊鏡逕競（二字同じ）同（桐に同じ）洞桂挂（掛に同じ）罫（別音ケイ）烓（莖に同じ）（ケイ）兢倪
猊鯢睨（以上）迎（兵に同じ）葬藝晲（蛵に同じ）則（別音ゲキ）隙　ケウ喬橋蟜鼻僑趫驕徼嬌蹻
蕎矯（驕に同じ）獻枌（以上）殺（別音（キ）曉窯嬌叫皎徼（別音ケイ）竅（ケウ）僥堯翹蟯曉（以上）（ケフ）夾峽狭筴（四字本音カフ）頬協叶（同上）恊（挟に同じ）鋏俠脅筴（別音キフ）英怯劫郟（ケフ）業鄴（ゲキ）暁給戟屐劇逆（別音ヤク）覡鵊喫（俗音ケキ）撃檄激閤經郤（別音キヤク）
血（本音キヨク）（ケン）厥闕蹶蟨蹶訐揭（別音ケイ）橛蕨（別音カツ）蹶蟨獗橛血傑挈擷訣結
觧纈蕨玦鈌決鴃絜誦鴂（ゲツ）月刖孑蕨蟨蘖臬闕鴃習濕嚥（ケン）乾（別音カン）涓鵑拳肩賢幵妍蜎褰楗牽研娟捐（別音ケン）虔寒倦嬛鍵
蛵堅蜎縣翾甄（別音ケン）鵳鶤鰎（以上）喧（暄に同じ）萱掀鍵軒堰淺（別音ケン）諼（諠に同じ）憲（蜎に同じ）譴（嬛に同じ）
蒹縑笘黔（別音ケン）鹼（以上）囮囑昳峴犬蜆憂遣塞濕顯晛見眷遣卷絹硯瞼檢憲倦

検剣験狷労蹇繭綱覓睨繭件欠次険雑癪垣憲幡建健犍慈獻（別音献同上俗字）

（ケン妥弦舷蛇（以上）源原沉統虹毫言嫌（以上）厳（感）泛産諺街暗被現儼懸喰阮愿願（俗音ゲ減限（二字本讖眩）

【コ】（コ芙芙扶峡鉄珠獗跌学挙桿蜉學殍俘桿郭巫荷符跗飛膚祇（別音駁舗（以上）不浮（二字本二字音ヒョウ充）府父腑訃箭俯剖（別音ホウ釜斧駙鮒肘赴仆賻怖訃付傅附腦弛頼（別音テウ賦布普負富阜婦缶覆（別音フク無蕪母誣（以上）鹿撫舞嫵侮恤武膃鷲鵞鵝（二字本務霧（二字別音ホム）（コウ風楓濕（三字）封（本音ホウ）颯（コク伏福蔵服幅複輻覆（別音フク副腹復沢腹蝮逼復伏愎艀腸蝠偏匐（コッ勿弗佛拂沸艀蒻塀（本音ヒ紘蔵鰾（コッ佛物（コン哀墳濆貧（別音ビン焚棼枌芬紛雰汾賁幀轅（以上）蚡憤粉吻刎糞（コン文蚊分聞紋（以上）蚤（俗音汝問

【ヨ】（ヨ湖胡孤姑狐鴫姑沽厚宰呼酤刳盍弧鉦朔瑚糊醐壺罟孤鉦朔瑚乎枯呱鈷徫（以上）済戸帖古殺焼雇殿估詰貰誇估蟲罟鼓戸琥窩帖扈庫痴跨袴故固錮涸

涸絡胯顧暦（コ裏吾娯顆梧（以上）午伍五迕護誤寤護捂丘晤忤互忤悟晤語（同御（三字本後（本音コウ）虹公工鴻蚣功攻空（俗音箜紅烘洪訌悾倥（以上）釭（冬溝侯猴喉篌韓篝鉤句駒拘（以上）肱薨弘恒興（本音キ姮（俗同ヨウ）（以上）礼演哄貰后堠控慥閧狗口垢苟蔻寇觳媾靦喉扣詬遘購構耆叩後厚逅乗鈎候肯（本音キョ）（コク克告（別音カウ酷梏篤剋刻黒谷國斛哭穀穀穀或惑（二字俗音ロク）（コク獄（本音ケキ極（本音キ）（コッ骨忽惚笏鶻滑椛乾（二字俗音クツ）汨窟堀（コッ兀杌杭軌（コン坤昏昆閫閤餛餫魂悃艮婚褌髡渾（以上）混闇壼蘇慳很墾懇掴褒焜艮渾困恨閫（コン堰（元権（本音ケン（先）

【エ】（エイ英褒瑩塋瀅嬰嬴營瑩攖纓纓扇褒盈縈蠑瓔纓（以上）映濯癭臀鍔穎檜泄（洩同じ）咽瞳鋭曳洩脊叡痙（エウ姚鷂腰謡傜妖夭瑤遙繇揺么徼嬰瑤銚桃要（邀（以上）窈宵杳暻耀燿窯幼（本音イウ）（エフ葉靨（別音エン）褒曄燁混（別音イフ）厭釜（別音テウ）（エキ盒易蜴亦奕弈液掖腋繹懌（別音トク）疫役繹（俗音エッ閲悦鋭抉

（別音ケツ）〔エン〕蜿蜒・蜒蚰・嚥蓬・鉛遷・延縁・焉蔓・鋋煙・燕縁・沿捐・悁娟（俗音ケン）淵・煙那（以上）俯鹽炎滝（檐に同じ）閻閻醃厭（別音以上）宴宴・演展・厭魘・捩掩・剡褰・蔫

餡奄・弇・衍崦・俺鹽・鮨（同じ）灩・偃・堰・蝘・匾・嚥

〔テイ〕低・氐・邸・祇・提・緹・鍵・梯・啼・唎（同じ）綈・綈・鵜・蹄（同じ）稊・蔕・蔕（同じ）堤・蔕（別音以上）

（ダイ以上）棣・貞・楨・禎・呈・程・裎・酲・蝿（以上）亭・停・廷・庭・丁・仃・汀・釘・町・廳・聽・霆・蜓・碇・椗

打・妊（別音以上）底・邸・弟・第・遞・鍗・剃・悌・帝・諦・睇（別音）・鄭・遑・頂・酊・鼎・挺・梃・定・錠・綻・醴・打（別音）

（ダ抵・替・遞・薙（音二字別）逮・滯・遞・彖・棣・遞・遞・聘（音俗）滯・釘・訂・偵（デイ）泥・醴（二字）・綿・（アウ）潮・朝・鼂・窕・鯛・鯛・晢・跳・銚・挑・調・超・趒・雕・琱・軺・銚・刁・調・迢・佻・銚・吻・調・膨（以上）・超・鳥・鈎

頬・跳・鞭・弔・兆・眺・掉・蔦・寵（別音）・（デウ）條・鰷（二字）・嫋・溺・鳥・嘲・尿・（テキ）狄・荻・迭・敵・滴

鏑・摘・適・笛・迪・的・擲・郷・倜・靦・剔・惕・踢・滌・踢・翟（別音）・糴・糴・趯・（デキ）溺・蛻・（テツ）哲・徹・撤

撤・轍・綴・啜・掇・輟・鐵・垤・姪・蛭・蟄・昳・跌・帙・咥・迭・蹩（別音）・咥・（デツ）湿・涅（二字別）・（テン）天・

塡・顛・巔・蹎・纏・躔・闐・遭・癲・横・癲・迪（以上）・添・甜・恬・靦・佔・簟・沾（別音以上）・簟・展・典・槙・鵄

奠・殄・靦・淀・簟・轄・悉・諂・店・點・玷・磌・輾・趁（三字本）（デン）田・佃・畋・鈿・億（以上）・甸・殿・電・癲

（俗音ン）

（ア）阿・痾・婀（同じ）・婬（以上）・鴉・蛙・啞・極・哇・娃・洼・窪・丫・鴉（以上）・亜・婭・（アイ）哀（二字）・挨

唉（二字）・愛・曖・靄・藹・靄・靄・噯・靄（以上）・鴉・秧・央・殃・泱（以上）・鴦・鴦・坳

凹・拗（音三字）・快・鞅・鉞・盎・溫・蝹・奥（俗音）・隩・澳・澳・澳・（アク）惡（別音）・握・渥・喔・幄・（アツ）遏・斡・頞・闇・靼・壓（ホ音）・（アン）安・鞍（二字）・菴（俗）・庵・菴

（ニ字）・諳・闇・暗・拿（以上）・鞍・鵪・唵・暗・闇

（サ）磋・蹉・瘥・嵯・磋・蓑・棲・裟・莎・瑳・嵯・楼（同じ）・鬆・娑・楼・蘇・娑（別音）・（以上）・鬆・嗟・蓑・蓑（別音）・紗

叉・茬・査・紗・些・鯊・茶（ホ音以上）・釵・叉（二字本）・鑼・項・乍・鮓・詐・作・徴（同じ）・唆・蹉・左・佐

（ザ）座・座・挫・錐・脞・剉（ホ音以下）・（サイ）才・裁・載・崔・鯳・摧・災（同じ）・催・摧・嘬・歳・歳・歳（以上）・豺・儕・齋・又（別音）・柴（以上）・犀・妻・西（三字本以上）・載・宰・棗・鼻・債・漬・采・紵・賽（別音）・顋・纔・纔（以上）・豺・儕・齋・又（別音）・柴（以上）・犀・妻・西（三字本以上）・載・宰・棗・鼻・債・漬・采・紵・賽（別音）

砦・帋・皆・鐵・再・彩・淬・碎・贅・酒・緋・賽・菜・採・細・蔡・切・祭・際・瘵・蔀・窘・蔑（俗音）・（サイ）劑（来）

罪在（サウ）雙鐘艘慢淙窓窗同二字（江以上）桑霜倉滄搶蹌搶槍蒼莊裝相シヤウ別音廂
箱湘緗シヤウ二字別音創喪傖鏘騶鶬孀鷞鸘俗鷞字の妝粧俗字は（陽以上）爭錚鎗箏諍（庚以上）曹漕
操遭騷搔臊繅糟槽螬嘈蠐慒（豪以上）巢摘抓梢筲蛸弰鞘勦轈（肴以上）早阜草艸同二字
顙愴壯葬髒搊同創に爪笊蚤掃埽棗嫂竈噪躁藻燥譟稍想諍爽奭同二字（ザウ）藏
贓（陽二字）臟造慥糙象像シヤウ二字本音（サフ）卅三十に同じ匝帀同二字颯サツ俗音霎セフ別音插歃唼扱
錚箑唶啜雜ザツ俗音笮キフ別音（サク）朔斮捉嗽槊數ス別音齪咋怍作柞索錯酢栅愬策
冊俗音サツ冊に同じ簀舴幘筴迮嘖岝筰窄削頤鑿（サツ）剎殺察蔡札茁薩撮拶刷煞殺に同じ
鍛（ザツ）雜サフ本音（サン）山訕刪潸（刪以上）三驂簪シン別音蠶毿參シン別音參毿（覃以上）鑽
攢珊酸跚姍戔餐狻（寒以上）芟衫杉（咸三字）散繖產鏟盞棧剗粲璨燦算篹簒鑽贊讚纘
疝蒜潛暑喒慘醮懺撰セン別音傘（ザン）殘（寒）慙（覃）攙饞鑱鑱嶄劖讒（咸以上）斬暫懺
槧セン本音

闓（キ）碕觭埼奇岐逵基蘄淇朞期姬耆麒夔肌鮨鬐窺騎飢嘻嬉羈攜其規葵綦欹

箕萁綦祺祁禧虧危睢スヰ別音熙祇岐熹僖棊同祺に旗畸剞欹馗麾鼇リ別音麒龜騤（上以支）
畿沂祈旂希稀晞揮暉輝機璣譏饑歸徽欷璣豨暈圻頎磯（微以上）虺クワイ別音（音、灰）已
癸紀起喜宄跪軌企揆枳杞綺几簋鬼虺卉豈氣諱饑曁貴棄器洎曁屓跬冀驥季
悸記屺忌芑芰庋机甎匭寄愧媿同二字宄曁气愾カイ別音歸槻詭毀饋櫃匱汽濞喟剕
欳覬屭企蟣跂（ギ）宜岐嶷義曦犧疑儀沂涯ガイ別音戲（支以上）巍（微）蟻技議義僞誼戲
蟣蛩同二字妓擬毅魏（キツ）吉詰橘乞吃迄汔屹ギツ本音訖喫クキ本音拮（ギツ）乾肸
（キク）菊匊掬鞠麴麯畜チク別音（キユウ）宮穹窮躬弓蒻芎（東以上）（キウ）丘龜キ別音仇
逑貅鳩虯同虬に蚯求麻咻ク別音捄裘毬球璆樛樛休髎鵂鬏赳（尤以上）廐舅畜チク別音鯨
疚咎救韭糗柩舊臼玖灸九久朽糾究嗅（キフ）仍歙吸汲給笈ケフ別音級翕及急闇
泣（ギウ）牛（尤）（ギフ）岌（キヤク）却脚噱屩蹻（ギヤク）謔瘧虐逆ケキ本音（キヨ）
虛墟居嘘歔醵蘧裾袪車（シヤ別音）据磲璩蘧胠琚渠呿遽（漁以上）踞莒去據遽詎拒許舉
秬筥杵俗音シヨ本音キヨ炬巨鉅詎粔距櫸莒（ギヨ）魚漁齬ゴ別音衙ガ別音（魚以上）圄敔御語

禦圉（キョウ）邛㑯蛩蛬胸恭供恟銎共凶洶龔跫（冬以上）矜輿兢（蒸三字）拱恐蛩兕

（ギョウ）𡋯喁顒（冬三字）凝（蒸）（キャウ）鄉疆羌姜狂恇僵薑繮筐鄺匡強彊（陽以上）饗怳

仰亨襁滰晛嚮向（俗音カウ）響杏況竟境鏡競獍（竟以下本音ケイ）（キョク）殛艴亟極局跼昂

旭曲棘閾（ギョク）玉項嶷（別音ギ）獄（俗音ゴク）（キン）囷嚮筠巾鈞均（眞以上）斤芹圻昕㯹

筋欣勤懃慬蘄（文以上）今禽擒欽歆禁涔檎芩衾衿襟琴金黔（侵以上）近菌窘緊覲儘

瑾堇僅謹噤錦㷑靳釿巹堇槿（ギン）嚚銀根齗誾狺（眞以上）吟唫（二字同じ）崟淦（侵以上）听

愁

【ユ】（ユ）臾腴諛愉歈闟瘉揄逾揄萸褕瑜俞窬渝輸（本音シュ）覦毹蝓踰覦庾（虞以上）油（尤）黝

諭愈喩谿裕（俗音ユウ）柚（本音イウ）（ユキ）唯惟遺誰（四字本音ヰ）【ユウ】雄熊融（東三字）勇（本音ヨウ）

【メ】（メイ）迷（本音ベイ）（齊）名盟鳴明（庚以上）溟瞑螟銘瞑（別音メン）冥（以上本音ベイ）（青以上）茗酩名眛（メ

ウ）苗貓（二字本音ベウ）（蕭）妙（メツ）滅（本音ベツ）（メン）綿（緜に同じ）棉（先）面麪緬沔免沔麪（以上本音ベン）

【ミ】（ミ）咪魅（二字本音ビ）（ミツ）密蜜樒（以上本音ビツ）（ミャク）脈（本音バク 脈に同じ）（ミン）眠（本音ベン）（先）

民岷閩（以上本音ビン）（眞以上）憫愍（二字本音ビン）

【シ】（シ）支枝之芝斯凘澌氏祇秖（二字同じ）菑淄師凿獅鰤鴟雌肢脂甆妻屍厮思詩籽覗

訾貲嗤咨諮（二字同じ）鎡覗司祠尸詞辭（二字同じ）辞疵玼梔蓍茨粢資緣危匙篩瓷貲緇施

蓰差私孜偲嬉絁錙輜鷀鴟鮨仔（支以上）子市士史使止仕始旨指齒豕死視址咫翅

豉紙砥舐嗜四駟泗諡至軹時涘沚屺巳姊胔屎趾俟恃揣侈抵祀呰秭梓弛恣次

寺侍（三字俗音ジ）晋只枳伺笥翩飼字牸（二字俗音ジ）賓厠刺是（俗音ゼ）駛肆此紫眥觜泚贊㼚

鷙熾幟莀滓矢耜屣徙志識熾試積漬芷示誌痣賜梓豕眡弑荽（ジ）時塒鰣嗞兒

鷥慈辭瓷磁茲而洒鮞耏髭滋貳（支以上）爾邇姒餌蒔兕駬耳痔璽珥峙似邇寺牸字

侍膩事二自剸時恃孳咡珥（シュウ）終螽衆柊（東三字）宗（本音ソウ）（冬）衆（シュウ）戎充

絨（東三字）從縱（二字本音ショウ）（冬）銃（シウ）湫洲州秋鰍酋犫鷲鰌溲囚愁蒐酬羞楸萩

舟鞦收周脩修啾泗售（尤以上）鏽銹（二字同じ）袖岫驟甃秀琇臭醜就鷲僦酒守狩呪祝（別音

シュ）手首懺皺受授繡綬帶壽鑄（ジウ）柔揉蹂（尤三字）獸猱糅（シフ）葉襲葺戢澁

【シ】

澀二字拾習褶揖別音緝輯隰濕湿二字執音シツ（シフ）十什汁以上本入音シフ、（シュク）夙粛宿縮祝倏叔寂淑驀蹴蹙（シュツ）出率別音リツ蟀率（シュツ）通求術恤鉥戌怵（シヨ）庶胥書唯諸儲薯紓且苴沮咀置狙趄俎組詛疏蔬続三字別音ソク以上所處杵庶渚嶼暑煮黍嘉緒千ヨ（ジョ）如徐茹洳舒蛉鋤樹以上序叙助恕絮汝漵（ショウ）蚣憔別音蹤松鏡鍾鬆ソウ別音鉦春衝從縱二字別音ユウ蹤淞慵俗音ヨウ憧別音以上（ジュウ）膝陞昇承稱秤二字同じ勝升僧以上頌誦踵證悚棟竦聳腫種二字俗音シュ訟（ジョウ）丞烝乗蒸仍剰縄拯以上冗剰芿認別音（ショク）職蜀觸燭屬囑續三字別音ゾク昇仄矢音式色二字別音シキ食別音ショク蝕飾拭軾稙嘱織別音シキ識又シキ（ジョク）辱褥蓐溽海縟（シュン）春逡竣峻悛別音シン以上（ジュン）舜瞬蕣俊浚駿陖偶旬洵荀詢恂栒淳諄鶉尊蹲二字同じ純遵循馴以上順盾楯準閏徇殉潤隼筍二字同じ（シン）真宸津秦莘辰申神臣甄別音晋唇賑呻娠蓁榛薪紳伸振蓁深身親蠢以上沈別音心岑碪參滲

箴忱森蔘簪針鍼二字同じ深侵駸寖以上審諗瞚寝沁賑震展襯襯稹縝慎遍信哂晋縉搢診疹軫賑吮胤識別音シキ滲枕別音チン浸（シン）仁人二字（ジン）壬任尋荵掛以上忍靱認訊壌仞迅恁甚紅荏慈及靱腎妊稔別音ネン（シッ）七濕執二字本音シフ漆膝悉栗叱質室蟄桎失疾嫉悉ヒツ誌（ジツ）日實駅袒（シャ）車本音ヤキョ碑沙砂二字同じ舎閻縦奢幡混定剛臏職織別音シキ識又シキ（ジョク）辱褥蓐溽海縟（シュン）春逡竣峻悛別音シン以上（ジュン）舜瞬蕣俊浚駿陖偶旬洵荀詢恂栒淳諄鶉尊蹲二字同じ純遵循馴以上順盾楯準閏徇殉潤隼筍二字同じ（シン）真宸津秦莘辰申神臣甄別音晋唇賑呻娠蓁榛薪紳伸振蓁深身親蠢以上沈別音心岑碪參滲

箴忱森蔘簪針鍼二字同じ深侵駸寖以上審諗瞚寝沁賑震展襯襯稹縝慎遍信哂晋縉搢診疹軫賑吮胤識別音シキ滲枕別音チン浸（シン）仁人二字（ジン）壬任尋荵掛以上忍靱認訊壌仞迅恁甚紅荏慈及靱腎妊稔別音ネン（シッ）七濕執二字本音シフ漆膝悉栗叱質室蟄桎失疾嫉悉ヒツ誌（ジツ）日實駅袒（シャ）車本音ヤキョ碑沙砂二字同じ舎閻縦奢幡以上（シャ）邪耶に蛇別音二字麝麝紗叡遮斜賒捨以上舎捨射謝榭姐赭柘炙卸者（ジャ）邪耶に蛇別音二字麝若別音ジャク（シキ）式識色食以上ショクの矣音（シチ）七質二字本音シツ（シャク）庫隙廂廠湘湘祥細昌漳祥商蹌鏘將蹌將將裝倡同じ娼章慞傷翔嘗廠償詳樟薔裳漿艙箱檣牀璋祥細昌彰相粧鏘猖關以上笙晶鉦庚以上障倘菖上性姓証省四字本音セイ象墻掌像賞奨橡槳敞裝愴廠匠瘴唱鯧菖（ジャウ）蘢襄驤攘穣常以上情城成三字本音セイ庚以上壌譲淨上狀（シャク）杓（意勺）灼妁酌爵雀嚼研綽鑠繳借尺釋赤嘖責昔惜石錫（シャク）弱嫋別音デフ翡雀鵲省寂本音セキ（シュ）洙邾侏須鬚銖珠朱銖殊株蛛蝓隃音ユ二字俗榧蒟趣音スウ以上取主聚本音シュ首酒手守狩三字俗音セキ以下本

本音シウ 膠（ジュ需儒繻濡嚅襦醐膚（別音以上）樹澍戍豎豎児授受綬壽錄（児以下本音ル）

【ヒ】

㊀エイ永詠泳影衛（エッ粤越鉞喝褐曰咽閼二字別音エン圓淵（三字）袁猿猨（同じ二字轅援爰媛園宛寃鴛蜿帥（別音琬遠怨婉院

㊁ヒ皮陂邳蚍脾疲比悲鞞批（本音ヘイ誹碑披卑神境陣庳（以上）丕扉妃騑腓飛肥淝誹棑非菲霏緋（以上）彼被婢裨畀斐匪榧棐翡避譬費疲庇妣庇紕否痞証慈闢泌祕佛沸鼻（別音俾破屁朏芾牝（別音ヒン祕（同上字）罷（俗字）狒（フツ）

【ヒ】

洲榲嵎嶼廠醜廢蔽（同上）廢刪澁（以上）徹撤邂（以上）廨偏鼻編弁未味魅（別音四字）

【ヒ】

痺尾匿糒（ヒウ彪浮（俗音ヒョウ）蟚（以上）（ヒツ筆匹鴯（別音ヒツ）華輝

必苾蓽（ヒツ審蜜（二字別音ミツ）（ヒョウ永憑（以上）（ヒャウ評兵（二字）瓶屏萍（三字）

【ヒ】

青評以下本音ヘイ）病鉼（二字本（ヒョク遍（ヒン儐濱嬪賓嚬貧蘋頻顰（三字）

【ヒ】

瀕（以上）牝（別音ヒン）贇品稟（別字ヒン）殯（ビン憂縉珉罠閩岷（以上）岡敏愍惘斎（本音ホン）

【ヒ】

髀（二字同じ）脾（別音ブン）

【ヒ】

㊀モ模摸膜（音ボ三字本（三字）茂母（二字本音ボウ）（モウ濛濛曚曚朦艨艨曹（二字本以上）

【ヒ】

蠓（モク木沐目苜默牧墓（以上本音ボク）（モン門捫（二字本（二字）紋文聞（三字本（三字）

【モ】

問悶（二字本音ブン）

【モ】

㊀セイ西棲栖（同じ二字妻（呉音サイ）萋淒悽凄棲（齊蟶臍（別音嘶（別音斉（別音又）

【セ】

㊁セイ（以上）正晴甥蜻聲情（別音ショウ）生甥誠征菁牲蜻鉦清成旌晶（別音精猩（別音ショウ）

【セ】

檉騁圀（俗字以上）星醒腥青惺（以上）勢濟請薺洗砌霽世筮悉逝製制製誓貰井寧

【セ】

省眚醒靖整姓政倩聖性晟靚（セイ税策贅納脆脆（俗字說（別音セツ）蟬（別音ゼイ）清芮洟（セ

【セ】

ウ瀟瀟焦蕉憔鷦噍譙宵霄蛸痩哨綃遭消銷招椒昭簫鍬（二字燒韶偬鷦硝劍（以上）梢筲蛸鞘銷鈔抄（同じ二字銷（俗音サウ）（梢以下本（肴）上）肖悄鍫嘯紹沼詔劭召小少嘯

【セ】

笑醮枌（本音照愀（別音ショウ）（別音ショク）蠾（別音シャク）（本音笊（サウ）（セウ堯橈饒蟯（以上）遶繞擾繚

【セ】

（セク爻憂涉渉摺慴襲歙睫捷健踥嗶懾接攝（二字俗音セツ）裰（俗音シウ）厭（セキ石夕

【スン】

赤痣尺積隻蹟寂績碩責惜斥鳥潟暫浙斬斯錫感螯沙寥炙蔀撫瞬釋藉籍借腊
剌磧跖鯽脊迹蹐射〔セッ節屑折切竊浙拙說設接攝二字本音セフ〕晢裂辞錫漯繰細
泄雪悦緊獣劇截〔ゼッ舌絶綺慥〔セン千阡泉川仙牲蟬鮮涎痙詮煎⑤鐫旋
茎饅鮠船鞦韆筌舩旃宣詮践戔先癬蘚箋餞鮮蠢同じ二字遷穿專悛獮屬踐芋涙
誕剗〔以上〕占螫贍膳僉銛尖臧纖苦籤審沾同じ二字潜詹還愡痣摶〔以上〕棧洗顯癬選
撰選同じ二字餞踐糲跣翦剪同じ二字辭舛輾閘淺煎倩戦擅羨繕箭饌線扇鳰煽葬賤蒨
陝閃染顫揃謝倩騒遡喘韋颙簡〔ゼン然前全單禪塡塵同じ先〕腎精漸〔以上〕
善繕膳禦別音壇葬冉蝮蠣同じ二字懊憾別音ダン二字同じ輾軟俗音ナン
〔スキ〕陲椄雛淚倕朧睢接錐霊衰綏雖吹炊雛釜匪誰〔以上支〕水革翠粋醉帥睡
彗捶錘遂隧鬚邃隼鑿穂同じ二字崇出別音ツ頽穂悴〔スキ隋随支〕瑞揣惴贅
蕊備〔スウ崇嵩菘二字次〔以上〕弧雛趨鄒樞以上本音シュ本音以上〕騶〔スン寸本音ソン駿本音シュン
本音〔以上〕數

兩韻一班

【ソン】

〔尊〕○音ソン、あつまる、聚也、根源、五穀の総名、皆平用
○音ソン、荘子に大塊噫気、又おごり、是等は仄用〔樽〕○木の名、椅の
偏●坐発、〔遵〕○音ソン、循也、自得の貌〔支韻〕斜行の貌〔歌韻〕
〔嗼〕○音ソン、黙聲、〔鱒〕○音ソン、魚名、〔遵〕○音ソン、循也、
●音ソン、酔貌、〔罇〕○音ソン、酒器、〔鐏〕○音ソン、矛戟の下頭、
〔蹲〕○音ソン、踞也、〔鱒〕○音ソン、魚名、〔鷷〕○音ソン、鳥名、
〔撙〕○音ソン、節也、〔鱒〕○音ソン、魚名、〔鷷〕○音ソン、鳥名、
〔鱒〕○音ソン、魚名、〔鷷〕○音ソン、鳥名、

【ソン】

〔存〕○音ソン、在也、〔村〕○音ソン、聚落、〔蹲〕○音ソン、踞也、
〔屯〕○音ソン、聚也、〔邨〕○音ソン、聚落、〔豚〕○音ソン、小豕、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔孫〕○音ソン、子之子、〔飱〕○音ソン、夕食、
〔猻〕○音ソン、獣名、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【ソン】

〔損〕○音ソン、減也、〔蓀〕○音ソン、香草、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【ソン】

〔巽〕○音ソン、順也、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【ソン】

〔遜〕○音ソン、順也、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【ソン】

〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【ソン】

〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、
〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、〔飧〕○音ソン、夕食、

【犀】○かき、びやうぶ、鹿屋、鹿山 犀●しりぞく、おそる、犀營
【杓】○音ヘウ、斗の柄、え、斗杓、星杓(北斗星の柄に當る星)●音シヤク 杓杓、さかづきの類
駒亭【標】○うつ、落也、さしまねく、●おつ、詩經に摽有梅
【扁】○こぶれ、扁舟●門戸に文を署す、扁額
【剽】ぐ、かろし、剽輕
瓜標、【熛】ほのほ
【漂】○ただよふ、うかぶ、漂流●さらす
【嫖】○かるし、嫖姚
【飄】○つむじかぜ、飄風、飄然
【瓢】○ひさご、瓢簞
【票】○とぶ火、又手形、證票
【標】○しるし、めじるし、標準
【鑣】○くつわ
【苗】○なへ、苗裔、苗字
【描】○ゑがく、描寫
【貓】○ねこ
【朝】○あした、朝夕、●まみゆ、朝廷
【潮】○うしほ、潮汐
【超】○こゆ、超越
【昭】○あきらか、昭昭
【招】○まねく、招來
【焦】○こがす、焦土
【蕉】○ばせを
【樵】○きこり
【譙】○せむ
【憔】○やつる、憔悴
【韶】○舜の樂の名
【消】○きゆ、消息
【宵】○よひ
【霄】○そら、雲霄
【蕭】○よもぎ、蕭條
【簫】○ふえ
【瀟】○瀟湘
【驕】○おごる、驕慢
【嬌】○なまめかし
【橋】○はし
【喬】○たかし、喬木
【僑】○やどる
【翹】○つまだつ
【腰】○こし
【妖】○あやし、妖怪
【要】○もとむ●かなめ
【邀】○むかふ
【謠】○うたふ、歌謠
【遙】○はるか
【搖】○うごく
【瑤】○たま
【窯】○かま
【姚】○うつくし
【燒】○やく
【饒】○ゆたか
【嬈】○わづらはす
【堯】○たかし、帝堯

【絃】○いと、ことのを
【弦】○ゆみづる、上弦下弦
【舷】○ふなばた
【賢】○かしこし、聖賢
【玄】○くろし、玄妙
【懸】○かく、かかる、懸隔
【眩】○めくるめく
【鉉】○かなへのみみ
【泫】○したたる
【田】○た、田畑
【畋】○かり
【鈿】○かんざし、花鈿
【填】○うづむ
【闐】○みつ
【年】○とし
【蓮】○はちす
【憐】○あはれむ
【連】○つらなる
【漣】○さざなみ
【聯】○つらぬ
【千】○ち、かず
【阡】○みち
【仟】○千人の長
【芊】○しげる
【牽】○ひく
【堅】○かたし
【肩】○かた
【眠】○ねむる
【綿】○わた
【棉】○きわた
【前】○まへ
【錢】○ぜに
【先】○さき、先生
【箋】○ふだ
【煎】○いる
【濺】○そそぐ
【仙】○やまびと、仙人
【鮮】○あざやか
【天】○あめ、そら
【邊】○ほとり
【編】○あむ
【篇】○ふみ、篇章
【偏】○かたよる
【翩】○ひるがへる、翩翩
【便】○やすし
【船】○ふね
【泉】○いづみ
【川】○かは
【穿】○うがつ
【傳】○つたふ
【專】○もつぱら
【圓】○まどか
【員】○かず
【緣】○えにし、ふち
【捐】○すつ
【鳶】○とび
【沿】○そふ
【鉛】○なまり
【然】○しかり
【燃】○もゆ
【全】○まつたし
【詮】○ときあかす
【筌】○うへ
【銓】○はかる
【拳】○こぶし
【權】○はかり、權力
【泉】○いづみ

【過】○すぐ、よぎる、經過(仄用の例多し) ●あやまち、改過、謝過(平用を許さず) 【和】(ヤ)の部【和】を看よ 【華】○繁華、平聲、[illegible] 太華(山の名)仄用 其他姓 【傳】○婦傳(美貌) ●大傳(怪異) 【惡】[illegible]

●○ 通用 【觀】○みる、遊觀、壯觀、樓觀、千秋觀 ●みもの 【差】○くさ、席を作るべし ●[illegible] 笑ふ貌 【冠】○かんむり、掛冠、沐猴冠 ●かしら、冠天下、詞賦冠 【沒】○水の流る[illegible]

附三韻 通用

【磨】○みがく、つく、琢磨 ●[illegible] 【麼】いなや、又猶[illegible] 【漫】○通用、汗漫、[illegible] 【曼】○[illegible] 【紛】[illegible]

○●通用 【稽】○かんがふ、稽首 【繁】○通用 【輕】○輕重、一毛輕 【覓】[illegible] 【徹】○音テツ、さかひ、透徹 【嗷】○[illegible]

まつ、待也 【彼】(カ)の部 【研】○みがく、研磨、研 【紙】○●通用 【讒】○くる、[illegible] 【漢】[illegible]

通【枚】みが[illegible] 【頭】○●通用 【開】○ひらく、きこゆ 【不】○音フウ、いなや、否也 【潤】○うるほふ [illegible]

用 【分】○分割、寸分 【酉】[illegible] 【天】○うつくし、桃天夭、天折 【句】○音コウ、鉤に同じ 【興】○音コウ、おこす、中興 [illegible]

(カ)の部 身分、大義名分 【簡】○[illegible] 天●わかじに 又地名●音ク 【緣】○もとむ 【稠】○[illegible]

赤壤 【湧】○すべて、に[illegible] 【要】○[illegible] 【填】○[illegible] 塡壑 【轍】[illegible]

興、昔ゴウ、[illegible] 【挺】○[illegible] ○國名、地名 【漲】○とどまる、たす、 【厭】○[illegible]

んど、咽喉●音エン むせぶ、鳴咽 【靡】○[illegible] 【涓】○[illegible] しづむ、沒滯 【厭】[illegible]

作る●音オウ、おさふ、壓也 【縮】○[illegible] 【稷】○[illegible] 【寘】○通用 【頽】○通用 【丁】○(成語)○音テイ、十干の一 [illegible]

丁、兵丁、又 穰衣 ひとへ 【泥】○どろ、又蟲の名、爾雅に水を得れば活き、水を失へば泥の如しと云ふ 【挑】○ひく、うつ、琵琶行

あたる(當韻) 是也 杜甫の句に先拚一飲醉如泥と、此泥は即ち蟲也 ●なづむ 拘泥 に挑撥とは、いどむ 挑戰

戲、目挑 【調】○ととのふ、やはらぐ、調和 ●みつぎ、租調 【徂】[illegible] ○まとふ、十萬纏、纏綿 【細】○[illegible]

調笑 ●みつぎ、租調、ふし、しらべ、曲調、聲調 【紐】○(平仄通用) 【細】[illegible]

用 【傳】○つたふ、傳說、傳聞、傳道 ●史傳、傳記(名詞) 【塡】○音テン、[illegible] 【戲】○[illegible] 【阿】[illegible]

通 ●(動詞) 【唾】○[illegible] 【嘷】○嘷嘷、小兒の語を言ふ 【敢】○[illegible] 【三】○みつ、[illegible]

俗女の名、おはなのお如し 【唸】○[illegible] 【叉】[illegible] 【差】[illegible]

らず 【相】○みる、あひ、共也、相思 【從】○[illegible] 【此】○[illegible] 【狗】○[illegible]

○たつ、きる、剪裁、裁縫 【截】○[illegible] 【要】○[illegible] 【檜】○やり、ほこ [illegible]

【裁】 たす、さだむ、制裁、裁定 【鮫】○[illegible] 【操】○とる、あやつる、操持 [illegible]

○のる(動詞平用) 【飽】○[illegible] 【騎】○[illegible]

車騎(名詞仄用) 【稅】○[illegible]

挂(光韻)○音キン、ひびきれ(裹韻) 荘子の不龜手之藥 【歉】○[illegible] 【匡】○[illegible] 【吐】○[illegible]

口を張る也 【醴】○[illegible] 【共】○供給、供奉 【從】○[illegible] 【強】○[illegible]

●通用 【禁】○たふ、堪に同じ ●いましむ、禁止 【吟】○[illegible] 【氏】○[illegible] 【唯】○[illegible]

暴強、屈強 【禁】 ●[illegible] 【吟】○くちずさむ、吟咏、呻吟 【氏】○月氏、閼氏 【聰】○[illegible]

よし、剛強、千夫強 ●なく、鳴也 ●うぢ、氏族、姓氏 【司】○[illegible] 【思】○おもふ 【此】○[illegible]

【瞑】○くらし、瞑眩 【眠】○目を合はす也 【吟】[illegible]

●ゆふべ、夕也 【假】○[illegible] 字に通ず●いとま [illegible]

シ、きず、玷也、●音セイ、あ 【從】○[illegible] 【縱】○たて、縱横 【徙】○しがふ、より

さやか、詩經に玼兮玼兮其翟 ふ●通用 しひまゝ、放縱 通用 【從】(仄用)服從(動詞)

從僕、從(名詞)、居〔且〕○助辭、かつ、しばらく、苟且〔苴〕（ソ）の部を看よ〔沮〕○水名又姓、慍止〔狙〕伺也、又猿屬也○通用〔茹〕○通用〔迦〕○通用〔勝〕○たゆ、たふ、堪

也、かつ、全勝、又名勝、形勝〔稱〕○輕重をはかる也、又揚ぐる也、到今稱、世所稱、かなふ、名實稱〔萁〕○草坐する貌、あつまる貌○通用、仄用〔烝〕○火氣のぼる貌、蒸に同じ、魂を招き火を懸くる也

〔乘〕○のる、駕也、乘也、又上乘(佛法)千乘、驂乘(名詞)〔沈〕○音チン、しづむ、浮沈、升沈、音シン、姓也〔娠〕○通用〔振〕○通用〔祲〕○通用〔障〕○通用〔將〕○將軍、まさに、

もつて等平用、將、將軍の○、大將、無雙將、紫髯將、大將の注意すべし)〔攘〕○ぬすむ、○通用〔穰〕○通用〔懦〕○通用〔擾〕〔援〕○ひく、引也、たすく、助也〔媛〕○通用〔宛〕○地名

宛縣、大宛國、あたかも、宛然相似〔蜿〕○通用〔智〕○水なき井戸〔虖〕地名、有虖、ひくし、○通用、仄用〔謙〕○通用〔比〕○卑比、比鄰、比較、比周〔菲〕○草しげれる貌、

又、かうばし、芳菲、春物、菲才、うすし、薄也〔瀰〕○大水の貌○通用〔泯〕つく、盡也、又水の貌○通用〔膜〕（ホ）を看よ〔齊〕○ととのふ、ひとし、整也、等也、調和したる食味又は藥味

〔擠〕○通用〔澌〕○水のとくる聲(支韻)水の散ず、つく、盡也、澌滅〔劑〕○賣買の證券、其長きを質と云ひ、短きを劑と云ふ、調藥の劑、仄用〔正〕○正月、正朔、たゞし、正邪〔盛〕○もる、

物を器にもる也、さかん、盛衰〔圊〕○かはや、まじはる、青庚兩韻通用〔醒〕○通用〔饒〕○通用〔煎〕○汁あるを干す也、又にる、煮也、甲煎(香料の名)〔先〕○さき、まづ、さきんず〔禪〕

○坐禪、封禪〔旋〕○かへる、うつる、旋、かへる、又仄用〔剸〕細かに割く也○通用〔占〕○うらなふ、卜、しむ、占、占領〔潛〕○水の伏流也、ひそむ○通用〔苫〕草にて屋を覆ふ也○通用

〔痃〕○癇疾也、○通用〔孱〕○よわし、おとる、先刪兩韻通用〔漸〕○流れ入る也、書經に東漸于海、やうやく、漸次〔潺〕○水の流る貌又は聲、先刪兩韻通用〔吹〕○ふく、吹噓、鼓吹〔淺〕

○音スヰ、こさめ、小雨也、音ダイ、にごる〔鍾〕（ソ）の部を看よ〔睢〕○地名、睢陽、恣睢(平仄通用)

清詩七絕

丙申春就醫秦淮寓丁家水閣浹兩月臨行作　錢牧齋

苑外楊花待暮潮。隔溪桃葉限紅橋。夕陽凝望春如水。丁字簾前是六朝。

金陵雜題

金陵惜別感秋螢。執手前期發易星。君去我歸分贈處。勞勞亭是短長亭。

柳絮詞　吳梅村

送郎莫唱楊柳枝。生憎一簇更千絲。柳枝只解綰離別。柳絮隨郎無盡時。

汴梁

鴉夷擊鼓走夷門。銅馬西來風雨昏。此地信陵曾養士。只今誰解救王孫。

感舊

赤闌橋護上陽花。翠羽彫籠語絳紗。羨殺江州白司馬。月明亭畔聽琵琶。

送友人出塞

魚海蕭條萬里霜。西風一哭斷人腸。勸君休望合支塞。木葉山頭是故鄉。

虞　兮

千夫辟易楚重瞳。仁謹居然百戰中。博得美人心肯死。項王此處是英雄。

題王石谷畫

初冬景物未蕭條。紅葉青山色尙嬌。一幅天然圖畫裏。維摩僧寺破山橋。

寄米吉士　　宋　荔裳

故人爲政近如何。渺渺孤帆隔濁河。試向月波樓上望。浮雲不似客愁多。

江南曲

白蘋吹滿莫愁湖。輕雨輕寒午有無。翡翠籠檻春不捲。數枝楊柳已藏烏。

七夕泊塘隔畫橋。月明樓上美人簫。十年不到傷心地。夢逐長江來往潮。

春日田家

野田黃雀自爲群。山叟相過話雹間。夜半飯牛呼婦起。明朝種樹是春分。

船中見獵犬感作

秋水蘆花一片明。難同鷹隼共功名。檣邊飽飯垂頭睡。也似英雄俾肉生。

書西山丁道人壁　　施　愚　山

山豆花開野菊秋。隔林茅屋是丹邱。客來問道惟指手。隨意清泉繞屋流。

飲鄭扶九宅

碧雲江樹傍階生。谷口山堂繫雹情。二十年前花下酒。白頭相見又同傾。

題畫

老鍬何心泛五湖。山根時繫釣船孤。白雲忽向前溪過。屋角青山半有無。

北征口號

黃何北去好山稀。路傍龜鳧見翠微。最是峰峰經雨後。芙蓉洗出白雲飛。

危棧飛流萬仞山。戍樓遙指暮雲間。西風忽送瀟瀟雨。滿路槍花出故關。

驪山懷古

空城幾曲水潺潺。松柏凄凉滿翠山。輦道無人秋草合。年年鳴咽到人間。

灞橋寄內

長樂坡前雨似塵。少陵原上淚沾巾。灞橋雨岸千條柳。送盡東西渡水人。

太華終南萬里遙。西來無處不魂消。閨中若問金錢卜。秋雨秋風過灞橋。

秦中凱歌

天上黃河萬里來。巨靈高擎抱雲臺。遙看丞相行營過。日射潼關四扇開。

彭門懷古

風雨彭城意黯然。東堂松竹沒寒煙。讓濱老去東坡死。銅狄摩挲五百年。

謁文忠烈公祠

精神如破貝州時。晚節猶能動四夷。天道不同韓富沒。姓名留冠黨人碑。

送胡嵩孫赴長沙

青草湖邊秋水長。黃陵廟口暮烟蒼。布帆安穩西風裏。一路看山到岳陽。

高郵雨泊

寒雨秦郵夜泊船。南湖新漲水連天。風流不見秦淮海。寂寞人間五百年。

再過露筋祠

翠羽明璫尚儼然。湖雲祠樹碧於烟。行人繫纜月初墮。門外野風開白遶。

瓜步道上作

佛狸祠邊苦竹叢。符融山外桂枝風。隔江暮雨秋千里。愁聽西風白下鐘。

夜雨題寒山寺寄西樵禮吉二首

日暮東塘正落潮。孤蓬泊處雨蕭蕭。疎鐘夜火寒山寺。記過吳楓第幾橋。

楓葉蕭條水驛空。離居千里悵難同。十年舊約江南夢。獨聽寒山半夜鐘。

大風渡江

鬟翠流丹杳靄間。　銀濤雪浪急潺湲。　布帆十尺如飛鳥。　臥看金陵兩岸山。

直州絕句

江干多是釣人居。　柳陌菱塘一帶疎。　好是日斜風定後。　半江紅樹賣鱸魚。

冶春絕句

紅橋飛跨水當中。　一字闌干九曲紅。　日午畫船橋下過。　衣香人影太匆匆。

東風花事到江城。　早有人家喚賣餳。　他日相思忘不得。　平山堂下五清明。

登州雜詩　趙秋谷

不見蓑輪礙碧灣。　連天紫電掣黃金。　想應堅我重來約。　千點蒼山萬里心。

晴夜發舟

殘雨將寒泥客程。　好風送夜似多情。　布帆載得楊州月。　直到江頭看放晴。

社日

濃花有信煩風伯。　微雨何緣乞社公。　莫上高樓看柳色。　春愁多在暮山中。

再集筮翁寓齋廨曲壘韻　尤西堂

繡箔初傳月鏡開。　霓裳迭奏紫雲廻。　桃花似向春風笑。　昨日劉郎今又來。

佳人二八顏如玉。　熱客翁翬笑載張。　誰知燕趙胭脂口。　惱殺吳兒木石膺。

日本

日出天子號至尊。　五畿七道附庸臣。　空傳歷代吾妻鏡。　大閤終歸木下人。

朝鮮

高勾驪降下勾驪。　未若朝鮮古號宜。　千里王京陳百戲。　漢城猶見漢官儀。

安南

二月常開仙艾花。　喜從勾漏覓丹砂。　伏波銅柱今何在。　祇見飛鳶墮水涯。

送孫處士默還黃山　朱竹垞

黛城客散亂鳥噪。　別業黃山路不迷。　後夜相思秋色遠。　月明三十二峯西。

天書稠疊此山亭。　往事猶傳翠輦經。　莫倚危欄頻北望。十三陵樹幾曾青。

雄州詩

滇江西下墨江流。　來雁孤亭春復秋。　十部梨園歌吹盡。　行人虛設小楊州。

同沈十二詠燕

節物驚人往事非。　愁看燕子又來歸。　春風無限傷心地。　莫近烏衣巷口飛。

酬彭師度

竹西酒市接平山。　煙下妖姬十八鬟。　留取霜紈調錦瑟。　紅橋一曲送君還。

鷺鷥湖櫂歌

春城處處起吳歌。　夾岸疎篷影翠娥。　一葉舟穿妝閣底。　傾脂河畔落花多。

題秋林放鵝圖

我在林泉汝在陰。　空山流水結知音。　一聲清唳一長嘯。　各有丹霄萬里心。

西湖雜詩

珍重遊人入畫圖。　樓臺繡錯與茵鋪。　宋家萬里中原土。　博得錢塘十頃湖。

畫羅紈扇總如雲。　細草新泥簇蝶裙。　孤憤何關兒女事。　踏青爭上岳王墳。

剩史笙歌學士禪。　倪迂楊鉄竹枝窩。　只今耆舊無新語。　風月銷沈四百年。

口占送陳中夔舍人還都　查初白

別語能多別恨新。　短橈明發指天津。　毀勤百里猶相送。　萬疊西山一故人。

淮安上船

厭聽鈴聲愛入舟。　只應沈耳向清流。　擷香夜謁淮神廟。　夢穩江南第一州。

月下渡揚子江

妙高峰下曉鐘撞。　隔岸吳船正發艭。　風露一天人擁被。　櫓枝搖夢過春江。

紅橋泛舟

十里珠簾廿四橋。　百年花月屬蕘銷。　多情愛拂遊人面。　尚有垂楊萬萬條。

發豪陰玉青蛇寺

桑邊棗下嶔崎路。　亂石堆堆數驛亭。　野草不知春意好。　燒痕三月未全青。

望　岱

一朶雲扶一朶蓮。　蓮花頂上即青天。　可能膚寸爲霖雨。　今是乾封第幾年。

雪後渡揚子江

廿里風程一霎間。　海門晴色帶潮還。　白頭浪裏參差影。　看盡江南雪後山。

題杜集後

漂泊西南且未還。　幾曾蒿目委時艱。　三重茅底牀牀漏。　突兀胸中屋萬間。

春　寒

漫脫春衣浣酒紅。　江南三月最多風。　梨花雪後酴釄雪。　人在重簾淺夢中。

贈韓丈自爲

金粟風流久絕群。　分陽今後見夫君。　梨花萬樹營生壙。　自說他時葬白雲。

歸舟江行望燕子磯作

石勢渾如掠水飛。　漁罾絕壁挂清暉。　俯江亭上何人坐。　看我扁舟望翠微。

蓮坡餞予竹間樓張燈看月

燈映迴廊月上樓。　交光特爲故人留。　空庭荇藻浮沈影。　襯出紅蓮竹外秋。

論詞絕句

美人香草本離騷。　俎豆青蓮尚未遨。　顚愛花間腸斷句。　夜般吹笛雨瀟瀟。

頭白遺民涕不禁。　補題風物在山陰。　殘蟬身世香尊興。　一片冬青冢畔心。

題介白亭

遠亭三面水如煙。　好是霏微釀雨天。

嚴海珊

滿袖蘋香將不去。　夜深輪與鷺鷥眠。

有感題泊頭壁

離人夜上滹河舟。　燕燕差池小雨天。　春盡綠楊風落絮。　淒迷七十二沽煙。

爲劉生敬敷題琴心中斷詩

枯桐掛壁澀秋苦。　蓋篋無衣飯有埃。　忍聽孤兒垂淚問。　孃何處去幾時回。

懷撲庭信都

別來風物又清和。夢遠東南路不多。一夜雨聲吹到曉。草痕青過葛峯陂。

秦淮絕句　王穀原

齊梁艷質化榛邱。掩袂離聲一夕休。敲盡殘鐘百八乳。亂雲遮斷景陽樓。

上巳日雨中重過煙雨樓

十日不出花又殘。尖風密雨作春寒。暗中似水流年逝。卻被垂楊冷眼看。

秦淮歌席既月達曙即送董會嘉入蜀

氷絲纔纔且休彈。其奈脅前蜀道難。明日酒醒君已去。秋風殘樹秣陵寒。

登琴臺亭

誰問霓裳與六么。江頭衙曉一停橈。羅裙酒漬青衫淚。拜作潯陽昨夜潮。

江行

蘆花如雪覆蘆滿。江波流盡千年事。明月白鷗都不知。

馬嵬　袁簡齋

貧唱當年長恨歌。人間亦自有銀河。石壕村裏夫妻別。淚比長生殿上多。

錢塘江懷古

江上錢王舊蹟多。我來重唱百年歌。勸王妙選能千弩。不射江潮射汴河。

山行

十里崎嶇半里平。一峯才送一峯迎。青山似繭將人裹。不信前頭有路行。

莫愁湖

澹澹春山小小舟。一湖水氣濕粧樓。六朝南北風流甚。天子無愁妓無愁。

消夏詩書扇寄阿孝廉

不著衣冠近半年。水雲深處抱花眠。平心自想能官樂。第一驕人六月天。

春日雜詩

千枝江雨萬重煙。畫出詩人得意天。山上春雲如我懶。日高猶宿翠微巔。

做元道山論詩

不相菲薄不相師。公道持倫我最知。一代正宗才力薄。望溪文集阮亭詩。

憶西湖　錢葆石

春事番番過盛年。段家橋去憶題箋。籠櫳燕子歸來雨。臺榭梅花落後煙。

王叔明一梧軒圖

涼意梢梢靜不收。阿誰卷幔假山幽。荷池漲得平橋水。落盡桐花過麥秋。

出東林六七里望廬山

連峯出雲雲半開。奔渠捲雪響春雷。雲中屈曲明如玉。都是天池頂瀉來。

題畫哭邵侍讀嗣宗

畫出癯仙大好看。行來矯矯佩珊珊。萬山雪照一輪月。著箇梅花寒不寒。

道人漫打午時鐘。香繞旛幢倚一笻。遲我瓶中擔白酒。爲君墓上種青松。

金陵雜咏　蔣藏園

豈有君臣設中興。滿城花月唱春鐙。風流略似清談後。秋艸茫茫十一陵。

題荆公集後

許國知人事本難。豺狼反噬可心寒。憐他一代斯文友。說到功名白眼看。

題王石谷畫冊

孤亭危坐意蕭然。千尺松濤響亂泉。可惜隆中臥龍子。肯將丞相換神仙。

不寫晴山寫雨山。似呵明鏡照煙鬢。人間萬象糢糊好。風馬雲車便往還。

晚望郡城鐙火

市火船鐙閃亂螢。暮雲掩墨夜冥冥。却疑身在屑霏上。俯視人間有列星。

孤山

歐蘇歎美惠勤師。方外留連我不知。却怪林逋入山淺。梅花開盡鶴歸遲。

再別雅堂　王夢樓

手把寒山一短笻。爲君指點五雲濃。會須粗了人間事。來聽僧樓半夜鐘。

煙雨樓

西水驛前春水流。小桃花下繫蘭舟。月明故國一千里。獨上嘉興煙雨樓。

晚泊西塞山即事

變滅煙雲一霎間。每愁好句過難追。近來學得便宜法。但看青山不作詩。

湘中雜興

垂楊垂柳滿長堤。海霧輕煙晚更迷。三十六灣春水綠。鷓鴣聲裏夕陽低。

丹陽口號

春潮未滿客行遲。花墮清波鳧不知。一局殘棋籠乍卷。丹陽城外雨如絲。

春山仙奕圖　趙甌北

花落空山了不知。爲他勝敗未分時。神仙已造名心斷。間氣猶爭一著棋。

香山夜歸

夜水棲烏寂不飛。露華凉欲透羅衣。玉驄亦解人良會。故踏花陰緩緩歸。

湖舫雅集

一榻風光二月春。林亭點染倍鮮妍。畫家小李將軍派。金碧山川粉黛人。

花魂欲睡隱蒼煙。重結清游異日緣。風露峭凉人半醉。滿湖燈火夜歸船。

題汝上旅壁

十二年前過汝河。曾徵紅粉唱廻波。不堪老去重來宿。還聽韋娘一曲歌。

漁夫詞　吳穀人

江湖初落山月沈。半夜繫船桐樹陰。笛裏不知何調苦。大魚人立老龍吟。

靈隱道中

一峯高處白雲低。人到雲中路已迷。衣上不禁秋色冷。猿聲喈過夕陽西。

爲家思亭題錢藥翁畫竹二首

宣武坊南夢去遲。美人風雨動相思。一枝醉竹淋漓在。如見驛翁被酒時。

經營老屋隔溪隈。賸箇貓頭記手栽。惱我竹枝歌不得。梅花深雪基門深。

江上

溫。急灘鳴。過釣臺。臨江幾戶竹扉開。楓人老作垂綸長。一樹紅衣入畫來。

題湖樓　吳澹川

一望空濛霧裏天。數聲柔櫓失漁船。日光紅裂四山碧。忽引西湖到眼前。

山塘春思

齊開畫閣倚笙歌。一樣籠檐映綺羅。底事春風欠公道。兒家門巷落花多。

篁村靜憩圖

宜煙宜雨更宜雪。未見此君面目眞。却愛月明墻上影。分明一幅管夫人。

過黃州　張船山

蜻蛉一葉獨歸舟。寒浸春衣夜水幽。我似橫江西去鶴。月明如夢過黃州。

由三分水至楠木園出巫峽

江聲蠟曲亂山開。天半濛濛萬古苔。千丈奇峰立如壁。蛟龍窟裏一帆來。

冬夜

忍寒新典鸕鷀裘。夢繞青山舊酒樓。窓裏疎燈窓外月。夜深分影照鄉愁。

醉後口占

錦衣玉帶雪中眠。醉後詩魂欲上天。十二萬年無此樂。大呼前輩李青蓮。

三十生日

鄉山竟隔五千里。人世俄來三十年。末了一身討酒債。匆匆無暇作神仙。

蒲關出塞圖

硬語盤空展大才。萬峯低首忽飛來。英雄面目詩人膽。一出長城氣象開。

劉伶墓

樽前難携向夜臺。羊車荷鍤亦堪哀。人間到處皆宜醉。況是劉伶墓下來。

望金山作　郭頻伽

江北江南幾往還。眼中浮玉不容攀。分明一幅鵝溪絹。小李將軍着色山。

宿靈鷲山家

山深時有百蟲鳴。欹枕危樓酒半醒。忽地西風催落葉。急呼燈起聽秋聲。

七星瀧口號

春來遊徧若耶溪。又向桐江一櫂移。莫怪禽言解相笑。子規啼後畫眉啼。

探梅口號

何須淺水見橫斜。冷蕊幽香自一家。渾似野夫疎嬾性。一枝臥地便開花。

絕句

沈香火冷夢初殘。便是登樓莫倚欄。簾外東風雙燕子。分明相對說春寒。

題程孟陽山水扇面酬思亭

吳郎久擅詩中畫。就我還求畫裏詩。如水春愁如帶水。分明湖上送君時。

靈芬館即事

連宵無月但微風。堦下餘花墮小紅。不是讀書燈一點。夜來閒殺好簾櫳。

桐江舟中　吳蘭雪

烟鬟低澹水風柔。夾岸春山笑不休。詩夢卅年無覓處。畫眉聲裏又嚴州。

詩龕夜話同梧門學士

松樹街前地數弓。蒼苔上砌葉堆紅。袖詩來翦寒燈看。春在風帘紙帳中。

題謝筠岩明府滇行詩草

嚴裝萬里候人催。新向雲州督餉回。馬背尋詩秋色早。碧天如水雁聲來。

夕陽山下亂流明。佳句飛來夢亦清。春草地塘同妙悟。前身可是謝宣城。

鴛脰湖詞　沈德潛

湖波起穀晚風餘。一抹殘霞畫不如。傍岸漁家盡收網。綠楊深處賣銀魚。

渡江

中流擘箭下危磯。望裏遙山入翠微。颿影猶龍衝浪出。水聲疑雨挾舟飛。

一葉輕船趁好風。金焦雙峙亂流中。船頭不怕蛟龍窟。貪看鯨波浴日紅。

文待詔畫山水

翰苑丹黃手一編。老來自合賦歸田。閑將筆墨供揮灑。管領溪山三十年。

題王二癡白雲棲圖

大痴石室幽棲處。傳是當年尚父鷹。一自畫師仙去後。白雲深閉洞門虛。

曲江春眺

杏林猶見幾株紅。唐代題名一掃空。直上慈恩高塔望。秦關百二亂雲中。

題小停雲未了畫

清世遺民有祖風。興來點筆不求工。大痴寫樹忘添葉。無限溪山未了中。

小閣松陰夕照遲。曾於竹塢弔前賢。相門袍笏皆零落。只有雲煙似往年。

秦淮雜詠

綠楊影裏撥琵琶。小隊蠻妝學內家。前代興亡誰解惜。更無人唱後庭花。

長板橋南舊酒樓。昔年曾此記觥籌。主人莫訝容顏老。已到秦淮十度遊。

贈舊歌者

誰遣何戡唱渭城。匆匆恰有遠人行。一聲乍起腸應斷。爭忍聽他第四聲。

望鵲石

道旁奇石立崔嵬。拱立如人背欲駘。七十二君封禪地。不知幾見翠華來。

紅門小憩

曉霞半紫上朝暾。對面青天界碧痕。獨向白雲高處望。萬峯翠色聚紅門。

天街坊唐蘇源明讀書處

遺址荒涼記姓盧。石林高閣問仙閭。人生要使胸襟濶。高坐天門讀異書。

玉女池

上古瑤池近翠微。青冥鸞鶴幾時歸。西峯壁月如明鏡。曾照當年舊羽衣。

望新甫山

蓮花高出白雲間。漢武仙臺未許攀。青鳥不來花落盡。更無人解說宮山。

題天門壁

元氣茫茫眼底收。芒鞵踏徧萬峰秋。題詩更與仙人約。訂取他年五嶽遊。

湖上遇雨

南峰北峰水雲起。裏湖外湖涼意生。萬荷葉上雨聲至。柔櫓一枝煙際行。

紀夢

白雲無際畫橈浮。籠捲蛾眉兩點秋。夢裡不知身是客。滿天風雨獨登樓。

贈如意館畫工

大纛高牙十萬師。征西諸將揖書遲。凌煙有閣無人上。閒殺丹青筆一枝。

水繪園雜詩

敗葉填池水不流。更無殘礎況屋樓。名園寂寞詞人老。回首人間二百秋。

將之白下留別吳門

宦興肅條欲放鷹。半生蹤跡滯江關。暫携吳苑三秋月。去看金陵六代山。

青溪聽雨

秋在闌干一曲前。蔣山凝黛石城煙。剪燈初聽金陵雨。身到江南已十年。

四更過小孤山

長風吹送彩雲間。滿耳驚濤不暫閒。高臥紅船如跨鶴。四更飛過小孤山。

浔陽曉發

廬花風急落溟濛。隱隱鐘聲積翠間。侵曉一帆江上去。臥看殘月下廬山。

隨過蓮花隄

滿身衣染妙蓮香。一路輕風送曉凉。絕似臨平山下過。荷花世界柳絲鄉。

鏡秋水榭雅集待

高秋良會易魂消。惆悵吳城四百橋。今夕相逢須盡醉。碧天如水夜吹簫。

朱蘭貞女史畫杏花燕子爲椒堂武部題

碎錦坊前見幾枝。江南二月燕來時。分明一幅泥金帖。院體丹青宮體詩。

諸名家詩話

貌襲と神似

佐藤六石

漢學が應仁天皇時代に朝鮮を經て我が國に入つて以來幾多の盛衰變遷ありとするも、恒に文化の基礎となつて居る過去が已にソウであるとすれば將來とても遽かに此基礎が崩るゝことは容易にならうと思れる、今や獨逸語や英語や佛蘭西語などが我が國に入つて跋扈するに拘らず矢張り漢學が依然として文化の基礎を爲して居るが、漸く各國の學問が入つて來るに對しては漢學の維持法も追々と困難になるかも知れぬ、ソレで自分の思ふには漢學の樣子として漢詩を鼓吹することが我々の任ずべき所であると信ず、漢詩を作らんとする者は夢ひ之に關聯する漢籍を繙かざるを得ぬことゝなる、單に詩を作ると云へば甚だ簡單の如くなれども、其の裏には漢

文學の研究といふことがドウしても連續し來るのである、作詩の一事は漢文學の盛衰に至大の關係があると謂つて宜しい。

次に詩の盛衰はドウかと云ふと、詩が現代の世の中と沒交涉になると自然衰へて了ふ、故に詩は現代の活きた題目を歌ふべきものであるといふ觀念を有つことが又必要である、現代を離れて火食的仙人の語のみを詩とするに至らば、多忙なる世人は之を見ることを欲せずして、世俗と詩とは沒交涉となるやうになる、我々詩を鼓吹せんとする者は大に心ずべきことである彼の白樂天の詩は其の詩情其の詩語共に日本人の性情に近いので我が國文に大なる感化を與へて居る、源氏物語とか狹衣日記とかいふやうなものには樂天の詩語詩情共に流溢して居る位である、今も昔も大した相違がない漢詩をして現代と沒交涉ならしめざる點より云へば白樂天の詩風は大に之を奬勵するの必要があらうと思ふ。

初學が漢詩を學ぶ心得となるべきことを一言すれば第一に貌。襲第二に神。似といふ此二ツが肝要である。貌襲とは例へば白樂天の詩を學ぶとして、先づ初は樂天の詩の形貌をマネるのである。形貌が漸く似たものが出來るやうになれば、次には樂天の詩の精神を學ぶのである。之れが所謂る神似である。已に貌襲と神似との二ツを能くしたる上は、今度は獨立して自己の形貌と精神とを發揮するにある。如何に貌襲を巧みにし神似を巧みにするも唯ソレのみにては結局他の奴隷たるを免れぬ。故に最後には獨立して自己の形貌と精神とを發揮して、一家を成す程の抱負がなければならぬ。

讀書の必要

磯野秋渚

詩を作るものは讀書が肝要である。畫家でさへ胸中書卷のない者は士氣か

ないといふではないか。嚴滄浪の一言に耕口して讀書せぬは眞に一知半解の徒で滄浪の言を善讀せぬに坐するのである。眞故を堆積せば性靈を失うて腐氣を生ず。こゝが才の運用にある所である。さりとて性靈を專らとする人でも決して讀書せずとも好いとはいはぬどちらにしても讀書せねばならぬに歸著する。讀書せぬ人は一寸鈔本位を手にして目新しい字だと思つて其の故實を調べもせず自分勝手に斯うだらうぐらゐな所でその文字を自家の機杼に借用すると忽ち途方もない失錯して大方の笑を招くことが出來る。余は人の穴を搜して自ら快とし傲然と博士ぶるにはあらねど初學の人の爲に一二見聞した事を話して參考に供するまでである。

四五年前某先生の作を見たのに香南雪北の四字を梅花の事と思つて用ゐられ麗々しく○○付にて活版になつて出てをつた。成程香といひ雪といひ梅に因緣の字ばかりでいかにも梅に適當と思はれたのも無理からぬ所な

れど其の實は大間違ひで香も雪も山の名で梅には何も關係のない字である。是れは全く頤道堂の鈔本にても一見して香南雪北前朝より剪裁したのらしいと思はれる。又元遺山や錢牧齋やの集に暈碧裁紅の字が數度見えるが是れも妬紅儷白のやうに美はしい字を作り合はせることゝ思つて用ゐ甚だしきは美人を形容するなど益々本意に遠ざかる作を見ることがある。是れは梁の簡文帝の春盤賦の字で料理の色どりを形容したのが最初である。其れで香巖山館などはこれを繪畫の彩色に活用して偶寫秋光上折枝裁紅暈碧總相宜と使つてゐるは流石に才の走つたものである。又詩天子といふ字を詩を作る天子樣と心得て江州大津の詩に弘文天皇を指した作を見たやうだ是れも甚だ失錯で詩天子は詩中の天子といふ意で王維又は王昌齡の美稱であることは唐才子傳又は海錄碎事を讀んだ人は知つてゐる是れ等は眞の一斑でホンの一寸今思ひ出ただけを申すのであるが初學の人はこれに鑒みて過ちに倣はぬやうにせねばならぬ。

初學の讀書には反り點は最も便利であるが本邦覆刻本には往々間違つた反り點を施して大に讀者を誤るものがある、それ故初學の人は詩集を讀むに解し難き所は必ず直ちに長者に教へを請はねばならぬ反り點を便りにするは甚だ危險といふべしである。玆に又一二の例を援かんに杭大宗の榕城詩話(某叢書中にあり)に黃莘田の詩を錄し夢游仙の後半に云ふ彩戀歸去文簫別。徹夜西風寫韵軒。とあるから韵軒を寫すと讀まねばならぬ何の事かトンと分らず是れは寫韵軒といつて女仙吳彩戀の住まつてゐた所につけた軒名である、吳彩戀の故事だに知つてゐたら其の不思議もないのである又張船山の絕句鈔本に濾州の後半に銜杯却愛濾州好。十指寒香給三客橙。とあるが是れでは客橙を給すと讀むべくなつてゐるが亦錯誤で給客橙は蜀の名物で橘と柚との間の一種の柑類である直讀してこそ詩の意味

が十分に解せられるではないか、反り點をつけた人の無責任驚くべしである、初學の人はこの邊に能く注意せぬと大なる誤謬が頭にしみ込みて一生とれぬやうになる云々

絕句の作法

田邊碧堂

詩は唐に至つて大成し、宋以後幾多の詩傑出たるも大抵杜甫の作法に準據し、古體五七律共に其の範圍を脫出することが出來ぬ、斯く大成したる唐詩の中に絕句のみは尙變化の餘地を有して居る、是れ何故と云へば絕句は實に詩の精華であつて又活機旺盛なる爲めである、絕句は唐以下各時代を通じて變化百出して居る、故に現代に於て尤も興趣多き詩を作らんと欲せば宜しく先づ絕句に向つて全力を傾倒すべきである。

先づ唐の絕句に就て云へば初唐は氣を主とし、中唐は意を主とし、晩唐は漸く語を巧みにした、宋は理學の盛んなりし時代として理窟を以て詩を作り自由自在に筆舌共に用ゆる底の絕句を作り出し、明は反動的に復古學で以て初唐盛唐の格調を唱へ、降つて淸朝に至つては唐宋を打つて一丸としたるものや、漸く詩餘と混じ、又考證學の餘弊に囚はれたるものが出づるやうになつた要するに性靈と云ひ、神韻と云ふも絕句はマダ〳〵變化の餘地がある、自分が斯く云ふは如何はしいが絕句では今の支那に恐るべき作家がない併し古詩に至りては考證に精しく學殖に深きこと到底彼の土の人に及ばぬ、次に日本に就て云ふも德川時代には律詩には中々上手な人も多かつたが絕句には案外名人がない、山陽の如き大先生ですら絕句は比較的巧くない、蓋し餘まり意を用ゐて研究せざりし爲めと思はる、多くの日本人は昔から絕句がすきでありながら皆研究することを忘れて出鱈目に作る風か

ある絶句は詩の精華として今に生動して居る以上人々宜しく其の才力を試むべき活題目である、故に余は詩を作らんとする人々に向つて漸く世に遠ざかるべき古詩や律よりか絶句に力を傾倒せよと望むのである。

世に傳ふる話に山陽先生が詩を學ぶ者の爲めに引用せりといふ彼の本町二丁目の絲屋の娘の例を以て絶句の作法としたることは頗る見當違ひのことではないかと思ふ、此作法に依ると轉句に至りて起句及び承句と全然關係なき事柄を挿入するのであるが是は頗る六ケ敷ことで斯樣なる作法は唐人にも見ざる所である試みに唐の絶句を把つて讀めば判る十首に一首位しか斯樣なる作法の詩は見當らぬ之に反して承句から轉句に接するこそ常法で分明に字面が接續して居るか否らざれば語は絶えても意は確かに續いて居る概して諸國諸大名的に意外の所へ轉じては居らぬ之を承接と云つて二句から三句への續き方に力を致すべき所である、初學の人は

絶句を作る場合先づ山陽先生の作法として傳はれる絲屋式に囚はれぬやう注意するが肝腎である。

余は如何にして詩を作るべきかと問ふ人ある毎に答へて云ふ先づ罫紙十枚を備へ古人の絶句中其の轉結の最も妙なりと思ふ句を抄錄し之を懷ろにし苟くも暇さへあれば此十枚に抄錄せるものを出して轉結の句を吟誦するのである則ち車上に常に之を反覆するのである、斯くて諸記するに至れば機に觸れて遠慮なく是等の句に準據して詩を作るのである、古句を剽竊せよと云ふと人は驚くかも知れぬが詩を學ぶ第一手段は巧に模倣即ち剽竊するに在る併し剽竊しても其罪跡を湮滅する如く其痕跡を無くするまで改竄推敲の工夫が肝要である、剽竊の證據が見えては社會へ顏出しが出來ぬ、鸚鵡が名鶯の聲を習ふ如く又古人の法帖を臨寫する如くに古人の句を模倣して一向差支ない、唯原句と形を同くしたり句が餘まり似る樣

では工夫が足らぬ、ドコまでも剽竊の痕跡を無くするまで推敲改竄を心掛け、古人の詩本を讀む時に好き字面を見出して改竄の材料に書抜く必要がある、彼の詩雜誌へマダ推敲改竄せぬ詩を出して痛棒を加へらるゝやうな遣方は眞の剽竊ではない、アレ等は鈍賊である、余の謂ふ剽竊はソレとは違ふ先づ古人の名句を模倣即ち剽竊して一首を作る、之れは直ぐ出して人に示すことはせずに深く仕舞込んで置く、而して暇さへあれば此詩を幾度も幾度も推敲改竄するものである、斯くする内に其の詩は剽竊を離れて別に新面目を呈するやうになる、之れが余の所謂る進歩早き作法である、人或は詩の模倣作法に驚かんも書を看よ、畫を看よ、模倣即剽竊に始まらぬものはありや、書の如きは支那人は初めは敷寫しである、畫亦然り、敷寫しが漸く熟して見寫しになり、見寫しが熟して然る後に筆意を取るといふ順序である、詩を學ぶに於て何ぞ獨り敷寫しを咎めん、唯忘るべからざるは模倣後の推敲改竄に才力を傾注する一事である。

詩を學ぶ人教ゆる人

岩溪裳川

今の詩壇は極めて不眞面目であつてソレに向つて眞面目の詩談を試みる勇氣は僕にはない、僕はマア御免蒙らう……之を開口第一の舌鋒として現代の作家に關する面白くもありお可笑くもある種々の詩談ありたるも中には今日の處公開禁物と察すべきものあり省略に從ふ……現代作家として自から許して居る先生達は先づ右の如き有樣(省略の中に在り)であるが、ソレに又是れから詩を學ばうといふ人も心得が違つて居る、僕の如きは明治九年から同十四年まで森春濤先生に就て詩を學んだが或る時のこと七律の倒正を乞うたスルト先生は一見して此對句は物になつて居らぬ

とのことであつた、ソコで僕は然らばコウ云ふ句は如何ですと別の對句を提示した所が先生ソレもイケぬと言はるゝので僕はソレでは之は如何と第二第三第四まで別の對句を提示した所が先生の云はるゝには君は其の樣に口を衝いて對句を考へ出せるのかとのことがある僕は之に答へて實は斯く數樣の對句を考へたる末其の內で最も佳なりと信ずるものを淨書して御削正を乞ひたる次第なりと云つたことがあつた、然るに近頃の詩を作る人達は對句の如きは少しく考へに餘まつてくると○○○○空白を存してドウか此處へ然るべき對句の御挿入を願ふといふやうな添削の求め振りであつて數樣の對句を考ふる如きは拔置き一樣の對句をすら片輪の儘に他の添削を求むるといふ風である、此くの如きは決して眞面目なる學び方ではない、ソレから又添削を乞はれて詩を見てやる先生達の方にも餘まり良くないことがある、ソレは外でもない少しばかり善く出來て居る詩があると、ソレに向つて初めから終りまでベタ〳〵圈點を付けてやる圈點は元と點晴法である、ソレを全部圈點にするやうでは其の內の眞の佳所には二重圈點か三重圈點を付けねばならぬやうになるかも知れぬ、春濤先生は門下生の詩に對しては決してコンナ圈點の附方などはされなかつた評語などは付けらるゝことも極めて稀れなものであつた、詩を直して貰ふ方も亦直してやる方も今は眞面目でない、實に歎息すべきことである、

詩學の方法の敎へ樣に關しては無論幾多の方法を存する譯であるが、初學のものが律詩を學ぶ方法として絕句の後對格を作り、次に同じく絕句の前對格を作り、斯くて此の後對格と前對格とを連接せしめて一首の律詩と爲す、之れが始めて律詩を稽古する時に用ゆべき一方法であらうと思ふ、初めから二聯の對句で七律ならば五十六字を綴めるといふことは困難であるが、右の如く絕句を同韻で二首作ることは左程困難でない、斯ういふ敎方

を槐南君に話した所がソレは至極面白い方法であると賛成を得たことがあつた……ナニ詩集は初學のものはドウいふものを讀むが善いか……此の事に就ては春濤先生も高青邱とか陸放翁あたりを讀むが善いなどと云はれたこともあるが僕の考へとしては各人其の好む所の集を熟讀するが善からうと思ふ、學問と見識の進むに從つて其の好む所が變遷して來る、何々を讀むが善いと敎へた所でソレは無駄である云々。

（をはり）

漢詩自在

定價金貳圓

昭和二年五月二十八日印刷
昭和五年二月十日發行
昭和八年九月十五日再版發行
昭和十年十二月廿日三版發行
昭和九年十二月十四日四版發行
昭和十六年一月廿五日五版發行
昭和十一年十一月十三日六版發行

不許複製

著者　井土靈山　東京市神田區神保町一丁目二十五番地

發行者　松浦定夫　東京市神田區美土代町二十二番地

印刷者　横山喜助　東京市神田區美土代町二十二番地

印刷所　活文舍印刷所　東京市神田區神保町二丁目二十五番地

發行所　光文館書店　振替口座東京三五三四一番　電話神田四六四一地

黑澤隆信著

俳人一茶　定價一・五〇

裝幀　小島宗一氏

發賣所發行所　東京市神田區神保町一ノ二五　光文館書店

振替口座三五三四一　電神田四六四一

中山太一著

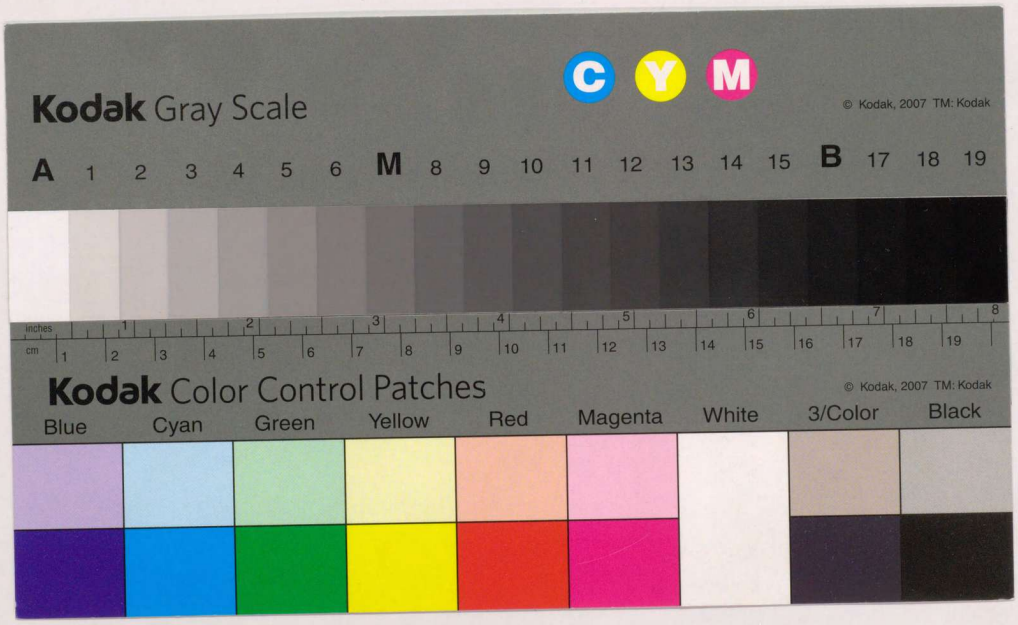
日本民族學辭典　定價三・五〇

發行所　昭和書房　發賣所　東京市神田區神保町一ノ二五　光文館書店

振替口座三五三四一　電神田四六四一

595
426

光文館版


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black